

## コケリンドウ *Gentiana squarrosa* Ledeb.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。減少傾向の著しい、小型の草地性植物である。本種が生育できるような場所自体が、著しく減少している。

### 【形態】

小型の越年生草本。茎は高さ 3～10cm、よく分枝し、基部に狭菱卵形～卵状菱形で長さ 2～4cm の根出葉がロゼット状につく。茎葉は小さく、卵形で長さ 4～10mm、対生し無柄、基部は合着して短い鞘になる。花期は 3～5 月、がく筒は長さ 4～6mm、裂片の上部は反曲し、先端は刺状となる。花冠は筒状、長さ 10～15mm、淡青色、先端は 5 裂し、裂片の間に小型の副片がある。さく果は残存する花冠の外に突き出る。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

新城(小林 63426)、豊川宝飯(芹沢 64675)、豊橋北部(小林 63463)、名古屋北部(鳥居ちゑ子 2314)。西尾からも報告されている(大原, 1971)が、裏付けとなる資料は残されていない。

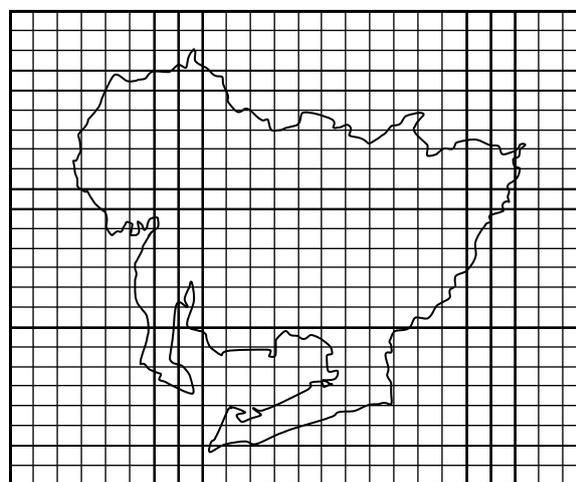
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド北部、シベリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

それぞれ小群落がある。小型の植物だけに、大型の草本が繁茂すればすぐに消滅してしまう。現在生育している場所は水田周辺の草地や河川の堤防、池の周辺など、定期的に草刈りが行われるような場所に限定されている。

### 【保全上の留意点】

生育地を、丈の低い草地状態のまま保全することが必要である。

### 【特記事項】

名古屋北部のものは根出葉が小さく、東三河のものやや異なっている。愛知県では、小型のリンドウ類として本種の他にフデリンドウとハルリンドウが生育している。このうちフデリンドウは、全国的にはそれほど少ないものではないが、県内ではかなり稀少である。ハルリンドウは、あちこちの湿地に普通に見られる。

### 【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.101. 名古屋営林局, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本 I p.219、平草本Ⅲp.30、SOS 旧版 p.70、SOS 新版 p.131,133.

ホソバツルリンドウ *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に希少なつる性の草本で、愛知県でも生育地、個体数ともに少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。茎は細く、緑色で紫色を帯びない。葉は対生し、長さ 3~8mm の柄があり、葉身は披針形、長さ 2~5cm、幅 5~10mm、先端は長くとがり、辺縁は全縁、裏面は紫色にならない。花期は 9~10 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、がく筒は長さ 1.5~2cm で 4 条の翼がある。花冠は筒状で長さ 3~3.5cm、白色で淡紫色を帯び、先は 4 裂し、裂片の間に副片はない。果実は蒴果で狭楕円形、長さ 1cm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 32193)、豊根 (小林 40011)、稲武 (小林 32418)。津具 (面ノ木峠, 芹沢 38540, 1983-10-6) で採集された標本もある。

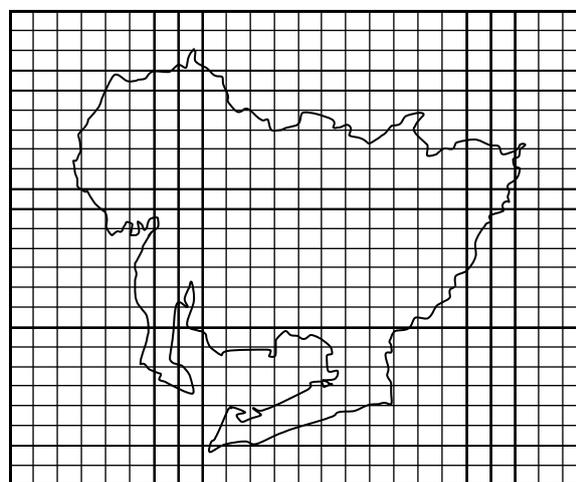
【国内の分布】

北海道、本州、四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズベク。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁や草地、明るい林内などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

もともと散発的に出現することが多い植物で、愛知県でもどの場所も個体数が少ない。拡大造林などによって減少し、現在の状態に至っているものと思われる。

【保全上の留意点】

林縁部に生育していることが多いので、林道の整備などの際には注意が必要である。

【特記事項】

葉が細く、茎葉が紫色を帯びないことで、花がなくてもツルリンドウから区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.218、平草本 III p.29、SOS 旧版 p.71、環境庁 p.330、SOS 新版 p.54,56。

## ムラサキセンブリ *Swertia pseudochinensis* H.Hara

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県でも同様の状況である。

### 【形態】

1年生または越年生の草本。茎はやや太く、暗紫色を帯び、大きいものは高さ50~70cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形、長さ2~5cm、幅2~8mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁である。花期は8~11月、花は茎の上部に円錐状につき、花冠は淡紫色で濃色の脈があり、直径2cm程度、5裂し、裂片は幅広く、長さ1~1.5cm、基部付近に2個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来南部(加藤等次 215508)、新城(芹沢 78386)、豊川宝飯(小林 40087)、豊橋北部(芹沢 64547)、田原赤羽根(芹沢 54071)、幡豆(芹沢 68933)。足助(阿摺, 井波一雄=奥山 21106, 1957-11, TNS)、足助ヨリ稲橋迄ノ間(伊藤篤太郎 s.n., 1891-10-22, TNS)で採集された標本もあり、また大原(1971)は産地として小原をあげている。尾張地方でも時折「あった」という話を聞くが、確認できる資料は残されていない。

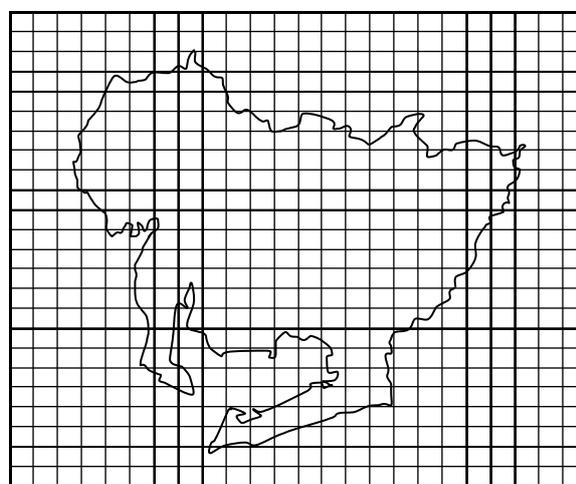
#### 【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。愛知県の現在の生育地はいずれも超塩基性岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られており、しかも遷移の進行によって本種が好んで生育する半裸地状の場所が著しく減少して、一部の場所以外では激減している。特に東三河以外で唯一の生育地である幡豆では、半裸地がほとんど消滅しており、危機的な状況である。

### 【保全上の留意点】

愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、本種を含めて多くの草地性植物の生育場所になっているが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

茎葉には、センブリと同様の苦味がある。

### 【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.101. 名古屋営林局, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本 I p.217、平草本 III p.35、SOS 旧版 p.71、環境庁 p.513.

## フナバラソウ *Cynanchum atratum* Bunge

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。草地性の植物で、愛知県では個体数が少なく、減少傾向も著しい。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立し、全体に密に毛があり、高さ 40～80cm になる。葉は対生し、1cm 程度の柄があり、葉身は楕円形～卵形、長さ 6～14cm、幅 3～8cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部は円形、辺縁は全縁、裏面は脈が隆起する。花期は 6 月、茎の上部の葉腋から出る短い総花柄の先にやや密に花をつけ、小花柄は 5～10mm、密に毛がある。花冠は濃褐紫色または緑色（アオフナバラソウ）で直径 12～14mm、5 裂する。袋果は広披針形で長さ 7～8cm、密に毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

津具（小林 37985）、稲武（日比野修 4513）、設楽西部（小林 37995、44608-アオフナバラソウ）、新城（芹沢 58520）、旭（日比野修 1869）、足助（山崎玲子 2828）、下山（長谷川朋美 416）、豊田東部（畑佐武司 3662）、額田（福岡義洋 541）。鳳来（区画不明）にもあるという（小林, 2000）。小原（北永太郎, 井波一雄 s.n., 1961-6-4, CBM70869）で採集された標本もある。尾張では現在のところ発見されていない。

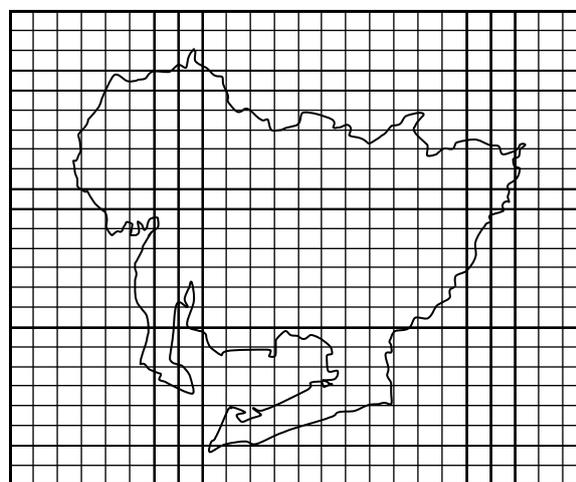
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。しばしば谷戸田周辺の里草地（いわゆるボタ）に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているが、どの場所でも群生せず、個体数は少ない。採草地の利用停止に伴う遷移の進行によって減少している。

### 【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地は、草地生植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

### 【特記事項】

和名は、果実が舟の胴体に似ているからだとされる。

### 【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.131. 愛知県, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本 I p.207、平草本Ⅲp.41、SOS 旧版 p.72.

**シタキシウ** *Stephanotis lutchuensis* Koidz. var. *japonica* (Makino)Hatus.

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性のつる植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

**【形態】**

つる性で常緑の多年生草本。茎は切ると白い乳液が出て、下部は木質となる。葉は対生し、1.5～3cmの柄があり、葉身は卵形～円状楕円形、長さ6～17cm、幅3～12cm、先端は鋭頭、基部は心形、全縁、質はやや厚いがやわらかい。花期は6月、花は葉腋から出る集散花序に2～3個つき、白色で芳香があり、花冠は12～14mmの筒部があり、その先は5裂して開出し、裂片は長さ2～2.3cmである。袋果は水平に開出し、長さ10～12cm、幅約2cmである。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

鳳来北東部(芹沢 83840)、鳳来南部(小林 49539)、豊橋北部(小林 49932)、渥美(小林 72482)。

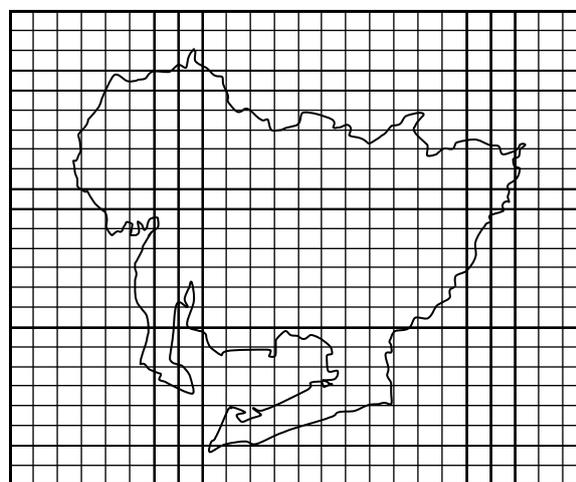
**【国内の分布】**

本州(千葉県以西の太平洋側)、四国、九州。基準変種のオキナワシタキシウ var. *lutchuensis* は、九州南部と琉球に分布する。

**【世界の分布】**

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

通常は海岸近くの林内に生育する。愛知県では、やや内陸部にも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

渥美では比較的個体数が多いが、他では少ない。湖西丘陵の静岡県側には多い。生育状態は現在のところ良好で、開発等によって生育地が破壊されなければ、このまま存続するものと思われる。

**【保全上の留意点】**

生育地の林を保全することが必要である。

**【特記事項】**

シタキシウとも言う。

**【関連文献】**

保草本 I p.211、平草本Ⅲp.44。

ホタルカズラ *Lithospermum zollingeri* DC. (図版 7)

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎は細く、開出したあらい毛があり、高さ 15～25cm、花後基部から横にはう長い枝を出し、翌年の新苗をつける。葉は互生し、葉身は狭楕円形～広倒披針形、長さ 2～6cm、幅 0.6～2cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、濃緑色で表面に剛毛があり、辺縁は全縁である。花期は 4～5 月、花は上部の葉腋につき、青紫色で直径 15～18mm、花冠は 5 裂し、各裂片の中央には縦の白色の隆起がある。分果は白色で平滑である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城(石川静雄 140)、渥美(小林 42454)、豊田東部(瀧崎吉伸 7231)、知多南部(鳥居ちよ子 2549)、犬山(山田果与乃 214)。豊橋北部にもあるという(小林, 2001)。ただしこれらの区画の一部では、すでに絶滅しているかもしれない。安原(1990)によれば名古屋市内でも愛知用水の岸にあったが、用水の改修により消滅したという。豊川宝飯(一宮町, 加藤等次 s.n., 1957-4-29)で採集された標本もある。

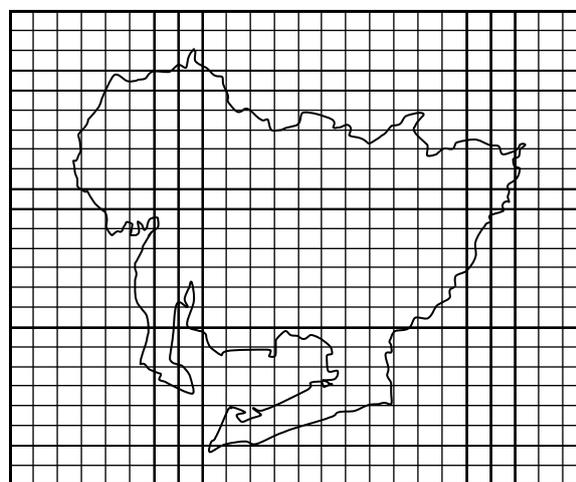
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地や丘陵地の日当たりのよい草地、林道わきの崖状地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつてはところどころに点在していたが、植生遷移の進行によって激減し、現在では容易に見ることができない植物になってしまった。もともと遷移途中のやや不安定な場所に生育していることが多く、どこでも個体数は少なく、再度同じ場所に行っても確認できないこともあったために、どの区画でも「絶滅」と断定しにくい。そのため今回は絶滅危惧Ⅱ類と評価されたが、実際の状況は更に危機的かもしれない。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるボタ)に生育しているものについては、草刈りを続け、丈の低い草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

和名は、点々と咲く青い花をホタルの光にたとえたものと言われる。

【引用文献】

安原修次, 1990. なごや野の花 p.40. エフエー出版, 名古屋.  
小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.116. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本 I p.195、平草本 III p.64.

## ジュウニヒトエ *Ajuga nipponensis* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。里山の二次林内に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は数本束生し、高さ10～25cm、全体に長い白毛が多く、白緑色をおびる。葉は対生し、2～4対つき、葉身は倒卵状さじ形～長楕円形、長さ3～5cm、幅1.5～3cm、先端は鈍頭～円頭、辺縁にはまばらに波状の鈍歯牙があり、基部は狭くなって翼のある葉柄となる。花期は4～5月、茎の先端に長さ4～8cmの穂状の花序を作り、淡紫白色の花を多数密につける。花冠は唇形、花筒は背面で長さ約9mm、上唇は小さく、下唇は大きく筒部とほぼ同長である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

足助(深見 弘 135)、犬山(芹沢 51186)。

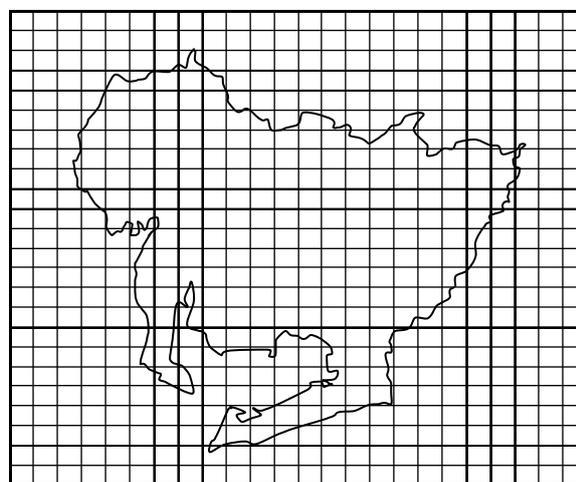
#### 【国内の分布】

本州および四国。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。一昔前の関東地方の雑木林には、普通に見られる植物であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県ではもともと特定の場所にしか分布しておらず、個体数も少ない。犬山では主として沢沿いに生育しているが、植栽されたスギの生長に伴い光条件が悪化し、衰退傾向にある。

### 【保全上の留意点】

部分的に伐採を行って雑木林を萌芽更新させ、さまざまなステージが混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

### 【特記事項】

和名は十二単衣で、多数の花が積み重なって咲くことによる。

### 【関連文献】

保草本 I p.190、平草本 III p.74、SOS 旧版 p.75、SOS 新版 p.138,140。

ミズネコノオ *Eusteralis stellata* (Lour.)Murata

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

1年生草本。茎は高さ15～50cmで軟らかく、中央付近で多数の枝を出す。葉は3～6枚が輪生し、無柄、葉身は線形で長さ2～6cm、幅2～4mm、先端は鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁である。花期は8～10月、茎および枝の先端に、長さ2～5cm、幅4～5mmの穂状の花序をつけ、花を密生する。花冠は白色または淡紅色、長さ約2mm、雄ずいは長さ約3mmで花外に突き出る。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城(小林 39703)、豊川宝飯(加藤等次 9132)、額田(小林 65245)、安城(小林 67789)、瀬戸尾張旭(大谷敏和 86)、江南丹羽(竹原芳子 1301)、春日井(村松正雄 14805)、名古屋北部(鳥居ちゑ子 2397)。豊橋北部(石巻山, 鳥居喜一 8104, 1952-9-14, HNSM)、豊田北西部(猿投村加納, 井波一雄 s.n., 1960-10-23, CBM193595)、犬山(羽黒村, 井波一雄 s.n., 1944-12-25, CBM128618)、岩倉西春(豊山豊場, 井波一雄 s.n., 1934-10-15, CBM128603)で採集された標本もある。

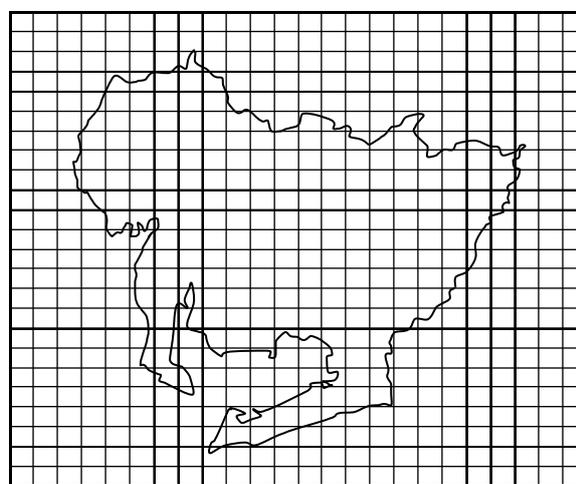
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球(徳之島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジアに広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水湿地、湿田、休耕田などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1年生草本であるため生育状態は不安定で、継続的に確認できる場所は少ない。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような湿田は、農地改良の結果、全国的にも愛知県でも急激に減少している。しかしその努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。過去の稲作様式を示す文化遺産としても、保全の必要性が高くなっている。

【特記事項】

稲刈り後の水田に生育する個体は、極めて小型の状態でも花をつける。彩色画はレッドデータブックなごや2004植物編 図版6に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.172、平草本 III p.83、SOS 旧版 p.76、環境庁 p.522、SOS 新版 p.138,140。

ミズトラノオ *Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata

【選定理由】

個体数階 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物である。

【形態】

多年生草本。茎はやわらかく、横にはう地下茎から立ち上がり、高さ 30~50cm になる。葉は 3~4 個が輪生し、ほとんど無柄、葉身は線形~広線形、長さ 3~7cm、幅 2~5mm、先端は鋭頭、全縁でやわらかい。花期は 8~10 月、茎の先端に長さ 2~8cm の穂状の花序を 1 個つけ、花を密生する。花冠は淡紅色、雄ずいは 4 本で長さ 7~8mm、花外に突き出し、花糸の中部には密に長い毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 68601）、豊橋北部（芹沢 78860）、額田（小林 65303）、瀬戸尾張旭（日比野修 5475）、名古屋北部（芹沢 77000）。安城（古井町塚下、堀田喜久 7326, 1999-11-6）にも生育していたが絶滅した。名古屋北部もすでに絶滅した可能性が高い。豊川宝飯（宮路山、加藤等次 s.n., 1949-10-23）、犬山（池野村、井波一雄 s.n., 1934-10-8, CBM 192286）で採集された標本もある。

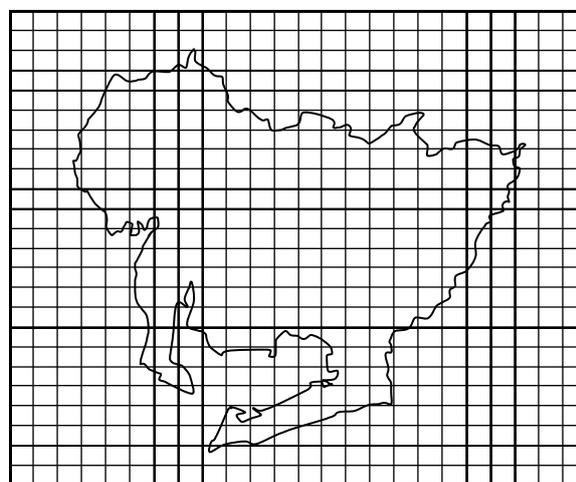
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水湿地や休耕田に生育し、しばしば群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河南部ではかつては多かつたらしく、秋には道の両側が赤くなるくらいあったというが、耕地整理により山すその水田わきの湿地がなくなり、急激に減少した。ただしごく近年に限れば、強力な除草剤が使用されなくなったためか、やや増加傾向にあるように思われる。新城及び豊橋北部では休耕田に群生しており、生育状態も良好であるが、現在の状態が将来も継続するという保証はない。安城では休耕田に僅かに生育していたが、耕地整理により絶滅した。名古屋北部では水田のわきに僅かに生育していたが、その水田が公園化のために買収され、耕作されなくなって、背の高い草が密生する状態になった。生育していた場所にはとても近づけないが、絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

現在の生育地はほとんどが休耕田で、一時的に増加しても、休耕状態が継続して植生遷移が進行すればやがて消滅するものと思われる。存続のためには湿地状態を維持すると共に、適度の攪乱が必要である。除草剤の散布を避けることも必要である。

【関連文献】

保草本 I p.172、平草本Ⅲp.83、SOS 旧版 p.76+図版 24、環境庁 p.522。

ヤマジソ *Mosla japonica* (Benth.)Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい、草地性の植物である。

【形態】

1年生草本。茎は4角形で白い短毛があり、分枝して高さ10~40cmになる。葉は対生し、長さ3~10mmの柄があり、葉身は卵形~狭卵形、長さ1~3cm、幅7~17mm、先端は鋭頭、基部はややくさび形、辺縁には低い鋸歯があり、両面にやわらかい短毛を散生する。花期は9~10月、花は茎や枝の先端につく長さ1~4cmの穂状の花序に密につき、苞は卵形~広卵形で、下部のものはぐより長い。がくは5裂し、花時に長さ約3mm、果時に長さ7~8mm、花冠は淡紅紫色で、長さ約3mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部(芹沢 68824)、鳳来南部(小林 30695)、作手(小林 73320)、新城(芹沢 79525)、豊橋北部(小林 67270)、足助(芹沢 78955)。

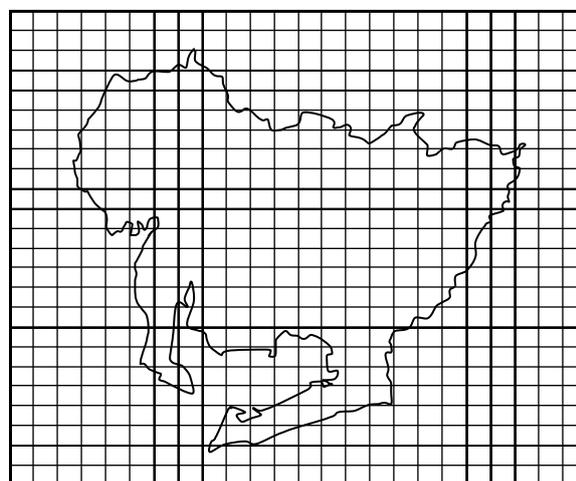
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の、日当たりのよい裸地状の場所に生育する。愛知県の場合、鳳来北東部、作手、足助は林道わきの半裸地や草地、他は超塩基性岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

新城の1カ所と足助では比較的生育がよく、個体数も多い。それ以外の場所では、高さ5cm程度かそれ以下の個体がまばらに生育しているにすぎない。多少攪乱された場所にも生育しているが、攪乱地ならどこにでもあるというわけではなく、何か分布を制約している要因があるものと思われる。超塩基性岩地では、遷移の進行により半裸地が減少し、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、本種を含めて多くの草地性植物の生育場所になっているが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、半裸地・草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

作手と足助の植物は、他の区画のものに比べて葉が薄く、全体に毛が多い。

【関連文献】

保草本 I p.170、平草本 III p.、SOS 旧版 p.77+図版 13、環境庁 p.524。

ダンドタムラソウ *Salvia lutescens* Koidz. var. *stolonifera* Murata

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。自然度の高い森林に依存する植物で、分布域が狭く、愛知県はその西限にあたる。県内の自生地も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 25～50cm になり、花後倒れて途中から根を出し、茎の基部からも長い走出枝を出す。葉は対生し、大きいものは 2～3 対で茎の中部につき、1～3 回羽状複葉、小葉は卵形～倒卵形、長さ 1.5～3cm、先端は鋭頭～鈍頭、基部は広い、または狭いくさび形、辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 6～8 月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ 5～6mm、花冠は淡青紫色、長さ 1cm 内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根(加藤等次 4537)、津具(芹沢 78754)、設楽西部(芹沢 83176)。

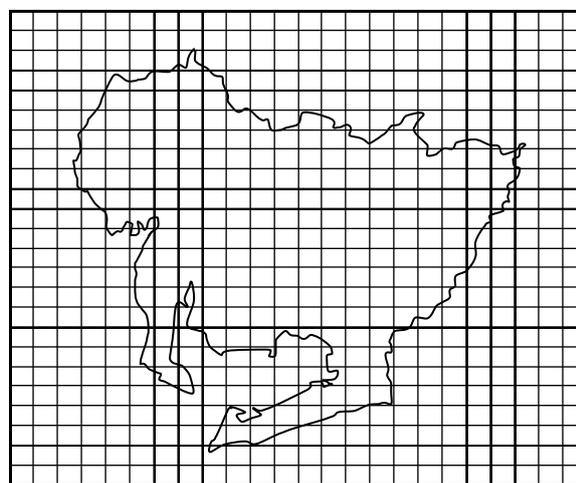
【国内の分布】

本州(愛知県、岐阜県、長野県および伊豆半島の一部)。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ない。ただし栄養的に繁殖するため、ある場所では群落を作ることもある。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林を保全することが必要である。ただし若木が茂りすぎて光条件が悪化した場所では、樹木を部分的に除去する必要もあると思われる。

【特記事項】

設楽町段戸山で鈴木釘次郎氏が 1933 年 6 月 21 日に採集した標本をもとに記載された植物で、基準標本は京都大学総合博物館(KYO)に保管されている。ナツノタムラソウ(広義)に含まれる種内分類群間の関係については、更に分類学的な検討が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.169、平草本Ⅲp.81、SOS 旧版 p.77、SOS 新版 p.23,25。

**アオホオズキ *Physaliastrum savatieri* (Makino) Makino**

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では個体数が少ない。

**【形態】**

多年生草本。茎は柔らかく、まばらに分枝し、高さ 30～60cm になる。葉は互生し、長さ 0.5～1.5cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5～12cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細くなり、辺縁は全縁で短毛がある。花期は 6～7 月、葉腋に下向きに 1～2 個の花をつけ、花冠は淡緑色、広鐘形で浅く 5 裂し、直径約 1.5cm である。果実は液果で楕円形、淡緑色、長さ 1～1.3cm、幅 0.7～1cm、がくは果時にやや扁平なつぼ状となり、緑色で長さ 1.3～2cm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

富山 (小林 48073)、豊根 (小林 37490)、津具 (芹沢 74861)、稲武 (芹沢 74878)、設楽西部 (小林 33089)。県内での分布は、東三河北部の深山に限られている。

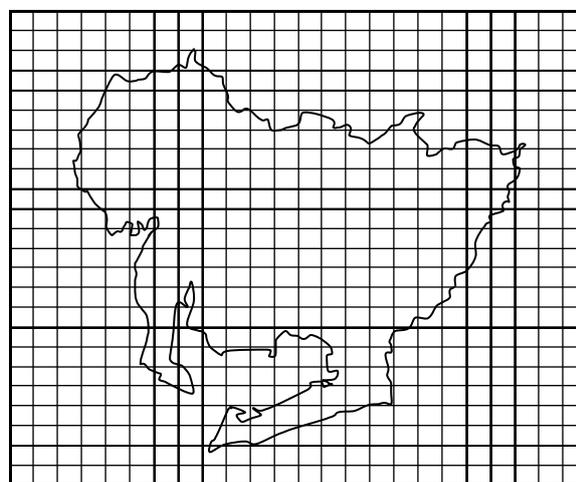
**【国内の分布】**

本州および四国。

**【世界の分布】**

日本固有種。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

深山の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

点在するがどの場所でも個体数は少なく、群生することはない。自然度の高い森林に生育しているため、かつて自然林が広範囲に伐採された時代には著しく減少したと思われるが、近年に限れば小康状態である。

**【保全上の留意点】**

生育地の森林を保全することが必要である。

**【特記事項】**

果実は熟しても、がくに包まれている。

**【関連文献】**

保草本 I p.156、平草本Ⅲp.94、SOS 旧版 p.78、環境庁 p.525。

## ゴマクサ *Centranthera chevalieri* Bonati

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい湿地性の植物で、愛知県ではほとんどの場所で生育状況が不安定である。

### 【形態】

1年生草本。茎は直立して硬く、全体に短剛毛があり、高さ10～60cmになる。葉は茎の下部では対生するが、上部では少しずれて互生し、無柄、葉身は狭披針形または広線形、長さ1.5～6cm、幅2～8mm、先端は鈍頭、質は厚く、両面に毛があり、辺縁は全縁か少数の歯牙がある。花期は8～9月、花は茎の上部の苞葉の腋に1個ずつつき、がくは花時で長さ7～10mm、果時には9～12mm、花冠は黄色で長さ約2cm、先端は5裂し、裂片は円頭である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

新城(小林 62168)、豊田北西部(畑佐武司 79)、豊明東郷(浅野守彦 1124)、半田武豊(岡本久美子 763)、知多南部(相羽福松 4022)、犬山(芹沢 52621)。豊橋北部(四ッ谷～吉祥山, 恒川敏雄 s.n., 1963-8-19, TMNH)、豊橋南部(梅田川, 恒川敏雄 s.n.=鳥居 21465, 1941-9-28, HNSM)、渥美(福江町亀山, 恒川敏雄 s.n.=鳥居 21466, 1941-8-12, HNSM)、藤岡(藤岡村, 井波一雄 s.n., 1959-8-22, CBM 75950)で採集された標本もある。

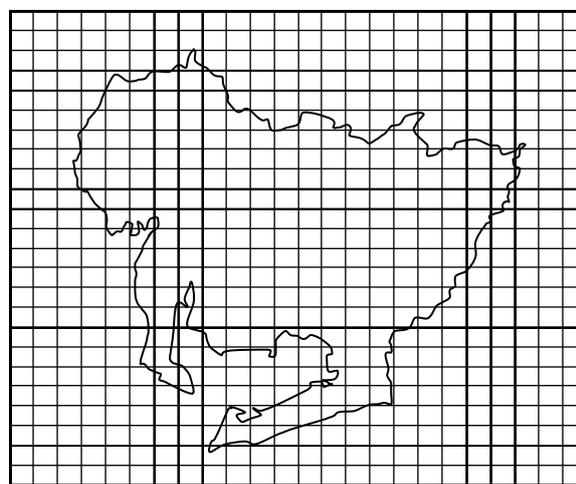
#### 【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸、インドシナ。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池や水田の周辺などの日あたりのよい湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県内では6カ所で確認されているが、どの場所でも個体数が少ない。生育状況も不安定で、豊明市のナガバノイシモチソウ自生地(県指定天然記念物)では毎年ある程度開花するが、それ以外の場所では確実に観察することはできない。

### 【保全上の留意点】

やや攪乱された場所に生育することが多く、生育状況も不安定であるため、保全対策を立てにくい植物である。生育が確認されたことがある場所の自然環境をできるだけ保全すると共に、保険的措置として、人為的な系統保存を考慮する必要がある。豊明市のナガバノイシモチソウ自生地については、遺伝子レベルでの多様性に留意した現在の管理方法を継続していれば、結果的に本種も保全されると思われる。

### 【特記事項】

和名は、花の形がゴマに似ているからである。

### 【関連文献】

保草本 I p.150、平草本Ⅲp.113、SOS 旧版 p.79、環境庁 p.340。

ヒロハスズメノトウガラシ *Lindera antipoda* (L.) Alston var. *vervenaefolia* (Colsm.) H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。水田雑草で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

1年生草本。茎は長さ 15~20cm、分枝して地表に広がる。葉は対生し、狭楕円形または線状楕円形、長さ 2~5.5cm、幅 4~15mm、先端は鈍頭、基部はくさび形に細まってほとんど無柄、両面とも無毛、辺縁には低い明瞭な鋸歯がある。花期は 8~10 月、花は茎の上部に総状花序状につき、上部の花の苞葉は線状で目立たない。花冠は白色に近い淡紅色、長さ、幅とも約 1cm で、エダウチスズメノトウガラシ var. *grandiflora* (Hook.f.) Tuyama よりずっと大きい。

【分布の概要】

【県内の分布】

幡豆（芹沢 82671）、一宮木曾川（芹沢 70405）。

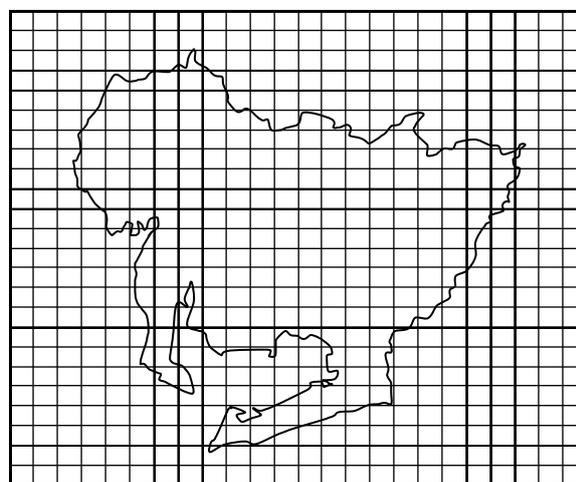
【国内の分布】

最近までエダウチスズメノトウガラシと混同されていたため、はっきりしない。本州のほか、少なくとも九州には分布している。

【世界の分布】

詳細は不明である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水田雑草として、水田の周辺部やあぜに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

幡豆では1枚の耕地整理されていない水田に群生していた。一宮木曾川では木曾川河川敷の水辺に少数個体が生育していた。後者の生育状況は明らかに不安定で、毎年出現するとは思えないが、一方で他の場所に出現する可能性もある。

【保全上の留意点】

平野部に残存する湿地や未整理耕地は、本種を含め、多くの現在では稀少になってしまった生物の生育・生息場所になっている。過去の農業形態を示す文化財としても重要である。現に生産活動が行われている場所であるため難しい問題はあるが、代表的な場所については保全を図る必要がある。

【特記事項】

愛知県で従来「スズメノトウガラシ」とされてきた植物は、ほとんどがエダウチスズメノトウガラシである。エダウチスズメノトウガラシとの関係は、大場（2003）に説明されている。花の小さいエダウチスズメノトウガラシの変種小名が *grandiflora* なのは、皮肉なことである。

【引用文献】

大場達之(編), 2003. 千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌 p.540. 千葉県, 千葉.

## ヤマトラノオ

*Pseudolysimachion rotundum* (Nakai) Yamazaki var. *subintegrum* (Nakai) Yamazaki

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立して高さ 40～90cm になり、上向きに曲がる短毛がある。葉は対生し、ごく短い柄があるかほとんど無柄、葉身は広披針形、長さ 5～11cm、幅 1～2.5cm、先端は鋭頭、基部は次第に狭まり、辺縁にはとがった鋸歯があり、両面にまばらに短毛がある。花期は 8～9 月、茎の先端に長い穂状の花序を出し、多数の花を密につける。花には長さ 2～3cm の柄があり、花冠は青紫色、長さ 1mm ほどの筒部があり、その先は 4 裂して開出し、長さ約 5mm である。果実は蒴果で扁球状、先がややへこみ、長さ約 3mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根（芹沢 62911）、稲武（日比野修 4645）、設楽西部（芹沢 70547）、旭（塚本威彦 832）、足助（芹沢 78799）、小原（塚本威彦 1261）、豊田東部（畑佐武司 2343）。作手（菅沼、鳥居喜一 5437, 1971-8-22, HNSM）と新城（日吉鳥原、鳥居喜一 6546, 1970-8-30, HNSM）で採集された標本もある。

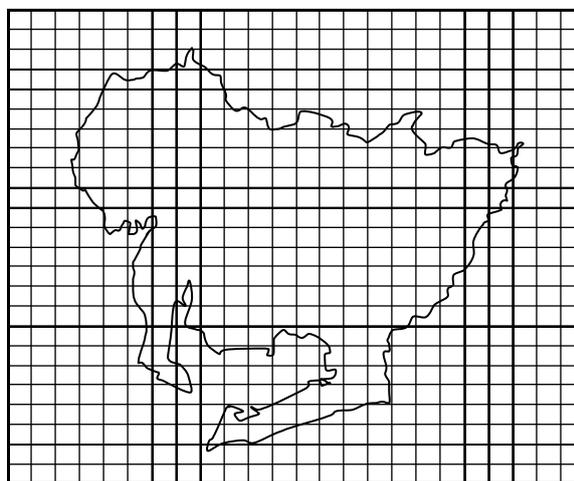
#### 【国内の分布】

本州（関東地方、中部地方、中国地方）、四国、九州北部。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草地に生育する。愛知県では、山地に断片的に残された草地や谷戸田周辺の里草地（いわゆるボタ）に残存している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。草地が広く存在した時代には、県北部ではかなり見られたらしい。

### 【保全上の留意点】

低山地の谷戸田周辺にある里草地は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

### 【特記事項】

葉が無柄のものを狭義のヤマトラノオ、短い柄があるものをヒメトラノオ *form. petiolatum* Yamazaki というが、はっきり区別できるものではない。

### 【関連文献】

保草本 I p.140、平草本Ⅲp.109、SOS 旧版 p.80、SOS 新版 p.55,57。

## ヒヨクソウ *Veronica melissaefolia* Poir.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。茎は斜上して立ち上がり、上部で分枝し、高さ 25～70cm、密に軟毛がある。葉は対生し、茎の上部のものが大きく、下部に向かって小さくなり、ほとんど無柄、葉身は卵形、長さ 2～4.5cm、幅 1～3cm、先端は鋭頭、基部は円形、縁にあらく不規則な鈍鋸歯がある。花期は 6～7月、茎の上部の葉腋から長さ 5～20cm の細い花序を出し、多くの花をつける。花冠は淡紅紫色または淡青紫色で 4 裂し、皿形、直径 6～8mm、蒴果は倒心形で幅 5～6mm、扁平である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根 (芹沢 62912)。1 カ所に生育しているだけである。

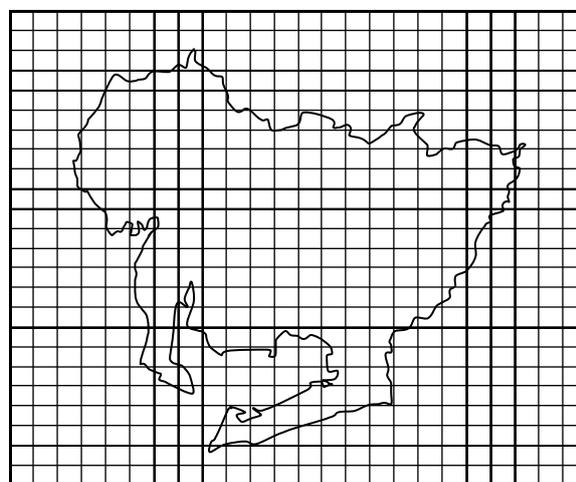
#### 【国内の分布】

北海道 (西南部)、本州、四国。

#### 【世界の分布】

日本から中国大陸、ヒマラヤ、小アジアにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい草地や明るい林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊根村では 3 カ所にあつたらしいが、内 2 カ所ではキャンプ場の設置、遷移の進行などによって見られなくなり、現在では茶臼山周辺に生育しているだけである。現地は適度に草刈りが行われるため、現在のところはよく生育しているが、個体数は少ない。

### 【保全上の留意点】

茶臼山は、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

### 【特記事項】

和名は、対になった花序に由来する。

### 【関連文献】

保草本 I p.144、平草本Ⅲp.111、SOS 旧版 p.81。

キヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorus* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。森林性の寄生植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

寄生性の多年生草本。短い根茎から多くの茎が分かれて直立する。地上茎はやや太く、はじめ白色でのち黄色を帯び、高さ 5~10cm である。葉は鱗片状で卵形、直立して重なり合う。花期は 5~7 月、茎の先端に十数個集まった苞の腋に、白色の花を 1 個ずつつける。苞は長楕円形または狭卵形、ときにへら状長楕円形で長さ 1~1.5cm である。花冠は長さ約 2.5~3cm の細長い筒状で斜上し、先は唇形となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（小林 33122）、鳳来南部（小林 69303）、作手（芹沢 80580）、足助（山崎玲子 2854）、藤岡（日比野修 1464）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 3083）。稲武（面ノ木峠、鈴木学 1430, 1983-6-26）と豊田西北部（猿投山、岡本英一 764, 1958-6-23）で採集された標本もある。

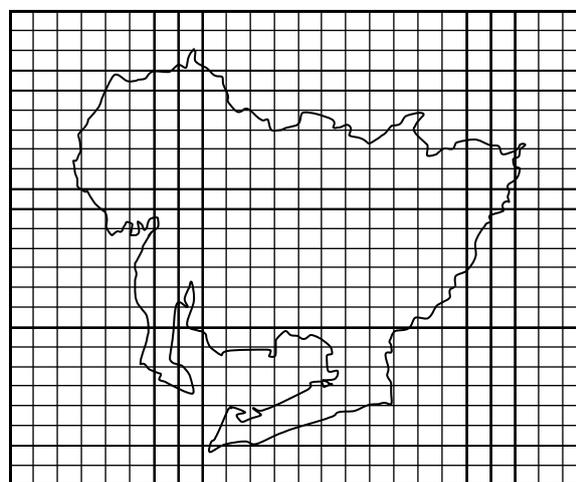
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸（中北部、東北部）、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育し、カシ・ナラ類、アジサイ類などの根に寄生する。自然度の高い森林だけでなく、造林地などに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地点が少ない上に、鳳来南部以外では個体数が極めて少なく、確実に観察することは困難である。森林の伐採が最大の脅威である。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保草本 I p.126、平草本Ⅲp.135、SOS 旧版 p.82、SOS 新版 p.31,33。

ノタヌキモ *Utricularia aurea* Lour.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。温帯性の水草で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

水中を浮遊する食虫性の 1 年生草本。茎はよく分枝して長さ 1m 以上になる。葉はやや密に互生し、長さ 2~6cm、基部で 3 本の枝に分かれ、それぞれの枝は更に 2~3 回羽状に分枝し、多数の捕虫囊をつける。花期は 7~10 月、高さ 4~12cm の花茎を水上に伸ばし、4~10 花をつける。花冠は淡黄色で直径約 1cm である。果実は直径 4~5mm、先端に花柱、基部にがくが残存し、果柄は長さ 8~12mm で先の方が太くなる。殖芽は形成しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田東部(芹沢 60062)、豊田北西部(芹沢 82207)、刈谷知立(芹沢 79377)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 2974)、日進長久手(芹沢 74380)、犬山(塚本威彦 1204)。安城(安城町, 鈴木釘次郎 s.n., 1911-8-24, CBM 220834)、豊明東郷(豊明村, 井波一雄 s.n., 1940-9-30, CBM135456)、半田武豊(半田市半田池, 井波一雄 s.n., 1954-9-4, CBM 222698)、岩倉西春(西枇杷島町, 井波一雄 s.n., 1937-8-27, CBM220845)、名古屋北部(守山区上志段味, 飯尾俊介 4, 1964-8-31)、海部西部(立田村, 井波一雄 s.n., 1952-9-28, CBM102867)で採集された標本もある。

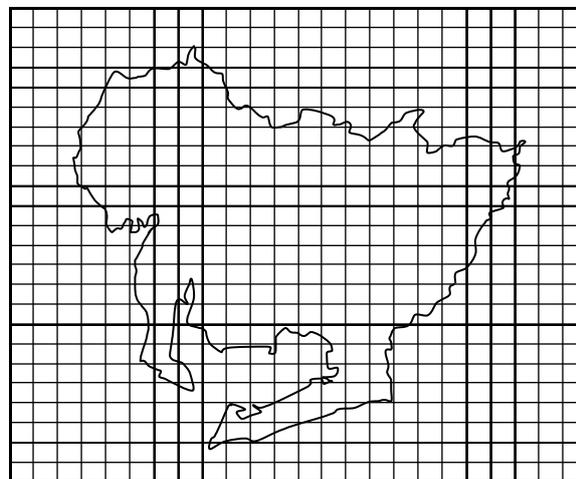
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが人里に近い丘陵地の、林に囲まれたため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

ところどころに見られるが、イヌタヌキモ (639 頁) に比べればはるかに少ない。しかしイヌタヌキモと異なりよく開花するので、量のわりには目立つ。時には一時的に著しく増加して、池面が黄色に見えるほどに咲くこともある。しかし全体的に見れば、水の汚れによって減少していることは確実である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度が高く汚水の流入しないため池は、愛知県でも著しく減少している。現在本種が生育しているため池については、周辺環境を維持し、水質を悪化させない配慮が必要である。

【特記事項】

葉はイヌタヌキモよりやわらかく、基部で 3 裂し、さらに立体的に分枝する。

【関連文献】

保草本 I p.122、平草本 III p.139。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.149. 文一総合出版, 東京.

## ヒメタヌキモ *Utricularia minor* L.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。温帯性の水草で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生の食虫性水草。茎は長さ 15～20cm、水中を浮遊するか泥上をはい、後者の場合は多数の捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉はまばらに互生し、長さ 1cm 程度、3～4 回二叉状に分岐し、捕虫囊は少なく、裂片は幅 0.2～0.4mm で先に刺状の突起がある。開花することは少ないが、開花する場合花期は 8～9 月、高さ 10cm 程度の花茎を水上に伸ばし、4～8 花をつける。花冠は黄緑色で直径約 8mm、距は短く円錐状で下を向く。がくは長さ約 2mm である。秋には茎の先端に直径 3～7mm の球状の殖芽を作り、越冬する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

瀬戸尾張旭（塚本威彦 3101）、春日井（芹沢 78018）。瀬戸市内では数カ所で確認されている。しかし尾張旭市では、古い標本（新居森林公園，飯尾俊介 s.n., 1964）はあるが現存を確認できず、春日井でも 1 カ所に生育しているだけである。刈谷知立（富士松村，井波一雄 s.n., 1941-10-6, CBM220846）で採集された標本もある。

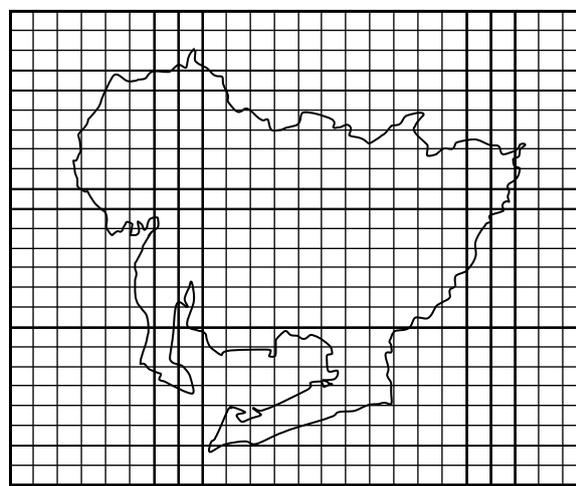
#### 【国内の分布】

北海道および本州。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯～亜寒帯に広く分布する。ミカワタヌキモと異なり、寒冷地性の種である。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育しているため池では、たくさんあることが多い。ただし生育状態には年変動があり、年によってはほとんど見られないこともある。開発圧力が高いことは、ミカワタヌキモと同様である。一部の生育地は近くまで造成が進み、消滅寸前である。ある池では一面に生育していたが、池の下側が造成され、水が干上がって絶滅した。水質の悪化により絶滅した場所もある。

### 【保全上の留意点】

ため池自体を現状のまま保全し、水質を悪化させないことが必要である。外来のタヌキモ類を移入しないことも重要である。

### 【特記事項】

愛知県では、開花は極めて稀である。

### 【関連文献】

保草本 I p.122、平草本Ⅲp.139、SOS 旧版 p.83、環境庁 p.532。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.153. 文一総合出版, 東京.

キダチニンドウ *Lonicera hypoglauca* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県は分布域の東限に近い。県内では生育範囲が限られており、個体数も少ない。

【形態】

半常緑性で木質のつる植物。葉は対生し、長さ 3~12mm の柄があり、葉身は卵形~長楕円形、長さ 2~11cm、幅 1~6cm、先端はふつう鋭頭、基部は円形、全縁、はじめは両面とも有毛であるが、のち表面は無毛になる。花期は 5~6 月、枝の先端部の葉腋から短柄を出し、2 個の花をつける。花ははじめ白色でのちに黄色をおび、花冠は長さ 4~5cm、上唇は 4 裂し、下唇は幅約 2mm で下垂する。果実は 9~12 月に紫黒色に熟し、直径 5~7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部 (小林 37836)。

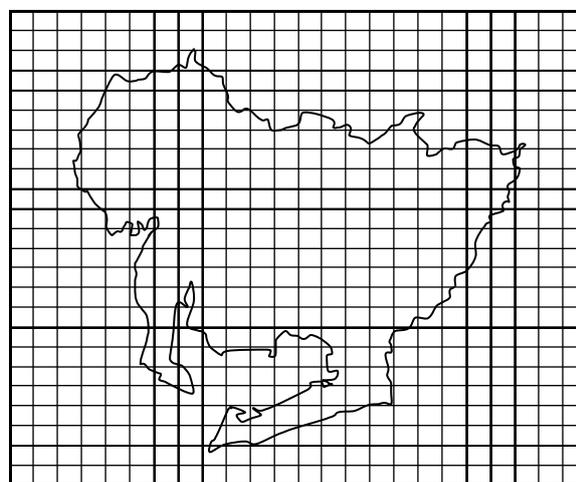
【国内の分布】

本州 (東海地方、瀬戸内海沿岸)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、ベトナム。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の林縁や明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では林内や若い造林地に点在しているが、開花する個体はほとんどない。今後林地の遷移の進行に伴い、衰退する可能性が高い。

【保全上の留意点】

造林地に関しては、間伐など適切な手入れが必要である。

【特記事項】

スイカズラ (半常緑性なので、忍冬とも呼ばれる) に似ているが、茎や葉に毛が少なく、葉の先端が尖る。

【関連文献】

保木本 I p.5、平木本 II p.242、SOS 旧版 p.83。

## ハクサンボク *Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。本州中部太平洋側と山口県～琉球に隔離的に分布しており、愛知県は本州中部の分布域の西限にあたる。県内では生育範囲が限られており、個体数も少ない。

### 【形態】

常緑性の低木または小高木。高さ 1.5～6m になる。葉は対生し、長さ 2～3cm の紫色を帯びた柄があり、葉身はひし状倒卵形～ひし状卵形、長さ 5～20cm、幅 4～15cm、先端は鋭尖頭か鋭頭、基部は広くさび形で、辺縁は上部にのみあらい鋸歯があり、革質、表面は暗緑色で光沢がある。花期は 4 月～5 月、枝の先端に直径 10～13cm の平らな散房花序をつくり、多数の花をつける。花は悪臭があり、花冠は白色、基部近くまで 5 裂し、直径約 6mm である。核果は広楕円形または卵形で、長さ約 8mm、晩秋に赤く熟す。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

渥美 (小林 41485)。他区画からは、確実に自生と思われるものは知られていない。尾張地方の社寺林などにも点在するが、これらは栽培品からの逸出と思われ、評価の対象外である。

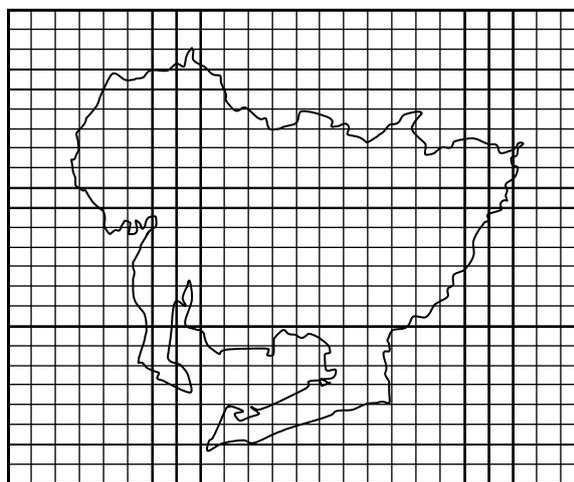
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方南部、伊豆諸島から愛知県までと山口県)、九州、琉球に分布する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの常緑広葉樹林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美では常緑広葉樹の二次林内に点在しているが、個体数は少ない。林内ではヒサカキなどの繁茂が著しく、圧迫されて衰退していることが多い。

### 【保全上の留意点】

燃料革命により柴刈りの経済的必然性がなくなってしまったことが、衰退の基本的な原因である。現実論としては困難かもしれないが、下層木を適度に刈払い、里山状態を維持することが必要である。刈払いを行えば、ヒサカキなどに比べて成長が早い樹木なので、相対的に勢いを回復するものと思われる。

### 【特記事項】

本州中部のものは、コハクサンボクとして区別されることがある。和名は、石川県白山の産であるという誤認に基づく。

### 【関連文献】

保木本 I p.101、平木本 II p.231、SOS 旧版 p.84。

ナベナ *Dipsacus japonicus* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。山地の多少攪乱された場所に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

越年生草本。茎は直立して分枝し、高さ 1m 以上に達し、全体に刺状の剛毛がある。葉は対生し、1~6cm の柄があり、葉身はふつう羽状に全裂するが時に単葉、羽裂する場合頂裂片は側裂片よりはるかに大きく、鋭尖頭で鋭鋸歯があり、側裂片は 1~2 対、基部に近いものは小形である。花期は 8~9 月、花は紫色で、多数が集まって直径約 2cm の球状の頭花となり、基部に線形の総苞片がつく。小花の花冠は長さ 7mm で、上部は 4 裂し、花床の鱗片はくさび形、先端が刺針になる。そう果は長さ約 5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 46941）、豊根（村松正雄 13946）、東栄（芹沢 62446）、稲武（小林 39156）。鳳来北東部（三輪村川合常道，鳥居喜一 22212, 1948-9-19, HNSM）で採集された標本もある。

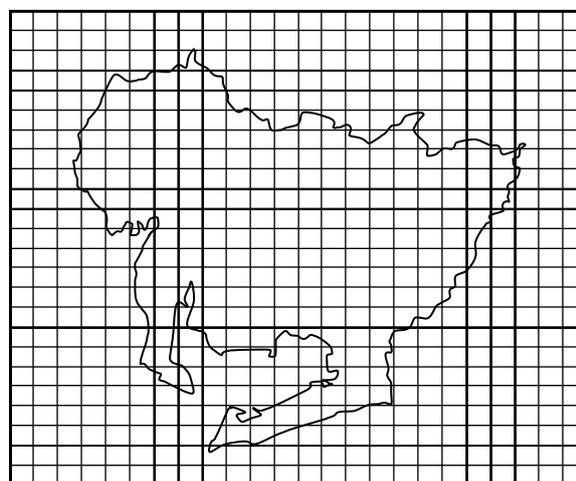
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の礫の多い沢、崩壊地、林道わきなどの、やや不安定な攪乱地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。また攪乱地に生ずるため生育状況が不安定で、確実に観察できる場所はほとんどない。

【保全上の留意点】

本種のような植物は、具体的な保全策が立てにくい。現状をはっきり認識できないうちに、絶滅してしまうおそれがある。崩壊地も自然の一つであることを認識する必要がある。

【特記事項】

和名の語源は不明である。

【関連文献】

保草本 I p.100、平草本Ⅲp.148。

## ヒメシオン *Aster fastigiatus* Fisch.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。湿った草地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 30~100cm になる。葉は互生し、葉身は線状披針形または披針形、下部のものは長さ 5~12cm、幅 4~15mm で有柄、両端は次第に狭くなり、辺縁には低い鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなる。花期は 8~10 月、茎の先端に多数の頭花を散房状につけ、頭花は直径 7~9mm、3~8mm の柄があり、総苞は筒状、長さ約 4mm である。舌状花は 1 列に並び、白色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

新城(小林 65413)、豊川宝飯(小林 76791)、豊橋北部(小林 70289)、高浜碧南(芹沢 66754)、常滑(小林 30540)、知多南部(芹沢 77598)、犬山(芹沢・松田 193)。安城にもあるという(安城市史編集委員会, 2005)。名古屋北部(千種区光ヶ丘, 犬飼 清 s.n., 1968-9-1)で採集された標本もある。

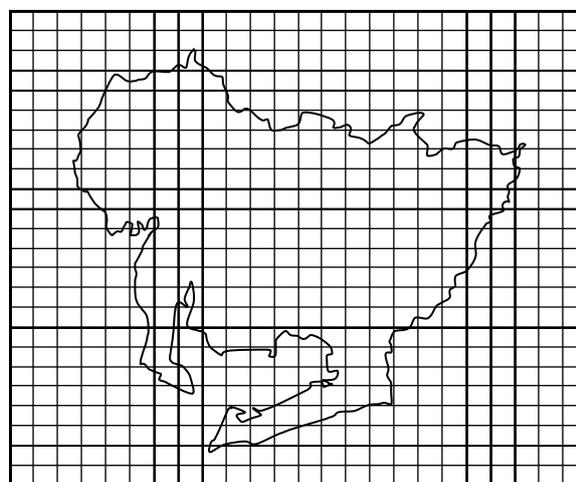
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ダフリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

川岸や堤防などの湿った日あたりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。特に自然度の高い場所に限定されるわけではないが、それでいて生育地の少ない植物である。

### 【保全上の留意点】

生育地の多くは、河川管理等の必要性から定期的に草刈りが行われている場所であり、放置されればススキなどの大型草本に覆われて消滅する可能性が高い。存続のためには、地形の改変を避けると共に、将来とも草刈り等を続けて草地状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

和名がヒメジョオンに似ているため情報が混乱することがあり、注意が必要である。

### 【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.92. 安城市, 安城.

### 【関連文献】

保草本 I p.82、平草本 III p.196.

**アキノハハコグサ *Gnaphalium hypoleucum* DC.**

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県でも同様の状況である。

**【形態】**

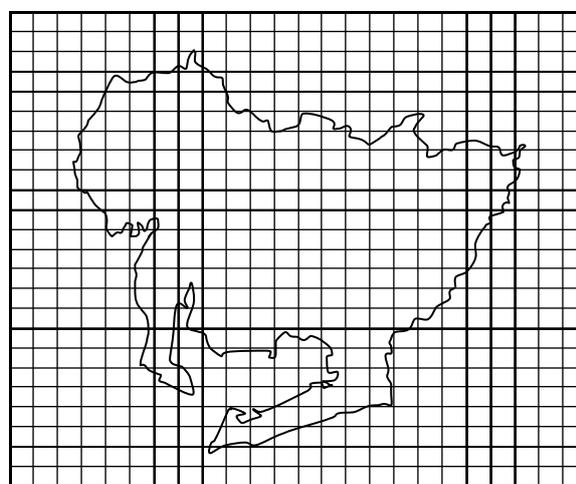
1年生草本。茎は上部で分枝し、高さ30~60cm、白い綿毛がある。葉は多数ついて互生し、披針形、長さ4~5cm、幅2.5~7mm、表面は緑色、裏面は密に白い綿毛があり、基部はやや茎を抱く。花期は9~11月、頭花は茎の先端に散房状に密集してつき、黄色、総苞は球鐘形で長さ4mm、幅6~7mm、小花はすべて筒状花である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

富山（小林 54686）、豊根（村松正雄 14659）、東栄（小林 62281）、稲武（塚本威彦 2536）、設楽西部（小林 48563）、豊田東部（畑佐武司 6915）。設楽東部でも見たことがある。鳳来北西部（七郷町大島、鳥居喜一 22382, 1940-9-29, HNSM）、鳳来北東部（塩瀬、鳥居喜一 4342, 1978-9-28, HNSM）、作手（鳥居喜一 22383, 1941-10-5, HNSM）、旭（小馬山、大原準之助 1315, 1951-10-7）、下山（黒坂~神殿、井波一雄 s.n., 1958-10-5, CBM71982）、豊田北西部（猿投山、岡本英一 818, 1958-9-14）、岡崎北部（上六名町、高橋孝 s.n., 1950-9-10）、名古屋北部（東山公園、稲垣貫一 s.n., 1936-10, CBM115188）で採集された標本もある。

要配慮地区図



**【国内の分布】**

本州、四国、九州に生育する。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インドに分布する。

**【生育地の環境 / 生態的特性】**

山地のやや乾いた日当たりのよい場所に生育する。しばしば林道わきの崖状地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

点在しているが、どの場所でも個体数は少ない。たいていはどうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができない植物である。出現状況もしばしば不安定で、観察した翌年には消えてしまうこともある。残されている標本から判断すれば、草地が広く存在していた時代には、あちこちに生育していたものと思われる。

**【保全上の留意点】**

本種が生育できる林道わきの安定した崖状地は、改修や拡幅により急速に失われている。過去に生育が確認されている場所の周辺では、林道の拡幅に際し配慮が必要である。

**【特記事項】**

ハハコグサも秋に開花することがあるが、それからは全体に大型で茎の上部で分枝し、葉が多数つき、表面が緑色であることで区別できる。ハハコグサは茎の下部で分枝することはあるが、上部で大きく分枝することはない。

**【関連文献】**

保草本 I p.73、平草本 III p.207、SOS 旧版 p.87、環境庁 p.357。

ヤナギノギク *Heteropappus hispidus* (Thunb.)Less. subsp. *leptocladus* (Makino)Kitam.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。本地域の蛇紋岩地を特徴づける植物の一つで、減少傾向も著しい。

【形態】

越年生草本。ヤマジノギク subsp. *hispidus* (115 頁) に似ているが、全体にやせ型で、茎は細く、まばらに分枝し、高さ 30~80cm になる。葉は線形、長さ 3~6cm、幅 1.5~3mm である。花期は 10~11 月、頭花は枝の先端にまばらな散房状につき、ヤマジノギクより小さく直径 2.5~3cm、舌状花は淡青紫色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(芹沢 60617)、新城(芹沢 79529)、豊橋北部(芹沢 68585) の 3 区画で確認されている。渥美半島の蛇紋岩地のもは、葉がやや細いが、ヤマジノギクでよいと思われる。上記産地のうち鳳来南部のものも、ヤマジノギクの貧弱な個体かもしれない。

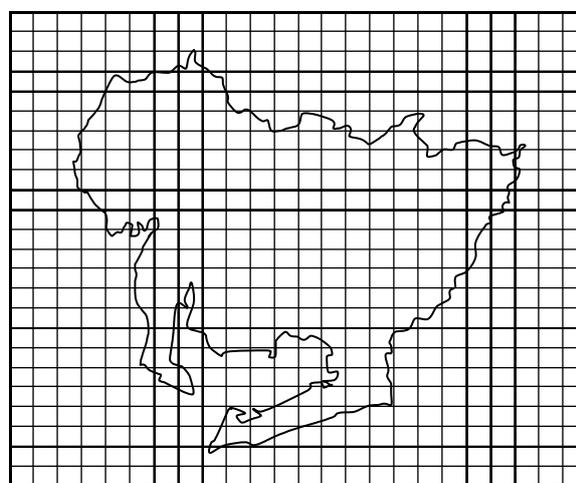
【国内の分布】

一般には高知県の蛇紋岩地帯に固有とされている。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

超塩基性岩地のまばらな草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところまだまとまって生育している場所があり、観察が困難というほどではない。それでも一昔前に比べれば、遷移の進行によって大型草本におおわれた場所が増加しており、個体数は減少している。

【保全上の留意点】

東三河南部に点在する超塩基性岩地は多くの草地性植物の生育地になっているが、草地として利用されなくなったために遷移が進行し、次第に大形の草本や低木が侵入している。草刈りや火入れによって、草地状態を維持する必要がある。

【特記事項】

形態的に比較する限り、四国のヤナギノギクと特に異なるところはない。

【関連文献】

保草本 I p.84、平草本 III p.199、環境庁 p.552、SOS 新版 p.54,56。

カセンソウ *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、硬くて細く、上部で分枝し、高さ 60～80cm になる。葉は互生し、葉身は長楕円状披針形で、長さ 5～8cm、先端は鋭頭、基部は無柄で茎を抱き、質は洋紙質で硬く、脈が目立ち、辺縁には凸状の小歯牙がある。花期は 7～9 月、頭花は分枝した枝端に 1 個ずつ上向きにつき、基部に苞葉があり、黄色、直径 3.5～4cm である。総苞は半球形、総苞片は 4 列に並び、すべてほぼ同長、そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面は無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 76793）豊橋北部（小林 67029）、日進長久手（半田多美子 1984）、東海知多（岡島錦也 571）。半田武豊（阿久比町草木、渡邊麻子 569, 1995-7-9）と常滑（大谷、芹沢 76035, 1999-8-3）にもあったが絶滅した。東海知多もごく最近の状況は確認されていないが、すでに絶滅した可能性が高い。名古屋北部にもあったという（安原, 1990）が、ここでも絶滅した。

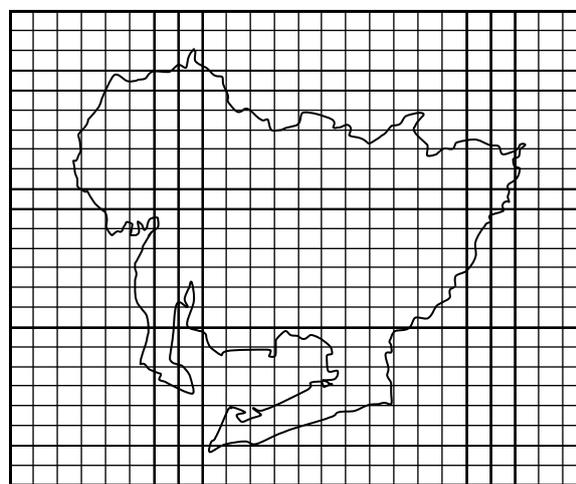
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。基準変種は茎に毛が少ないもので、ヨーロッパからシベリア西部にかけて分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい乾いた草地に生育する。「湿地に生育する」と書かれている文献もあるが、通常湿地に生育することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。生育地の多くは幹線用水路わきの草地であり、水路の改修によって次々と消滅している。名古屋北部でも、愛知用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

オグルマ *I. britanica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam. はやや湿った草地に生育し、葉が薄く、そう果の表面に毛がある。愛知県では丘陵地などの人里周辺に点在している。

【引用文献】

安原修次, 1990. なごや野の花 p.87. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.70、平草本 III p.203、SOS 旧版 p.87.

キクアザミ *Saussurea ussuriensis* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。大陸系の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30～120cm になる。根出葉や茎の下部の葉には長さ 5～20cm の柄があり、葉身は卵形で羽状に浅～中裂し、長さ 7～18cm、先端は鋭頭、基部は心形、質は硬い。茎葉は互生し、上のものほど小さく、細く、葉柄が短くなる。花期は 9～10 月、頭花は茎の先端に散房状につき、紅紫色、花柄は短く、総苞は長さ 12～13mm、総苞片は 5～7 列で、最外片は長楕円形または卵形で、先端は急に短くとがる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 40438）、新城（小林 65476）、豊橋北部（小林 40450）、田原赤羽根（芹沢 53602）。作手（野郷～本宮山，鳥居喜一 4656, 1959-6-14, HNSM）で採集された標本もある。

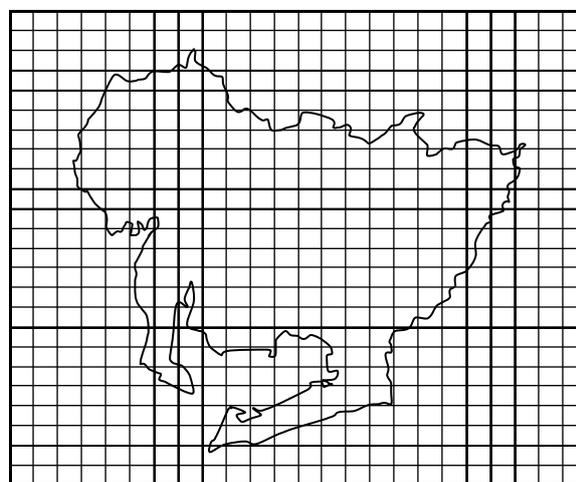
【国内の分布】

本州（福島県以南）、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい草地や、明るい疎林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は極めて少ない。草地の減少や二次林の生長により、減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地（カヤ場）は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。

【特記事項】

和名は、葉がキクのように切れ込むからである。

【関連文献】

保草本 I p.25、平草本Ⅲp.222、SOS 旧版 p.88。

## ツクシメナモミ *Siegesbeckia orientalis* L.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 1、人為圧階級 3、固有度階級 1。攪乱地に生育する植物であるが、愛知県では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

1年生草本。茎は直立して高さ25～80cmになり、先端に花をつけて側枝を伸ばし、これを3～5回繰り返して高さ50～100cmになる。葉は対生し、長さ3～6cmの柄があり、葉身は三角状卵形～狭卵形、長さ6～12cm、幅2～10cm、先端は鋭頭、基部は広くさび形で広い翼となって葉柄に流れ、辺縁には欠刻状の不揃いな鈍鋸歯がある。花期は8～10月、頭花は二又分枝した枝の間に1個ずつつくように見え、黄色で直径6～8mm、総苞片は5個、長さ5～10mmで棍棒状、多数の腺毛があつて粘る。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

幡豆(芹沢 83504)。1カ所に生育しているだけである。大原(1971)は産地として蒲郡をあげているが、裏付けとなる標本等は残されていない。

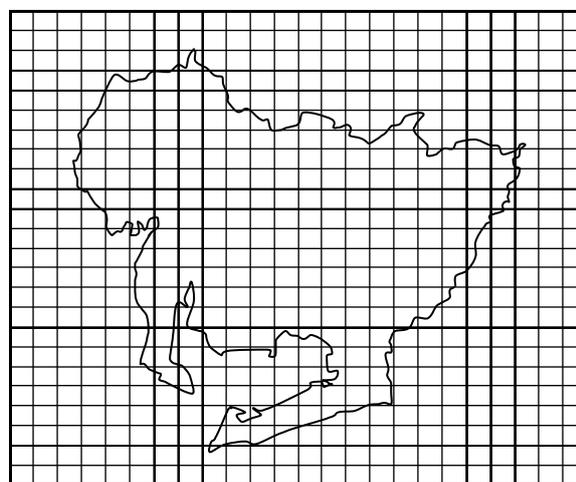
#### 【国内の分布】

本州(関東地方南部以西)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

旧世界の熱帯～亜熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

路傍、空き地などの攪乱地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

2008年には、集落内の1カ所の空き地に数十株が群生していた。高さは1m近くになり、混生する他の人里植物を圧倒するほどであった。一部の個体は除草剤を散布されて枯れていたが、その程度では集団の存続に大きな支障とはならないと思われる。しかし、隣接する同じような空き地には1株も生育していなかった。生育地はさしあたり宅地化される心配はなさそうだが、畑地として耕作される可能性は高く、そうなれば愛知県から再度消滅してしまうと思われる。

### 【保全上の留意点】

愛知県では、低い頻度で出現と消失を繰り返している植物と思われる。現在生育している場所はどこにでもあつたような攪乱地であり、現実問題として保全対策は立てにくい。

### 【特記事項】

愛知県では大原の記録以来ずっと存否不明であったが、2006年に小林元男氏によって再確認された(小林・深谷, 2008)。メナモミやコメナモミとは分枝様式が異なり、また茎上部の葉が細く、黄色の舌状花もより目立つ傾向がある。

### 【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.119, 265. 佐久島会, 刈谷.  
大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.125. 名古屋営林局, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本 I p.66、平草本 III p.177。

## アオヤギバナ *Solidago yokusaiana* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。川岸の岩上に生育する溪流沿い植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は束生し、直立または斜上し、高さ 16～60cm になる。葉は多数ついて互生し、柄は翼があって不明瞭、葉身は線状披針形、長さ 4～7cm、幅 2～5mm、ほとんど全縁である。花期は 9～10 月、頭花は茎の先端に密集してつき、黄色で直径 15mm 程度、総苞は筒鐘形で長さ 5～6mm、総苞片は 3 列にならび、外片は長さ 1.5mm で鈍頭である。そう果は円柱形で長さ約 3.5mm、表面には密に毛があり、長さ 4～5mm の冠毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

犬山 (芹沢 78409)。木曾川の河岸に生育する。矢作川および豊川の河岸にもよく似たものが生育しているが、これらはアキノキリンソウの狭葉型らしい。

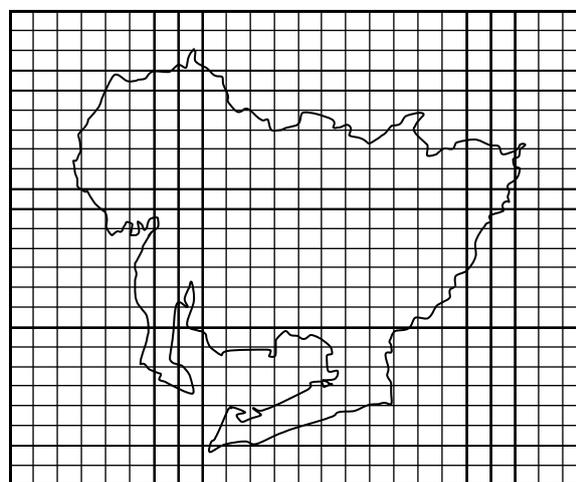
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

増水時には水に洗われるような、川岸の日当たりのよい岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

川岸の岩場に点在しているが、ダム建設等によって河川の流量が減少し、洪水の頻度も低下して岩場に他の草本が増加し、やや衰退傾向にある。観光開発等のため、生育地が破壊されるおそれもある。

### 【保全上の留意点】

溪流沿い植物は増水時に強い水流にさらされることが選択圧になって進化してきた植物であるから、洪水の頻度を確保し、そのような選択圧が働く環境を維持することが必要である。しかしこれは、現実問題としてはなかなか難しい。

### 【特記事項】

和名は、葉形がヤナギに似ているからである。矢作川と豊川の植物については、更に詳細な検討が必要である。

### 【関連文献】

保草本 I p.86、平草本Ⅲp.201、SOS 新版 p.51,53。

スブタ *Blyxa echinosperma* (Clarke)Hook.f.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県においても同様の状況である。

【形態】

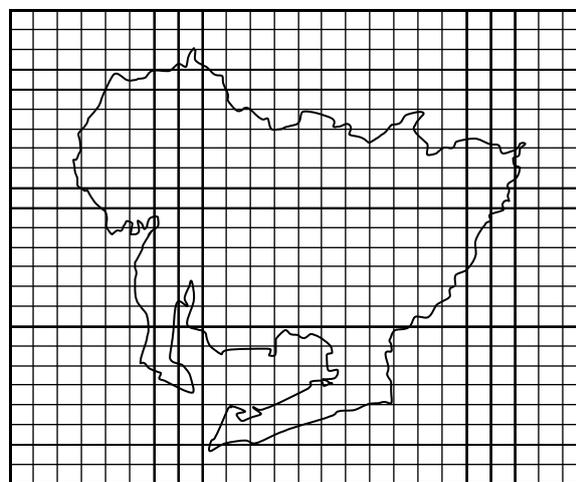
沈水性の1年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ10~30cm、幅5~8mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は7~10月、花は葉の間に束生し、両性、円筒形で長さ4~5cmの苞鞘があり、花弁は3個で白色、狭線形、長さ約13mmである。種子は楕円形~紡錘形、長さ1.5~2mm、両端に長いものでは15mmに達する尾状突起があり、表面には細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯(芹沢 76242)、下山(芹沢 83081)、岡崎南部(小林 67232)、瀬戸尾張旭(芹沢 56817)、日進長久手(村瀬・半田 1297)。豊橋南部にもあるという(小林, 2000)。刈谷知立(小堤西池、芹沢 42207, 1985-10-3)にもあったが絶滅した。新城(千郷村野田, 鳥居喜一 9258, 1946-8-27, HNSM)、蒲郡御津(御津町広石, 小林元男 24420, 1982-8-11)、豊橋北部(葦毛、鳥居喜一 9260, 1949-9-25, HNSM)、田原赤羽根(野田村, 鳥居喜一 9262, 1949-10-2, HNSM)、豊田北西部(猿投石野, 井波一雄 s.n., 1958-9-17, CBM124095)、豊明東郷(東郷村, 井波一雄 s.n., 1968-8-21, CBM200119)、名古屋北部(守山町小幡, 井波一雄 s.n., 1932-10-1, CBM222823)、名古屋南東部(緑区徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-30)で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

【生育地の環境 / 生態的特性】

水のきれいなため池、谷戸田、その周辺の水路などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所も個体数はそれほど多くない。刈谷知立(小堤西池)では、カキツバタ保護の目的で行われたスイレン駆除のために水質が変化したらしく、ヒメコウホネやミスミイなどと共に絶滅した。

【保全上の留意点】

谷戸田についてはセトヤナギスブタの項(252頁)、ため池についてはマルミスブタの項(253頁)を参照されたい。また小堤西池での事例に関しては、ミスミイの項(74頁)を参照されたい。

【特記事項】

ミカワスブタ *B. leiosperma* Koidz. は、実体がよくわからない。スブタの一型とも、ヤナギスブタの貧弱なものとも言われている(角野, 1994)。もしはっきりした種類であれば、絶滅種になる。

【引用文献】

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.25. 文一総合出版, 東京.  
小林元男, 2000. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.40, 133. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲp.395、平草本Ⅰp.4、SOS旧版p.89、環境庁p.560、SOS新版p.126,128.  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

## コウガイモ *Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。低地性の水草で、愛知県では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

沈水性の多年生草本。茎は短く、葉を束生し、やや太くて多数の小さいとげがある走出枝を出し、栄養的に繁殖する。葉は線形、長さ 80cm に達し、先端は鈍頭～鋭頭、辺縁は全体にわたり明瞭なとげ状の鋸歯がある。花期は 8～10 月、雌雄異株、雄性の苞鞘は長さ約 1cm、中に小さい花が多数で、花柄が切れて水面に浮き上がる。雌性の苞鞘は円筒形、柄は水深に応じて長く伸び、水面に達して 1 個の花をつける。苞鞘の柄は花後らせん状に巻く。秋に、走出枝の先端に長さ 1～3cm の殖芽をつける。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

一宮木曾川（渡辺幸子 4812）、稲沢平和（渡辺幸子 4814）、海部東部（芹沢 77577）、海部西部（芹沢 77579）。4 区画にわたっているが、現存が確認できるのは現在のところ大江川／蟹江川水系だけである。しかし、以前は周辺の他の河川にも生育していたらしく、名古屋南西部（港区西福田戸田川、浜島繁隆 s.n., 1981-7-31）で採集された標本もある。

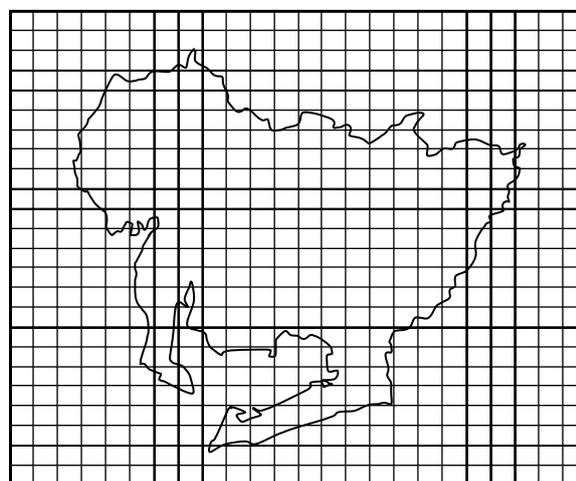
#### 【国内の分布】

本州および九州に生育するが、関東地方と近畿地方以外では少ない。

#### 【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

平野部の池沼や小河川に生育する。セキショウモより大きい河川に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

蟹江川では、現在の所はよく生育しており、個体数も多い。

### 【保全上の留意点】

水質を維持し、できれば改善することが必要である。河川改修の際にも注意が必要である。

### 【特記事項】

和名は、殖芽の形状が昔頭髮具として使われたこうがいに似ているからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.393、平草本Ⅰ p.6、SOS 旧版 p.90。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.

ササバモ *Potamogeton malaiianus* Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。低地性の大型の水草で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

沈水性、時に一部浮葉性の多年生草本。地下茎は横にはい、1節おきに水中茎を出す。水中茎は分枝し、長さ3mを超えることもある。葉は互生し、通常は全て沈水葉、長さ2~7cmの葉柄があり、葉身は線状楕円形、長さ8~15cm、幅1~2.5cm、先端は急に細まって芒状に突出し、葉縁は波打って不明瞭な細鋸歯があり、7~13本の葉脈がある。浮葉は沈水葉に比べてやや厚いが、二型性はあまりはっきりしない。花期は7~9月、葉腋から長さ4~8cmの花茎を出し、その先に長さ3~5cmの穂状花序をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

岩倉西春（鈴木幸子 678）、海部東部（芹沢 71174）、海部西部（芹沢 74716）。豊橋北部（石巻小野田町傘呂用水，恒川敏雄 s.n., 1960-6-12, TMNH）で採集された標本もある。濃尾平野の岐阜県側には、大きな群落がある。

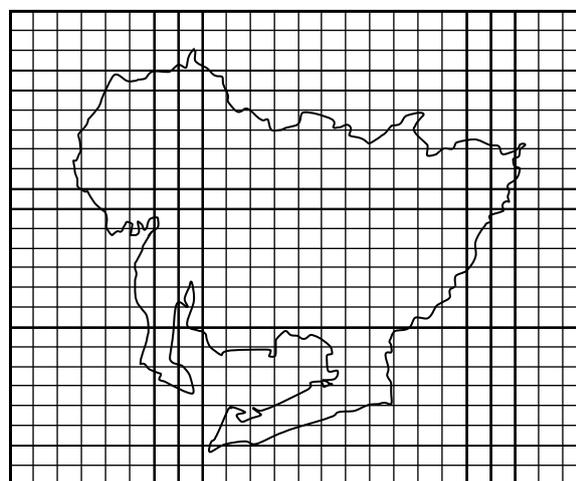
【国内の分布】

北海道（稀）、本州（東北地方南部以南）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本からインド、ニューギニアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川に生育することが多いが、池沼でも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

海部東部では一度採集されただけで、その後確認できない。海部西部の記録は木曾川の岸に打ち上げられたもので、どこかに群落があると思われるが、その場所はまだ確認できない。

【保全上の留意点】

継続的に生育している安定した自生地を確認することが先決である。

【特記事項】

本種とヒルムシロの自然雑種であるアイノコヒルムシロ *P. × malainoides* Miki は、江南丹羽、小牧、岩倉西春、名古屋北部などの小河川に比較的多く生育している。

【関連文献】

保草本Ⅲp.415、平草本Ⅰp.11。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.37. 文一総合出版, 東京.

オヒルムシロ *Potamogeton natans* L.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。温帯性の水草で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

浮葉性の多年生草本。地下茎は水底の泥中をはい、1節おきに水中茎を出す。水中茎は水深に応じて伸び、下部に沈水葉、上部に浮葉を互生する。浮葉は長さ 10～18cm の柄があり、葉身は長楕円形～楕円形、長さ 5～10cm、幅 2～4cm、基部は円形またはやや心形となる。沈水葉は狭線形で、葉柄と葉身の区別がなく、長さ 15～20cm である。花期は 5～8 月、浮葉の腋から長さ 6～9cm の花茎を出し、その先に長さ 3～5cm の穂状花序をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（芹沢 81617）、新城（芹沢 78175）、藤岡（芹沢 78051）、豊田東部（山崎玲子 2438）、豊田北西部（村松正雄 24558）。

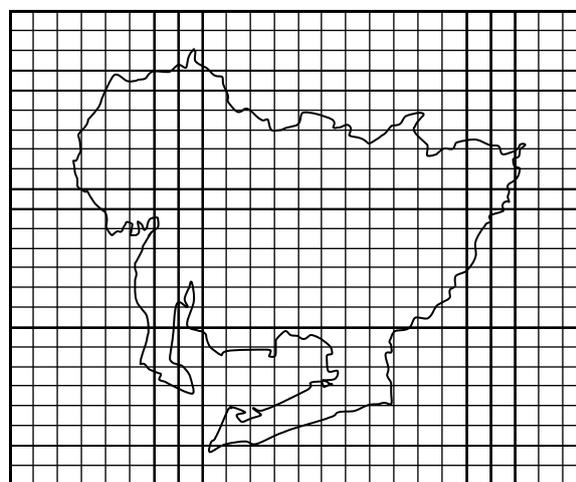
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。

【世界の分布】

北半球の温帯域に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湖沼や河川に群生する。愛知県の生育地は丘陵地のため池で、林に囲まれた深い池に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所では群生している。藤岡の 1 カ所では、池にコイが放流され、激減した。

【保全上の留意点】

生育地のため池の改修を避け、水質を保全することが必要である。草食性魚類の放流も避けるべきである。

【特記事項】

フトヒルムシロ *P. freyeri* A. Benn. に似ているが、水中葉が線形である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.412、平草本Ⅰ p.11。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.32. 文一総合出版, 東京.

ツツイトモ *Potamogeton panormitanus* Biv.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に稀少な水草である。

【形態】

沈水性の多年生草本。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は狭線形、長さ 3~5cm、幅 0.6~1mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、1 脈があり、基部は葉鞘とならない。托葉は両側で合着して筒状となる。花期は 6~7 月、花茎は長さ 1.3~2cm、花序は穂状で、長さ 4~7mm、花は 2 段に分かれてつくことが多いが、連続的につくこともある。殖芽は秋に枝の先端につき、長さ 1.3~2cm、イトモのものに比べてずっと細い。

【分布の概要】

【県内の分布】

蒲郡御津（小林 79268）、豊橋南部（芹沢 78726）、田原赤羽根（芹沢 78725）、渥美（芹沢 79234）、幡豆（芹沢 81061）。

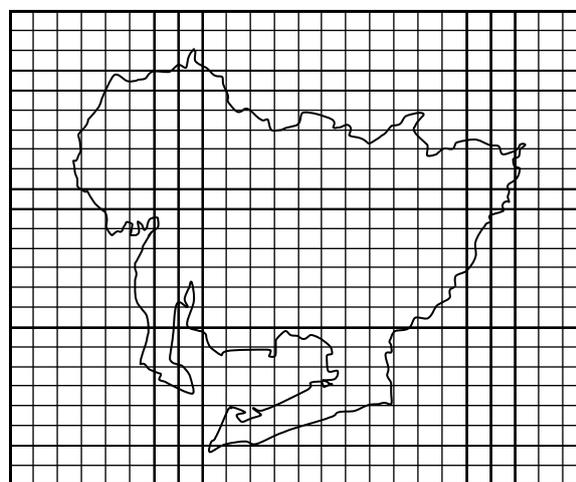
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸に近い池沼に生育する。愛知県での生育地は養魚場跡地か海岸堤防内側の水路である。開花期は初夏で、養魚場跡地では夏に一度消失し、秋に再度出現して殖芽をつけることが多い。夏は水温が高すぎて生育できないのであろう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は三河湾岸に点在している。少数株が見られるだけのこともあるが、かなり個体数の多い場所もある。過去からの増減ははっきりしないが、近年になって増加した可能性もある。

【保全上の留意点】

養魚場跡地はウナギ養殖の衰退に伴って一時的に形成された環境なので、そのうちに埋め立てられる可能性が高い。代表的な場所については保全を検討する必要がある。海岸沿いの水路については、水質の保全が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。愛知県の場合、イトモ *P. pusillus* L. (596 頁) は海岸部には生育していない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.415、平草本Ⅰp.12、環境庁 p.190。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.45. 文一総合出版, 東京.

## サガミトリゲモ *Najas foveolata* A.Br.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも個体数が少ない。

### 【形態】

沈水生の1年生草本。茎はよく分枝し、長さ10~25cmになる。葉は多少外側に反り返り、線形、長さ約1.5~2.5cm、幅約0.5mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は長さ2~2.5mmの葉鞘となり、葉鞘の先端は切形または円形で小刺がある。花期は7~9月、雌雄同株で花は葉腋につく。果実は1個の種子があり、種子は長楕円形で長さ2.5~3mm、表面には顕著な四~六角形の網目がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来北東部(小林 57860)、新城(小林 62492)、豊川宝飯(小林 79898)、蒲郡御津(小林 79979)、豊橋北部(小林 62462)、田原赤羽根(小林 72706)、足助(芹沢 71035)、下山(芹沢 83083)、小原(塚本威彦 1228)、豊田東部(畑佐武司 4847)、瀬戸尾張旭(芹沢 74919)。生育区画数は比較的多いが、各区画とも1~2カ所で確認されているにすぎない。安城にもあるという(安城市史編集委員会, 2005)。

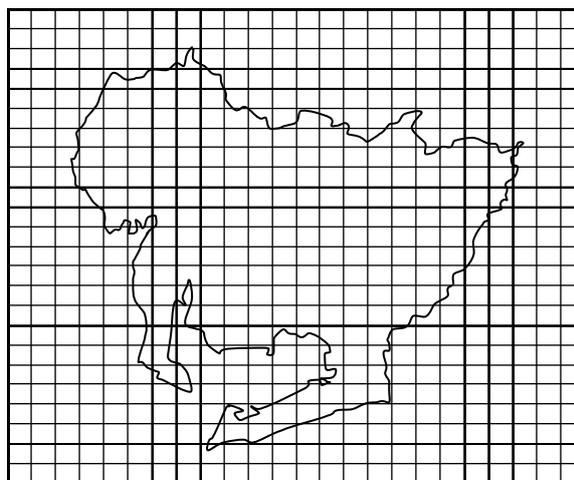
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球に生育する。

#### 【世界の分布】

東アジアに分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

谷戸田やそのわきの水路に生育する。池沼に生育することは少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。ほとんど谷戸田だけに生育しているため、耕作放棄により消滅する可能性も高い。イトトリゲモと異なり、近年増加しているという傾向も認められない。瀬戸市では、宅地開発事業のための土地買収に伴い大部分の水田が耕作されなくなり、危機的な状況に追い込まれた。

### 【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態が維持できるよう、配慮が必要である。

### 【特記事項】

ヒロハトリゲモとも呼ばれる。しばしばイトトリゲモと同所的に生育しているが、それより全体に大型で、葉の幅が広い。愛知県ではイトトリゲモよりはるかに希少な植物で、保全上の重要性も高い。

### 【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.102. 安城市, 安城.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.409、平草本Ⅰp.18、環境庁 p.365、SOS新版 p.126,128。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.

## イバラモ *Najas marina* L.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。池沼に生育する水草で、愛知県では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

沈水性の1年生草本。茎は硬く、水底をはって分枝し、長さ30～60cmになり、まばらに刺がある。葉は対生し、葉身は線形、長さ3～6cm、幅2～3mm、質はやや硬く、辺縁に刺状の大きな鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は全縁である。花期は7～9月、雌雄異株で花は葉腋につき、雄花は長さ3～4mm、膜質の花被の中に1個の雄ずいがあり、雌花は花被がなく、1個の雌ずいがある。種子はゆがんだ楕円形、長さ4～6mm、幅2～3mm、表面の網目は明らかでない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

新城（小林 62490）、豊橋北部（小林 58429）、渥美（芹沢 78716）。3区画の各1カ所で確認されている。

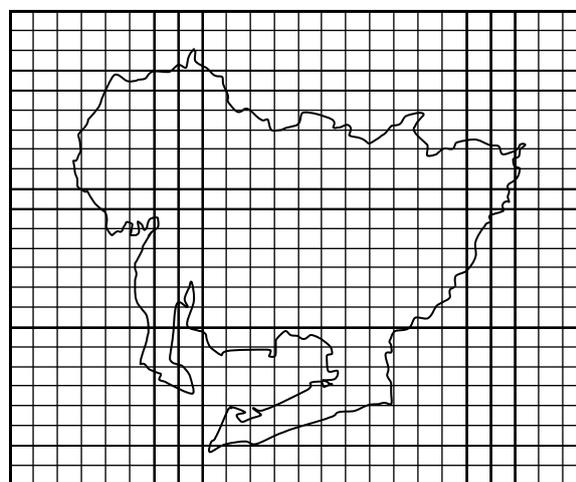
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

世界の温帯～熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

湖沼やため池に生育する。稀に河川や水路に生育することもある。愛知県の生育地は、新城と豊橋北部はため池、渥美は養魚場跡地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

新城と豊橋では水が濁っていて生育状態がよくわからないが、おそらくは危機的状況である。渥美ではよく生育していたが、2008年にはハスが植栽されており、ガマも侵入していて、本種は確認できなかった。ただしくまなく探索したわけではないので、まだ多少は残存しているのではないかとと思われる。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、幹線用水路の整備につれてため池に対する依存度が低下したため、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚染が進んだりしてものも多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を改修せずに保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

### 【特記事項】

和名は、葉が硬く、葉縁の鋸歯が目立つからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.407、平草本Ⅰp.18、SOS旧版p.91。  
角野康郎, 1994. .日本水草図鑑 p.52. .文一総合出版, 東京.

## ホンゴウソウ *Andruris japonica* (Makino) Giesen

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい腐生植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎は極めて細く、直立してまばらに分枝し、高さ 3~13cm になる。葉は鱗片状で長さ約 1.5mm、茎と共に紫褐色である。花期は 7~10 月、茎や枝の先端に長さ 0.5~2cm の総状花序をつけ、4~15 個の花をつける。花は単性で、花序の下部は雌花、上部は雄花となる。雄花は直径約 2mm、花被は 6 裂し、うち 3 個は大きく、他の 3 個は小さく先端に球形の付属体をつける。果実は多数の心皮が集まり、球形で直径約 2mm の集合果となる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来北東部（永田芳男 s.n.）、渥美（永田芳男 s.n.）、豊田東部（木村修司 s.n.）、豊田北西部（木村修司 s.n.）。このほか新城（庭野，鳥居喜一、1941-9-14, HNSM）、江南丹羽（大口村，井波一雄 s.n., 1942-6-28, CBM 182080）、一宮木曾川（大赤見八幡神社，戸松滋正 s.n., 1934-8-19）で採集された標本があり、このうち一宮木曾川の自生地は国指定天然記念物であった。大原（1971）は瀬戸も産地としてあげているが、裏付けとなる資料は残されていない。

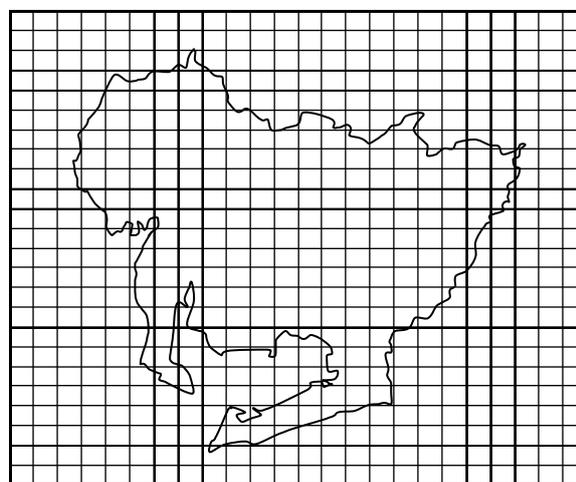
#### 【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球にややまれに生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

暗い林内の落葉の間に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

レッドデータブックあいち 2001 植物編では「絶滅」としたが、その後自生地が 4 カ所発見された。しかしどの場所も個体数は少なく、特に豊田東部は 1 株確認されただけである。長期的には、全体的な林の乾燥化により減少していると思われる。一宮木曾川では、伊勢湾台風により林が破壊され、絶滅したと言われる。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を、周辺部も含めて保全することが必要である。

### 【特記事項】

和名は、三重県楠町本郷で最初に発見されたからである。一般的な維管束植物の観察者には極めて見つけにくい植物なので、注意して探索すれば産地は更に追加されると思われる。

### 【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.128. 名古屋営林局, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.391、平草本Ⅰp.19、SOS 旧版 p.91、環境庁 p.366.

**キイトラッキョウ** *Allium virgunculae* F.Maek. et Kitam. var. *kiiense* Murata

**【選定理由】**  
個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。全国的に減少傾向の著しい岩崖地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。

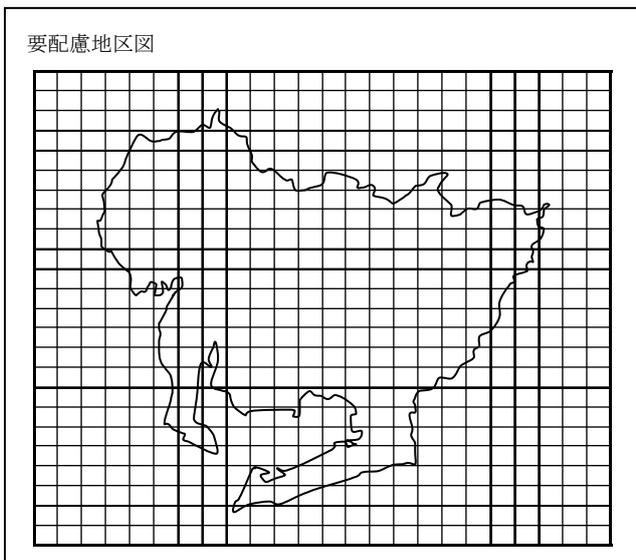
**【形態】**  
多年生草本。地下に狭長楕円形で長さ 20～25mm の鱗茎がある。鱗茎の外皮は淡褐色で、繊維に分解しない。葉は束生し、長さ 10～20cm、細い円柱形で直径 1mm 程度である。花期は 11 月、花茎は高さ 8～20cm、花茎に葉はつかず、先端に 5～20 個の花を散形につける。花被片は 6 個、紅紫色、卵形、長さ 5～6mm、先端は鈍頭である。雄ずいは 6 個で、花被片よりはるかに長い。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**  
東栄（小林 39930）、設楽東部（榊原利修 1458）、鳳来北東部（加藤等次 2256）、鳳来南部（小林 62722）、犬山（芹沢 78410）。西三河では現在のところ確認されていない。

**【国内の分布】**  
本州（愛知県、岐阜県、和歌山県、山口県）に生育する。

**【世界の分布】**  
日本固有。種としても日本固有である。



**【生育地の環境 / 生態的特性】**  
山地の岩崖地や、河岸の岩場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**  
東三河では、点在するが個体数は少ない。犬山（木曾川河川敷）では、岐阜県側に比べれば少ないが、それでもかなりの数が生育している。園芸目的の採取により減少している。

**【保全上の留意点】**  
犬山については、観光開発等により河川敷の岩場を破壊しないよう、特に注意が必要である。東三河の生育地については当面開発の可能性は低く、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**  
基準変種のイトラッキョウは花がやや大きく、雄ずいがやや短いもので、長崎県平戸島に分布している。

**【関連文献】**  
平草本 I p.36、SOS 旧版 p.92、環境庁 p.565、SOS 新版 p.51,53。

コフキイワギボウシ *Hosta longipes* (Franch. et Sav.) Matsum. var.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。おそらく愛知県東三河地方に固有の未記載の植物で、ある場所には群生しているが、生育地が少ない。評価点の合計は 14 であるが、とても手が届かない岩壁にも生育していて近い将来完全に絶滅するとは考えにくいので、絶滅危惧Ⅱ類と評価する。

【形態】

多年生草本。根茎は短い。葉は 3~7 枚が束生し、葉柄は長さ 8~20cm、紫黒色の小斑が多い。葉身は卵形~広卵形、長さ 12~20cm、幅 6~13cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形~浅い心形、質はやや厚く、表面はやや光沢があり、裏面は粉白を帯びることが多いが緑色のこともある。側脈は 6~8 対ある。花期は 8~10 月、花茎は長さ 25~60cm、先端部の長さ 8~25cm の総状花序に多数の花をつける。苞は開出せず、開花時にしおれて膜質となる。花冠は長さ 4~5cm、狭筒部は広筒部より短く、先端は 6 裂し、淡青紫色であるがほとんど白色のこともある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部(芹沢 82059)、鳳来北東部(芹沢 82580)。観察しやすい場所としては、鳳来寺山パークウェイ駐車場から本堂に行く途中の道路下側の岩壁に大きな群落がある。

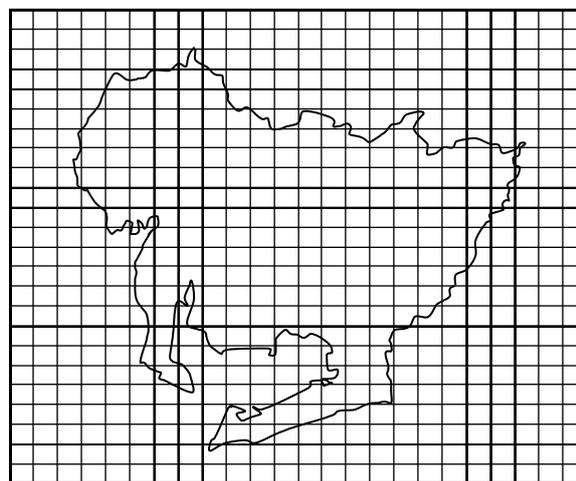
【国内の分布】

本州(愛知県)だけに分布している。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩壁に生育する。ウラジロギボウシと異なり、やや乾いた場所に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

群生している場所もあるが、近年の夏の高温乾燥傾向により衰退している。ウラジロギボウシほどではないが園芸目的の採取も行われており、手が届く範囲のものはかなり減少している。道沿いの切り通し等に生育しているものは、工事により失われるおそれもある。鳳来北東部の 1 カ所では、道路の拡幅によって生育していた岩壁が削られ、ほぼ絶滅した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、保護されている場所やとても手が届かない場所以外は、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

以前から気づいていた植物であるが、環境省植生図調査担当者から質問を受けたのでリストに掲載しておく。イワギボウシ var. *longipes* に似ているが、葉が丸味を帯びて表面にやや光沢があり、裏側はしばしば粉白を帯びる。花期は長く、8 月中旬から 10 月上旬まで咲いている。イワギボウシは、愛知県では富山、豊根、稲武に生育している。

ワニグチソウ *Polygonatum involucratum* (Franch. et Sav.) Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。地下茎は細く、節間は長くて横走り、先端から 1 本の地上茎を出す。地上茎は高さ 20～40cm、下部は直立し、上部は斜めに傾く。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ 4～10cm、幅 2～4cm、先端は急に狭くなって鈍頭、基部は広くさび形、辺縁は全縁、裏面はやや粉白色となる。花期は 5～6 月、花柄は葉腋から下垂し、先端に 2 個の苞をつけ、その内側に 2 個の花がつく。苞は卵形、長さ 15～25mm、葉状で平滑、花筒は白緑色で長さ約 25mm、先端は 6 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 31351）、稲武（小林 38037）。

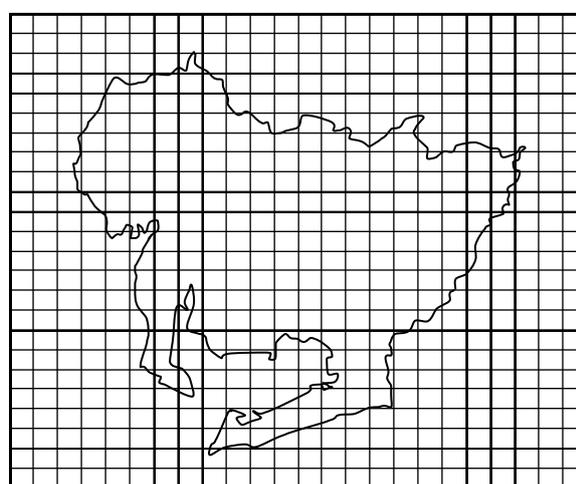
【国内の分布】

北海道西南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリ

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。愛知県の生育地は、落葉広葉樹の二次林とヒノキ造林地内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に小群落があるだけである。「個体数は 2 カ所で 50 株以下と少なく、しかも間伐などの手入れ不足で開花個体はほとんど見られない危機的な状況にある」（小林, 2006）と報告されている。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れを行う必要がある。二次林については、当面生育地の林を保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、2 枚の苞葉の形状を神社の拝殿に下がる鰐口に見立てたものである。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.77. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.112、平草本 I p.47、SOS 旧版 p.96.

ハナゼキショウ *Tofieldia nuda* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。岩崖地性の植物で、愛知県では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。根出葉は 2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形で長さ 5~25cm、先は長くとがり、全縁である。花茎は高さ 10~30cm、2~3 個の小型の葉がつき、平滑である。花期は 7~8 月、花茎の先端に長さ 3~12cm の総状花序をつけ、それぞれの苞の腋に 1 個の花をつける。花は斜め上向きに咲き、長さ 5~10mm の柄があり、花被片は 6 個で白色、線状長楕円形、長さ 3~4mm である。果実は蒴果で卵状楕円形、種子には尾状付属物がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 39929)、鳳来北東部 (加藤等次 1685)。

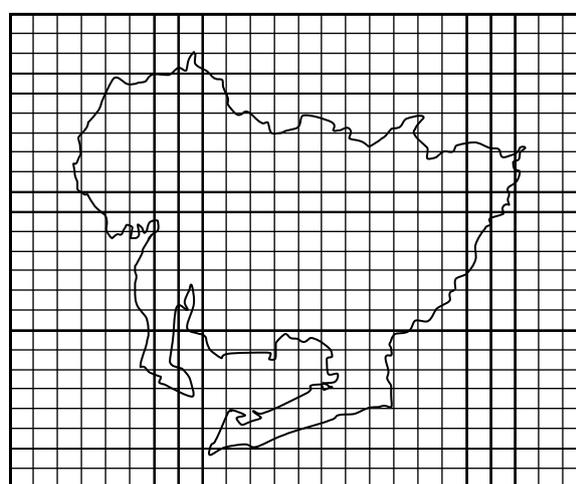
【国内の分布】

本州 (関東地方以西) および九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

ももとはそれほど少ない植物でなかったが、園芸目的の採取による減少が著しい。手が届く場所のものは、ほとんど消失している。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.155、平草本Ⅰp.27、SOS旧版p.95。

ウチワドコロ *Dioscorea nipponica* Makino

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 1、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生のつる性草本。地下茎は太く、円柱形で、横にはう。茎は長く伸び、短毛がある。葉は互生し、長さ 3～10cm の柄があり、葉身は広卵形～卵心形、長さ 7～16cm、幅 5～12cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、下部のものは掌状に浅裂し、裏面脈上に短毛がある。花期は 7～8 月、雌雄異株で、雄花序は斜上して分枝し、雄花はほとんど無柄、花被片は 6 枚で黄緑色、長さ 1mm、全体として鐘形で平開せず、6 個の雄ずいがある。雌花序は下垂し、穂状である。果実は蒴果で広倒卵形、3 翼がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武(日比野修 4055)、旭(日比野修 3625)。

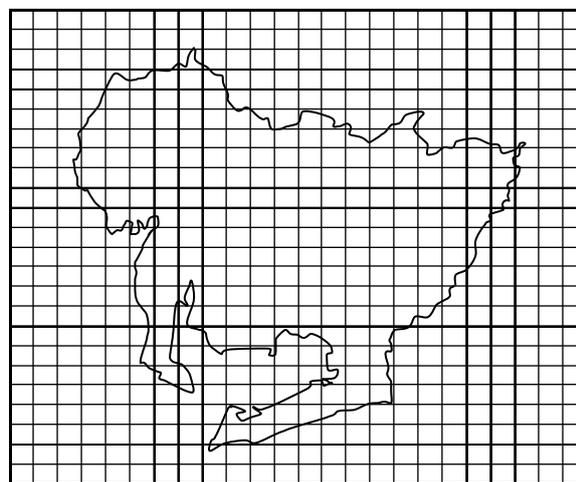
【国内の分布】

北海道および本州(中部地方以北)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁に生育する。愛知県の生育地は、矢作川に沿った竹林の林縁である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に生育しているが、個体数はどちらもごく少ない。

【保全上の留意点】

林縁に生育するつる植物で花も目立たず、オニドコロなどと混同されて疎略に扱われる可能性が高い。護岸工事や道路の拡幅の際には、注意が必要である。希少な植物であることを認識する必要がある。

【特記事項】

葉は掌状に切れ込むが、カエデドコロやキクバドコロに比べ切れ込みが浅い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.82、平草本Ⅰp.57。

## カキツバタ *Iris laevigata* Fisch.

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯の湿地に生育する植物で、愛知県では自生のものは生育地が限られている。栽培品の逸出と思われるものは、評価の対象外である。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は分枝して多くの繊維に被われる。葉は根生して互生し、2列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、広い線形、長さ30~70cm、幅2~3cm、中脈はない。花期は5~6月、花茎は高さ40~70cmで、先端に鞘状の苞をつけ、その中に2~3個の花がつく。花は青紫色で直径12cm程度、外花被片は3枚、拡大部は楕円形で垂れ、長さ5~7cm、中央に白色~淡黄色の条がある。内花被片は倒披針形、長さ約6cmで直立する。果実は蒴果で長楕円形、長さ4~5cmである。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

稲武（芹沢 57859）、作手（芹沢 81537）、刈谷知立（奥岡啓子 96）。ただし稲武は植栽起源の可能性がある。

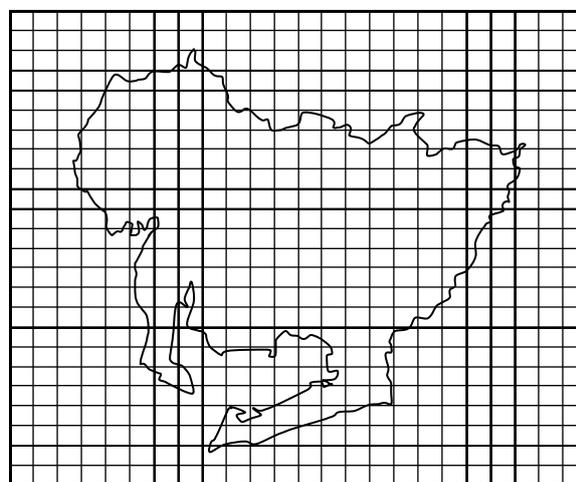
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。愛知県のほか京都府、鳥取県などに、天然記念物に指定された群落がある。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿地や、池沼などの水辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

刈谷市の小堤西池は国の天然記念物に指定されているが、過度の管理によって共存する他の植物に深刻な悪影響が出ている。ヒメコウホネ、スブタ、ミスミイなどは絶滅した。カキツバタ自身も、手入れに伴う水抜きや踏み込みの影響で本来の自然状態が失われ、かなり衰退している。近くの牛池にあったカキツバタは、水の汚れにより絶滅した。このほか、平野部や丘陵地のところどころに野生状態で生育しているものがあるが、その大部分は栽培品の逸出と思われる。

### 【保全上の留意点】

ナガバノイシモチソウとともに、過剰管理が問題になっている植物の代表例である。小堤西池は人為的管理が継続されてきた場所であるから、自然のままに放置すればカキツバタは消滅する。その意味で、管理は必要なことである。しかしその管理は、カキツバタの保全を目的として行われてきたものではなかったはずである。管理の目的が特定種の保全になってしまうと、生物多様性全体に対してはむしろ悪影響を与える場合が多いことを忘れてはならない。詳細はミスミイの項(74頁)を参照されたい。

### 【特記事項】

和名は「書き付け花」の転化と言われる。漢字で杜若や燕子花をあてるのは誤りである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.79、平草本Ⅰp.61、SOS旧版p.97+図版20、環境庁p.572、SOS新版p.187。

## ヒナノシヤクジョウ *Burmannia championii* Thwait.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する腐生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

### 【形態】

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3～8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2～4mm である。花期は 8～10 月、花は茎の先端に 2～10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6～10mm、裂片は 3 角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋北部（龍川良克・郁子 234）、豊田東部（山崎玲子 2099）、岡崎南部（芹沢 78713）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 338）、名古屋北部（山田果与乃 413）。

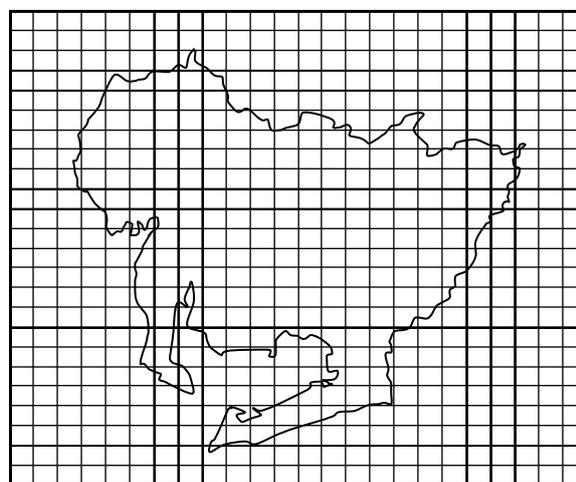
#### 【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在までに 5 区画の計 6 カ所で確認されているが、うち 4 カ所は偶然発見されたもので、継続的に出現する場所は 2 カ所だけである。里山の森林化は、大部分の植物にとって脅威であるが、本種の場合はむしろ好都合であり、今後発見される機会が増加する可能性もある。その一方で、名古屋北部では市民参加らしい里山保全活動によって生育地の林床が踏み荒らされており、2008 年には生育が確認できなかった。

### 【保全上の留意点】

過去に生育が確認された場所やその周辺の森林を保全することが必要である。また、里山保全活動を行う場合は、林床の踏み荒らしを極力回避する必要がある。

### 【特記事項】

小型で見つけにくい植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査時には、特に注意が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.70、平草本Ⅰp.63、SOS 旧版 p.97+図版 3、SOS 新版 p.74,76。

**シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.**

**【選定理由】**

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 4。本地域の湧水湿地の代表的な固有種である。

**【形態】**

1年生草本。茎は通常ごく短い、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ5～30cm、幅1～5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は8～10月、花茎は1本のものから50本以上出るものまであり、直立して高さ15～60cm、4肋があつてねじれ、基部に3～12cmの鞘があり、先端に1個の頭花をつける。頭花は球形、直径5～10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は3室である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

豊川宝飯(芹沢 53594)、豊橋北部(芹沢 78852)、豊橋南部(芹沢 56675)、田原赤羽根(芹沢 56701)、渥美(芹沢 57929)、藤岡(芹沢 77666)、豊田東部(芹沢 60057)、豊田北西部(芹沢 62628)、三好(芹沢 81094)、瀬戸尾張旭(芹沢 73328)、日進長久手(芹沢 78033)、豊明東郷(芹沢 59861)、半田武豊(芹沢 76155)、常滑(相羽福松 4052)、知多南部(中井三従美 52)、犬山(芹沢 60252)、春日井(村松正雄 18978)、名古屋北部(鳥居ちよ子 503)、名古屋南東部(芹沢 53337)。このほか刈谷知立(刈谷市牛池、芹沢 38107, 1983-9-17)などにもあつたが絶滅した。

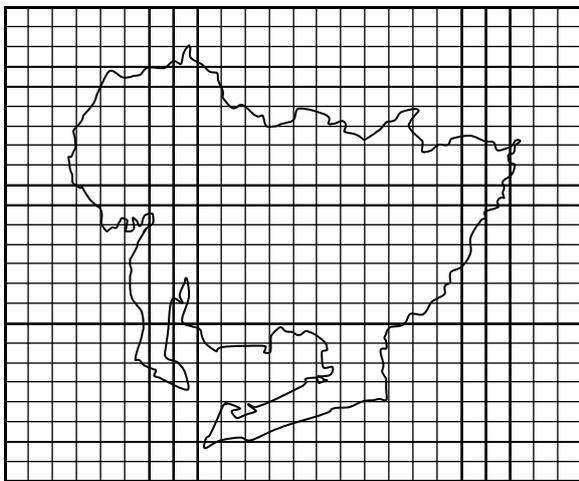
**【国内の分布】**

本州(静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部)に分布する。

**【世界の分布】**

日本固有種。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

現在のところはまだまだあちこちに生育しており、個体数も多い。しかし、各種開発により本種が生育できる丘陵地そのものが減少しており、「どこにでも、いくらでもあつた」と言われる過去の状態に比べれば、減少傾向は明らかである。過去20年間に消失した自生地は数多いが、その間に自然に分布を拡大して形成されたと思われる自生地は2例しかない。

**【保全上の留意点】**

湧水湿地の保全が必要である。特に尾張北部では生育する湿地が限定されており、ある湿地には多産するが、隣接する同じような湿地には全く見られないことも多い。これらの地域では、特定の小湿地の破壊が直ちに地域集団の消滅につながる場合もあり、注意が必要である。

その一方で本種は、本地域の固有種として有名でしかも花が目立つため、もともとはなかった湿地に何者かの手で播種されることも多い。その結果は、すぐに消滅することもあるが、著しく増加し、本来の自然状態に対する大きな脅威となることもある。湿地はどれも同じではなく、それぞれに個性がある。本来ないものは、「ない」のが自然の姿である。一度播種すれば、将来自然に分布を拡大してきて自生と判断できなくなり、保全の対象から外れてしまう。

**【特記事項】**

近年自然に対する市民の関心が高まったため、「ある」という話が広まるとすぐにぞろぞろと人が押し掛け、踏み荒らされて湿地が荒廃する例があつた。自然に親しむ行為は、それ自体が自然破壊行為の要素を含むことを認識する必要がある。

**【関連文献】**

保草本Ⅲp.182、平草本Ⅰp.80、SOS旧版p.98+図版18、環境庁p.576、SOS新版p.90,92。

## クロホシクサ *Eriocaulon parvum* Koernicke

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも生育地が少ない。

### 【形態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して通常ロゼット状に広がり、線形、長さ 2~4cm、幅 0.5~1.8mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 9~10 月、花茎は多数つき、高さ 8~15cm、5~6 本の肋があって少しねじれ、先端に球形の頭花をつける。頭花は直径 4~5mm、藍黒色、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、倒卵形、小花には白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

渥美（芹沢 83811）、豊田東部（山崎玲子 2102）、春日井（芹沢 76592）、名古屋北部（鳥居ちる子 1497）。ただし豊田東部では、貧弱な 1 個体が確認されただけである。豊川宝飯（一宮町足山田，鳥居喜一 7177, 1962-9-30, HNSM）、豊橋北部（岩崎町長尾池、恒川敏雄 s.n., 1970-9-26, TMNH）、豊田北西部（猿投村加納，井波一雄 s.n., 1960-10-23, CBM193593）で採集された標本もある。

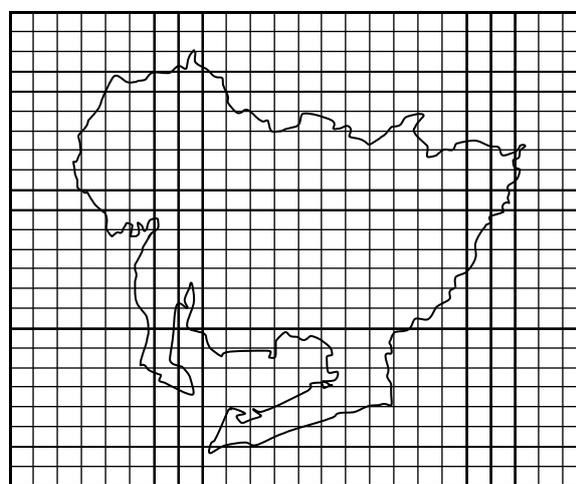
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池の周辺や水田などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美では一つの貯水池（初立ダム）、春日井では隣接した 2 つのため池（大泉寺池、鋏小池）、名古屋北部では 1 つのため池（大久手池）に生育している。ただし個体数は年による変動が著しく、水が引かなかった年には全く出現しないこともある。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されている池沼（特に初立ダム、大泉寺池、大久手池）は、他の植物も多く生育しており、水辺地形や水質を注意して保全することが必要である。

### 【特記事項】

ホシクサ *E. cinereum* R.Br. と混生していることが多く、全体の形状はそれによく似ているが、頭花が黒く、小花に白色の短毛がある。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 10 に掲載されている。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.179、平草本Ⅰp.78、環境庁 p.375、SOS 新版 p.119,121。

## ヒナザサ *Coelachne japonica* Hack.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。小型の湿地性植物で、県内では減少傾向が著しい。

### 【形態】

小型の1年生草本。稈は細く、基部は横にはって分枝し、先は立ち上がって高さ5~20cm、節に短い毛がある。葉は互生し、葉身は披針形、長さ1~3cm、幅3~6mm、先端はとがり、基部は円形、両面とも無毛、葉鞘は節間より短く、ほとんど無毛、葉舌はない。花期は8~10月、花序は小さい円錐状で長さ1.5~3cm、枝は短く、4~20個の小穂がつく。小穂は長さ約2.5mm、淡緑色、1個の両性小花、または1個の両性小花と1個の雌性小花からなり、芒はない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

作手(小林 53031)、新城(小林 39514)、豊田北西部(芹沢 60904)、岡崎南部(芹沢 70956)、瀬戸尾張旭(芹沢 53500)、日進長久手(芹沢 76605)、犬山(芹沢 78123)、春日井(村松正雄 21463)。三好(黒笹、芹沢 50803, 1988-10-14)にもあったが絶滅した。このほか豊川宝飯(一宮町足山田, 鳥居喜一 7171, 1962-9-30, HNSM)、豊橋北部(岩田町, 恒川敏雄 822, 1946-9-24, TMNH)、名古屋北部(名東区牧野池, 井波一雄 s.n., 1949-10-2, CBM198144)、名古屋南東部(緑区黒石、浜島繁隆 s.n., 1969-10-10)で採集された標本もある。

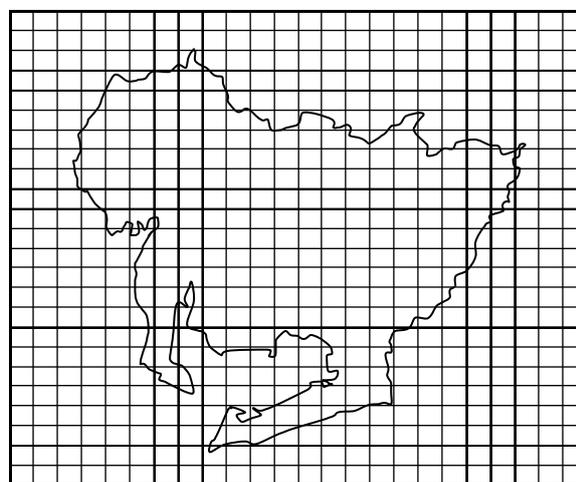
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の水のきれいなため池の周辺などの湿地や、時には浅い水中に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域		○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの区画でも、生育地は特定の場所に限られている。三好では宅地造成により生育地の丘陵が崩され、絶滅した。管理放棄に伴うため池の消失によりなくなることも多く、瀬戸市では5カ所のうち4カ所で消滅した。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多数の農業用ため池があるが、本種が生育できるような生活排水が流入しない位置にあるため池は、現在ではほとんど残っていない。良好な状態にあるため池を、一つでも多く保全することが必要である。

### 【特記事項】

小型の植物であるため、個体数は正確にはかなりの数になるが、実際の量は少ない。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.339、平草本Ⅰ p.97、SOS 旧版 p.99、SOS 新版 p.114,116。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.656-657. 平凡社, 東京。

アラゲメヒシバ *Digitaria violascens* Link var. *lasiophylla* (Honda) Tuyama

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1年生草本。稈は基部で多少分枝して束生し、高さ20~40cmになる。葉は互生し、葉身は披針形、長さ3.5~8cm、幅3~6mm、先端は鋭尖頭、両面に長い軟毛がやや密にあり、葉鞘にも長い軟毛がある。花期は8~10月、花序は長さ3~8cmの枝を2~3本つけ、その枝に小穂がならぶ。小穂は楕円形、長さ1.5~2mm、淡緑色、不稔の第一小花と結実する第2小花からなり、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 70550）、新城（芹沢 79527）、豊川宝飯（小林 80458）。

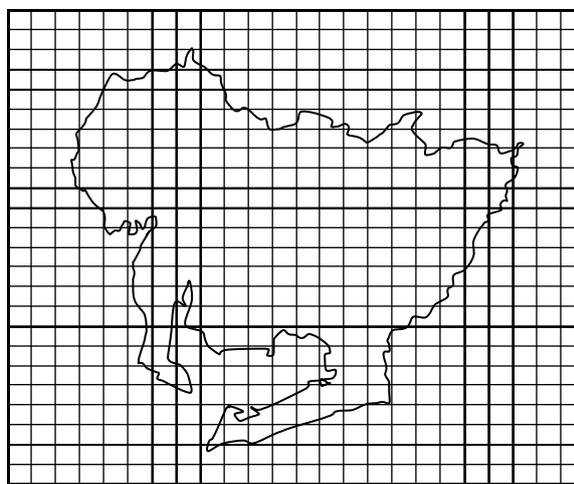
【国内の分布】

詳細な分布はよくわからない。

【世界の分布】

日本固有らしい。種としてはアジア、オーストラリア、南北アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般的な生育環境はよくわからない。愛知県の生育地は、蛇紋岩地のやや攪乱された半裸地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は蛇紋岩地の中ではそれほど特別な条件の場所とは思えないが、実際には3カ所でしか確認されていない。1年生草本のため、個体数にはかなり年による変動がある。やや攪乱された場所に生育しているので、大規模な造成等がなければ、現状のまま存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

何が分布を制約しているのか、よくわからない植物である。適度の攪乱が必要なことは明らかである。

【特記事項】

基準変種のアキメヒシバは、各地に普通な雑草である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.375、平草本Ⅰp.99。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.630-631. 平凡社, 東京.

イトスズメガヤ *Eragrostis bulbifera* Steud.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。稈は少数が束生し、細くて硬く、直立し、高さ 30～60cm になり、基部には翌年の芽がつく。葉は互生し、葉身は細い線形、長さ 10～20cm、幅 1～2.5mm、先端は鋭くとがり、灰色を帯びた緑色、葉鞘の口部には白色の長い毛があり、葉舌は毛の列となる。花期は 7～10 月、円錐花序は卵形、長さ 7～20cm、枝は基部にわずかに毛があり、多少ざらつき、斜上して更に枝を分け、まばらに小穂をつける。小穂は単生し、線状楕円形、長さ 5～10mm、幅 1.7～2mm、扁平で灰緑色から暗緑色、15～25 の小花をつけ、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

蒲郡（小林 73705）、田原赤羽根（小林 73618）、渥美（芹沢 73281）。

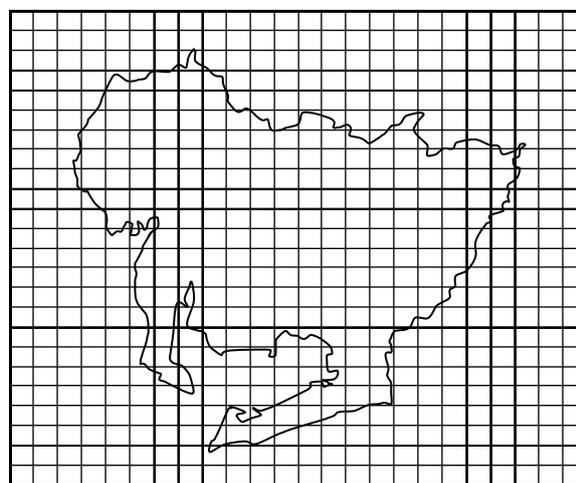
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、マレーシア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい半裸地に生育する。渥美の生育地は砂防用に植栽されたクロマツ林内の、まだ辛うじて砂丘状態が残存している場所である。蒲郡の生育地は、毎年草刈りされているやや湿った明るい法面という（小林, 2004）。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は限られており、個体数も少ない。渥美ではクロマツの生長に伴い砂丘状態が消失しつつあり、被陰されて、危機的な状況である。

【保全上の留意点】

渥美の生育地のクロマツは、もともと砂丘を消失させる目的で植栽されたものである。砂丘のような自然・半自然環境は、近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までもなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.62-63. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.333、平草本Ⅰ p.105、SOS 旧版 p.99。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.482-483. 平凡社, 東京.

ソゴメカゼクサ *Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1年生草本。稈は束生して小さい株をつくり、無毛、高さ50~100cmになる。葉は叢生し、葉身は狭線形、長さ10~20cm、幅2~5mm、先端は細く尖り、葉鞘は無毛、葉舌は長さ約0.5mmである。花期は8~11月、円錐花序は長い柱状で、直立して長さ20~50cm、枝は多数あるが、やや短く、下部では輪生状となり、斜上またはほぼ直立して更に枝を分ける。小穂は多数つき、卵形で小さく、長さ1~2mm、幅1~1.2mm、淡緑色で一部紅紫色になり、3~7個の小花をつけ、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山(芹沢 70937)。入鹿池の岸に生育している。新城(舟着村吉川, 鳥居喜一 8788, 1950-9-23, HNSM)、名古屋北部(東山, 井波一雄 s.n., 1941-10-1, CBM161689)で採集された標本もある。

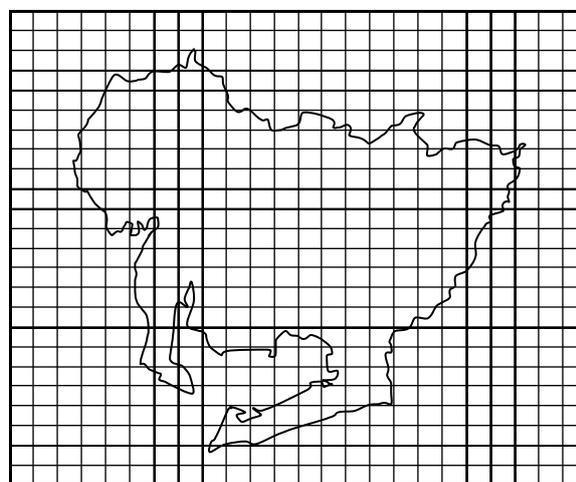
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸中南部、マレーシア、インド、アフリカ、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池の岸や水田の周辺などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的に見れば希少な植物ではないが、愛知県ではどういいうわけか少なく、生育地は1カ所しか確認されていない。個体数は年による変動があり、大きく干上がった年にはある程度の個体数が見られるが、水が引かない年には出現しないこともある。水質が大きく変わらなければ、現状のまま存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

入鹿池は愛知県で最大の農業用ため池で、秋期に干上がった岸には本種以外にもオオシロガヤツリ、トネテンツキなどが生育する。水辺地形や水質を注意して保全すると共に、現在行われている水管理を継続する必要がある。

【特記事項】

和名は、小穂が小さいからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.332、平草本Ⅰp.105。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.470-471. 平凡社, 東京.

ウンヌケモドキ *Eulalia quadrinervis* (Hack.) O. Kuntze

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。やせ山の草地に生育する植物で、森林化の進行により衰退傾向にある。

【形態】

多年生草本。稈は束生して直立し、高さ 60~100cm、茎の基部につく葉は鱗片状になり、赤褐色を帯び、無毛でやや光沢がある。葉は叢生し、葉身は線形、長さ 10~30cm、幅 3~7mm、両面ともまばらに短毛があり、葉鞘は白い毛が多く、葉舌は短い。花期は 9~10 月、花序は長さ 6~12cm の枝を 2~7 本つけ、その枝に小穂が並ぶ。小穂は有柄のものと無柄のものが対になってつき、線状楕円形、長さ 5~6mm、毛は少なく、不稔の第 1 小花と結実する第 2 小花からなり、第 2 小花の護穎には長い芒がある。種子が熟すと、花序の枝が折れて散布される。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（小林 29451）、豊川宝飯（小林 33941A）、御津（小林 33941B）、田原赤羽根（芹沢 83633）、渥美（芹沢 54086）、下山（芹沢 83601）、藤岡（芹沢 75203）、豊田北西部（近藤洋一朗 6249）、岡崎南部（小林 58278）、幡豆（小林 60207）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 2990）、知多南部（芹沢 64421）、犬山（芹沢 77156）、春日井（芹沢 76587）。豊橋北部（立岩、小林 23335, 1981-10-18）で採集された標本もある。

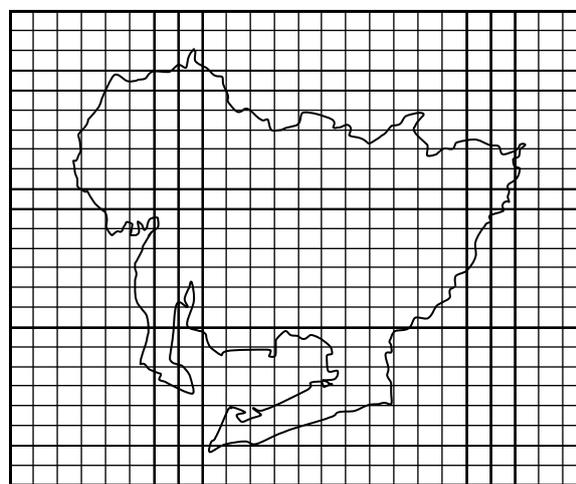
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インドに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。やせ山の尾根すじなどに多いが、谷戸田周辺の里草地に見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、ウンヌケ（606 頁）に比べると個体数ははるかに少ない。特にウンヌケの多い愛知県中央部の丘陵地では、極めて稀である。里山の利用停止に伴う森林化の進行によって、本種が生育できるやせ山状態の場所は急激に減少している。

【保全上の留意点】

やせ山は、雨の多い日本では特殊な環境であり、これほど少なくなると優先的に保全する必要がある。今までの行政目標や一般的な自然保護活動とは逆の話なのでいろいろ調整が必要であるが、今後の重要な課題である。

【特記事項】

ウンヌケに比べ、茎の基部は赤褐色の鱗片葉があつて無毛、葉鞘は毛が多く、花序の枝は太くて短く、小穂はやや大きくて毛が少ない。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.381、平草本Ⅰ p.93、SOS 旧版 p.100、環境庁 p.580、SOS 新版 p.86,88。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.692-693. 平凡社, 東京。

## ヤマトボシガラ *Festuca japonica* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。稈は細く、束生し、高さ 30～60cm になる。葉は叢生し、葉身は長線形、長さ 5～15cm、幅 1.5～3mm、上面は脈上に微細な毛を密生し、下面は無毛で光沢があり、葉鞘も無毛、葉舌は長さ 1mm 以下である。花期は 5～6 月、円錐花序はやや先が垂れて、長さ 8～15cm、まばらに分枝し、枝は上半部でまばらに分枝して、少数の小穂をつける。小穂は披針形、長さ 7～10mm、淡緑色で時に汚紫色をおび、3～5 個の小花からなる。護穎は短く、長さ 3～4mm で、先端に芒はない。葯は長さ約 1.5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

津具(芹沢 81408)、稲武(塚本威彦 2296)。

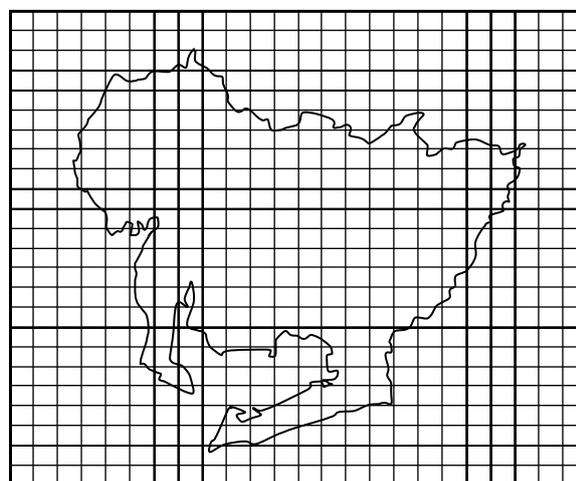
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。長野県や鈴鹿山脈では比較的多い植物である。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

稲武では面ノ木峠のブナ林内に生育しているが、個体数は少ない。現地は天竜奥三河国定公園の特別保護地区に指定されているため、当面は現状のまま存続すると思われる。

### 【保全上の留意点】

面ノ木峠は現在のところシカの食害が顕著でないが、放置しておけば影響が及ぶのは時間の問題と思われる。個体数調整など、被害を事前に防止するための対策が必要である。

### 【特記事項】

トボシガラ *F. parvigluma* Steud. は各地に多い植物で、小花に芒がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.320、平草本Ⅰ p.113。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.118-119. 平凡社, 東京。

カモノハシ *Ischaemum aristatum* L. var. *glaucum* (Honda) T. Koyama

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。不安定な立地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。稈は束生し、基部は多少地をはって分枝し、高さ 30~70cm になる。葉はまばらに互生し、葉身は長い線形、長さ 15~30cm、幅 5~10mm、先端は長くとがり、葉鞘とともに無毛、葉舌は長さ 3~4mm である。花期は 7~11 月、花序は長さ 4~7cm、幅 5mm ほどの枝が 2 本密着して立ち、1 個のように見える。小穂は長楕円形で長さ 5~6mm、黄緑色または黄褐色、2 個の小花からなり、芒がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

海部西部（芹沢 49817）。三重県側（長島町、福岡義洋 4943）にもある。

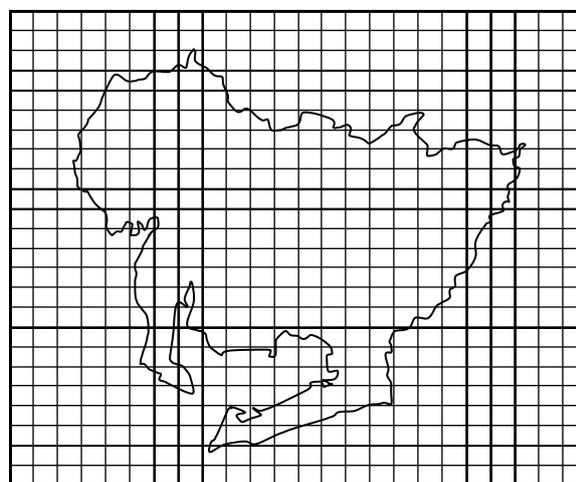
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷や砂浜などの半裸地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

海部西部（旧立田村）の木曾川河川敷に生育しているが、散発的にあるだけで極めて稀で、現在のところ確実に観察できる場所はない。

【保全上の留意点】

不安定な立地に散発的に出現するだけの植物なので、効果的な保全対策は立てにくい。潜在的な生育地である河川敷の半裸地を保全する必要がある。

【特記事項】

丘陵地の湧水湿地にやや普通に生育しているものは、葉鞘に多少なりとも毛があり、小花に芒があるタイワンカモノハシ var. *aristatum* である。タイワンカモノハシは、評価の対象外である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.377、平草本Ⅰ p.91。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.712-713. 平凡社, 東京。

イブキヌカボ *Milium effusum* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は横にはう。稈は単生または少数が束生し、無毛、高さ 60~120cm になる。葉は互生し、短線形、長さ 10~20cm、幅 1~1.5cm、白緑色、先端は鋭頭、葉鞘は無毛、葉舌は白色の膜質で、長さ 3~10mm ある。花期は 6~7 月、円錐花序は長さ 15~25cm で、各節から 2~5 本の枝を直角またはやや下向きに開出し、その先端部に数個の小穂をつける。小穂は有柄、卵形、長さ約 3mm、淡緑色、1 個の小花からなる。小花は、熟すとすぐに苞穎を残して脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 81447）、稲武（芹沢 81407）。設楽西部（名倉、加藤等次 s.n., 1957-6-2）で採集された標本もある。津具で 1978 年に採集された標本もあるという（小林, 2006）。愛知県のものは、いずれも本種としてはかなり小型である。

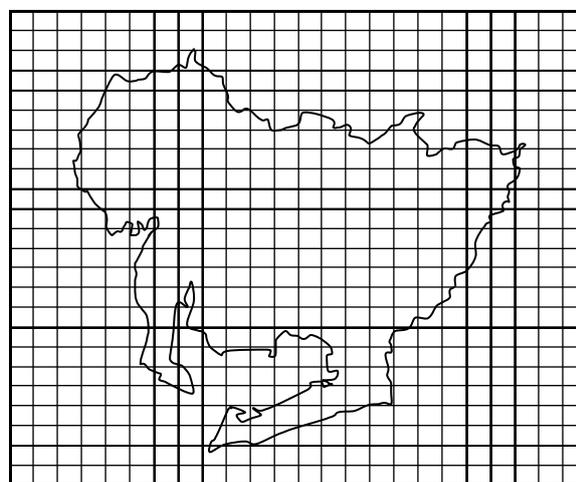
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。全国的にはそれほど稀少な植物ではない。

【世界の分布】

北半球の温帯~亜寒帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているだけで、個体数は少ない。伐採や造林地の手入れ不足により減少している。

【保全上の留意点】

造林地に関しては、間伐等の適切な手入れが必要である。

【特記事項】

直角からやや下向きに開出する花序の枝が特徴である。伊吹山の地名がつけられているが、全国に分布する植物である。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.225. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.359、平草本Ⅰ p.119。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.102-103. 平凡社, 東京.

ヨコハマダケ *Pleioblastus matsunoi* Nakai

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県はその西限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性。地下茎は横走する。稈は直立し、節も含めて無毛、高さ 2~3m になり、各節から 3~9 本の枝を出す。新稈は 5 月に出て、稈鞘にも毛がない。葉は小枝の先端に 3~5 枚つき、長さ 2~6mm の柄があり、葉身は狭披針形、長さ 18~32cm、幅 1.7~3cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形に細まり、両面無毛、葉鞘には上向きの長い粗毛が散生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西尾（芹沢 66810）。

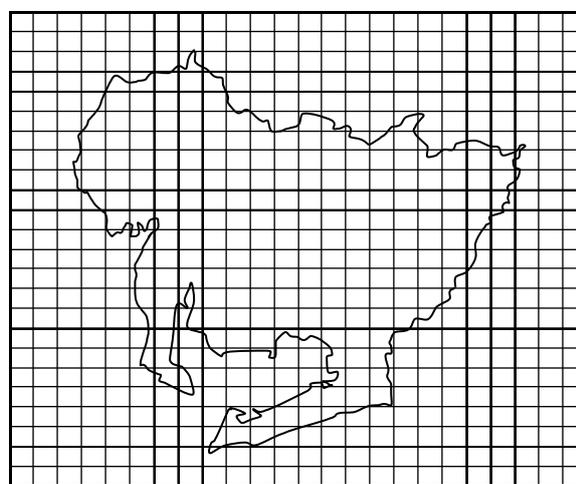
【国内の分布】

本州（関東地方南部と愛知県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河岸や林縁などに群生する。メダケ *P. simonii* (Carr.) Nakai と同じような場所に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

矢作川の河岸に 1 カ所小群落がある。見かけはメダケと異ならないので、希少種であることが意識されないまま工事等によって失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

河川敷や河川の堤防は、平野部では貴重な自然であり、注意して保全する必要があるが、本種の場合はそれに加えて、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

メダケとは、葉鞘に毛があることで異なる。種の階級で区別されているが、実際には品種程度のもものと思われ、そのため固有度階級が 2 と評価されている。注意して探索すれば、他に生育地が発見される可能性もある。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.377。  
鈴木貞雄, 1978. 日本タケ科植物総目録 p.298-299. 学習研究社, 東京。

## シダミコザサ

*Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.)S.Suzuki

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。本地域から記載された植物で、生育範囲が限られている。

### 【形態】

一部常緑性。地下茎は横走する。稈は直立し、高さ 40～60cm、通常分枝せず、節はややふくらみ、密に長毛がある。新稈は初夏に出て、稈鞘にも密に毛がある。葉は稈の先端に 3～5 枚つき、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 13～20cm、幅 2.2～4cm、先端は鋭先頭、基部は広くさび形、やや厚い紙質、下面に軟毛が密生し、葉鞘は無毛である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

瀬戸尾張旭（塚本威彦 3001）、犬山（芹沢 74724）、春日井（芹沢 68535）、名古屋北部（芹沢 77475）。

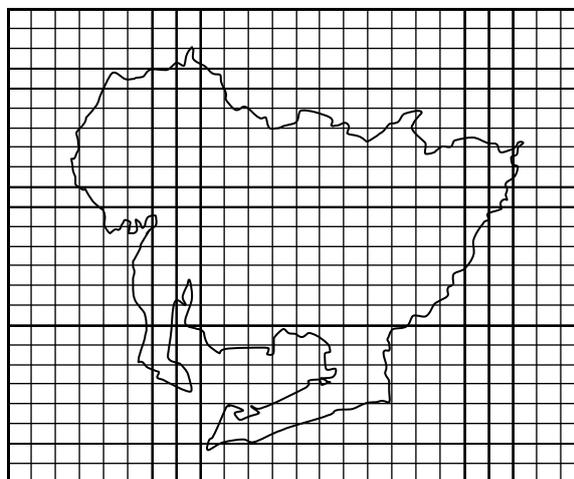
#### 【国内の分布】

詳細はよくわからない。基準品種のビッチュウミヤコザサは、本州（東日本では太平洋側）、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有。変種としても、また種としても、日本固有である。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の二次林内に群落を作って生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾張北部の丘陵地の数カ所で、生育が確認されている。群落には大小があるが、林内一面と言うほどの規模のものはない。造成等により地形そのものが破壊されなければ、当面は現状のまま存続するものと思われる。

### 【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。常緑低木が繁茂している場合には、それを除去する必要がある。

### 【特記事項】

一般にはビッチュウミヤコザサの節に毛がある型とされている。基準変種のアボイザサは、葉鞘にも毛がある。ミヤコザサとは、稈鞘と節に毛があることで異なる。これだけの差ならば、実際にはミヤコザサの品種にすぎないであろう。しかし、温帯性のミヤコザサ系の植物が尾張部の丘陵地に生育しているという点では、注目に値する。愛知県のものに限れば、シダミコザサに当たるものはミヤコザサに比べ、多少葉質が厚い傾向がある。

### 【関連文献】

保木本Ⅱ p.389、SOS 旧版 p.101。  
鈴木貞雄, 1978. 日本タケ科植物総目録 p.230. 学習研究社, 東京.

ナリヒラダケ *Semiarundinaria fastuosa* (Mitford) Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。人里近くに生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性。稈は直立し、高さ 5～8m、直径 2～3cm になる。新稈は初夏に出て、皮は帯紫緑色で無毛、一度外に倒れ、それから脱落する。枝は 1 年目は各節から 3 本出るが、2 年目以降は数が増える。葉は枝先に 4～7 枚つき、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 7～17cm、幅 1.3～2.5cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部は円形、貴部近くに僅かに毛があるほかは無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（日比野修 2475）、日進長久手（芹沢 78032）。

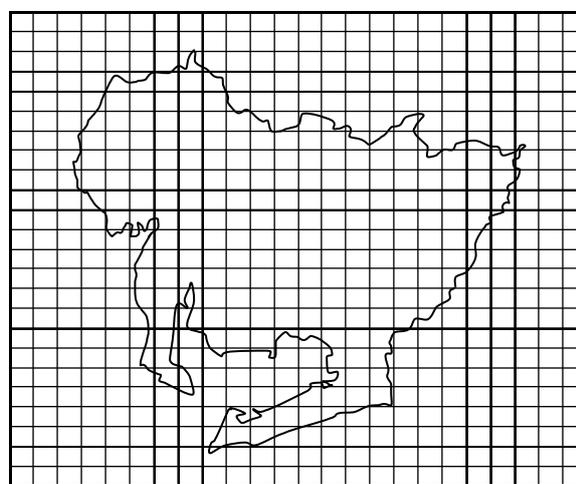
【国内の分布】

本州、四国、九州。ただしほとんどの場所で栽培または逸出状態になっており、本来の分布域はよくわからない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

愛知県では小河川の川岸など、メダケと同じような場所に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所には群生している。河川改修などの影響により減少している。

【保全上の留意点】

希少種であることが意識されないまま工事等によって失われる可能性がある。個別的な保全が必要である。

【特記事項】

見かけはメダケに似ているが、葉がやや幅広く、筍の皮は脱落性である。真の自生かどうか疑問があるためレッドデータブックあいち 2001 植物編には掲載しなかったが、はっきりした自生地が分からない種であるという事情を考慮し、今回は評価の対象に加えた。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.365、平木本Ⅱ p.257。  
鈴木貞雄, 1978. 日本タケ科植物総目録 p84-85. 学習研究社, 東京。

## ハマエノコロ

*Setaria viridis* (L.) Beauv. var. *pachystachys* (Franch. et Sav.) Makino et Nemoto

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。なお、今回の絶滅危惧Ⅱ類という評価は海浜性の典型的なものについてであり、やや内陸部などに見られるエノコログサとの中間型は対象外である。

### 【形態】

1年生草本。稈は根ぎわで分枝し、ほうき状に束生し、高さ5~15cmである。葉は互生し、葉身は短い線形~披針形、長さ5~10cm、幅5~13mm、斜上して質はやや厚く、白色の縁があり、無毛、葉舌は軟毛の列となる。花期は8~11月、花序は楕円形で、長さ1~4cm、直立し、多数の小穂を密につけ、その下に淡緑色の長い刺毛がある。小穂は楕円形、長さ2mm程度、不稔の第1小花と結実する第2小花からなり、第2苞穎は小花とほぼ同じ長さである。基準変種のエノコログサに比べ、丈が低く、花序が短く、刺毛が長くて密生するが、中間型もある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋南部（小林 40400）、渥美（芹沢 80796）、半田武豊（畑佐武司 818）、知多南部（篠島、芹沢 82120）。ただし半田武豊や知多南部のものは、典型的なものに比べるとやや大型である。小林・深谷（2008）によれば幡豆（梶島）や知多南部の篠島以外のいくつかの島にもあるという。これらの記録を含めるならば、個体数と集団数は共に階級2になり、愛知県での評価はリスト外になる。

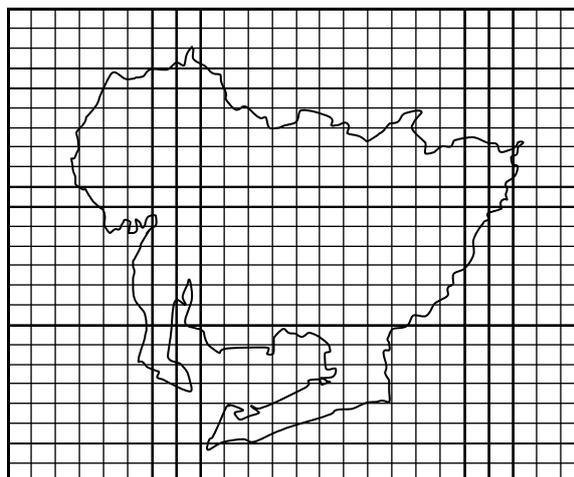
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島（済州島）、台湾、中国大陸南部に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地や岩場に生育する。道路工事等で多少攪乱された場所に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

4区画の5カ所で確認されているが、いずれも個体数は少ない。砂浜へのオフロード車の乗り入れや、攪乱に伴う帰化植物の増加などにより、減少傾向にある。

### 【保全上の留意点】

自然度の高い砂浜は、観光開発や護岸工事、あるいは陸地における砂防工事の進展による砂供給の停止により、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在砂浜の状態が残されている場所は、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、どこも注意して保全する必要がある。またオフロード車の乗り入れは砂浜の植生に甚大な影響を与えており、このような行為が行われないよう普及活動を推進する必要がある。

### 【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.194, 277. 佐久島会, 刈谷.

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.369、平草本Ⅰ p.101.

長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.606-607. 平凡社, 東京.

## ヒゲシバ *Sporobolus japonicus* (Steud.)Maxim.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。小型の草地性植物で、愛知県では生育地が少ない。

### 【形態】

小型の1年生草本。稈は細く、下部で多少分枝し、高さ5～30cmになる。葉は互生し、葉身は狭披針形、長さ3～8cm、幅2～4mm、先端は長くとがり、縁に長くて硬い毛があり、葉鞘は無毛またはまばらに毛があり、葉舌は微小な毛の列となる。花期は8～10月、花序は線形で直立し、長さ3～6cm、枝は直立して短く、密な穂状に見える。小穂は卵形、長さ2～2.2mm、光沢のある帯褐色、1小花からなり、芒はない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

津具（小林 82856）、稲武（小林 48227）、鳳来北東部（小林 58160）、小原（塚本威彦 1411）。豊根（茶臼山，加藤等次 s.n., 1966-9-15）、作手（菅沼，鳥居喜一 9802, 1946-9-21, HNSM）で採集された標本もある。

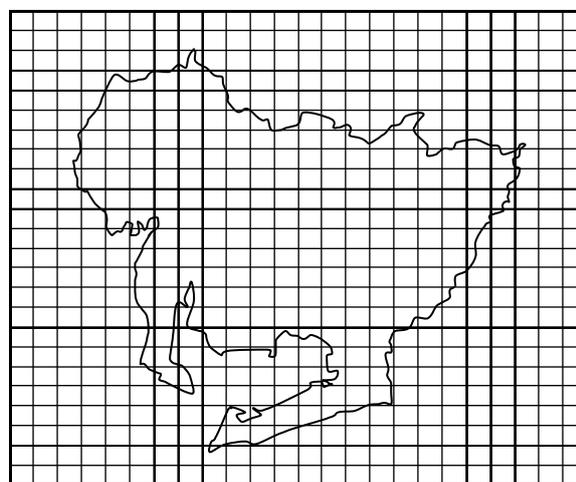
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿った半裸地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

4区画の各1カ所で確認されている。ある場所では、個体数は比較的多い。生育地はいずれも軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で開発等による破壊、他方で遷移の進行による大型草本の繁茂により消滅する可能性がある。

### 【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度な攪乱が必要である。過度の攪乱があっても、攪乱がなくても消滅してしまう。登山道等を整備する際には、十分な配慮が必要である。

### 【特記事項】

目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。葉縁の長い毛が特徴である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.339、平草本Ⅰp.103、SOS旧版p.101。  
長田武正,1989.日本イネ科植物図譜 p.496-497.平凡社,東京.

ヒロハノハネガヤ *Stipa coreana* Honda var. *kengii* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯域の自然度の高い森林内に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。稈は少数が束生し、直立して高さ 60~100cm になる。葉は互生し、葉身は線状楕円形、長さ 15~30cm、幅 7~15mm、基部は次第に細まり、裏面は灰緑色で微毛があり、葉鞘は上端近くに輪状に毛がある。花期は 8~9 月、円錐花序は直立し、長さ 10~25cm、枝がほとんど直立するため、総状に見える。小穂は披針形、長さ 12~15mm、淡緑色、1 小花からなり、小花の護穎には長さ 2.5~3cm の太い芒がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 83056）、東栄（芹沢 80839）、  
稲武（芹沢 74871）。

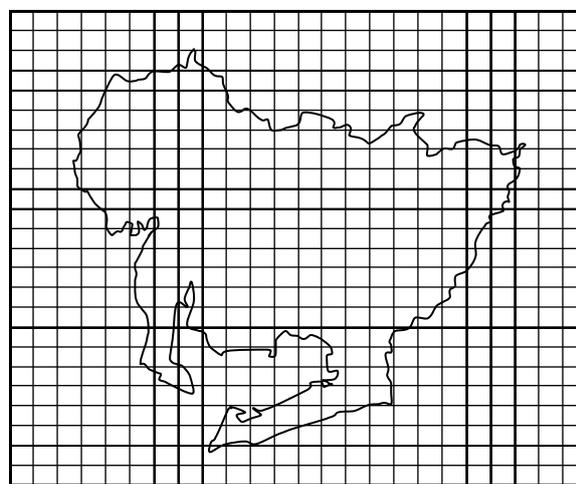
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本固有。基準変種は小穂がやや大きく、  
朝鮮半島と中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内の生育地は少ないが、稲武には比較的まとまった群落がある。自然林が広範囲に伐採された時代には著しく減少したものと思われるが、近年に限れば小康状態である。

【保全上の留意点】

本種が生育するような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存しているだけであり、特に注意して保全する必要がある。本種のような目立つ花をつけない植物に関しては、遊歩道などを設置する際、特に注意する必要がある。

【特記事項】

枝が直立してほとんど 1 本に見える花序が特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.360、平草本Ⅰ p.119、SOS 旧版 p.101。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.96-97. 平凡社, 東京.

ホソバテンナンショウ *Arisaema angustatum* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 15～70cm、雲状紋が目立ち、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 5～15、葉軸はよく発達し、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は 4～5 月、仏炎苞は葉よりやや早く開き、通常葉より高い位置につき、緑色で、筒部は長さ 4～6cm、口辺はやや広く開出して耳状となり、舷部は卵形、長さ 4～7.5cm、先端は鋭尖頭となる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は細い棒状、先端は直径 1～3.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山(小林 57107)、設楽東部(芹沢 61075)。

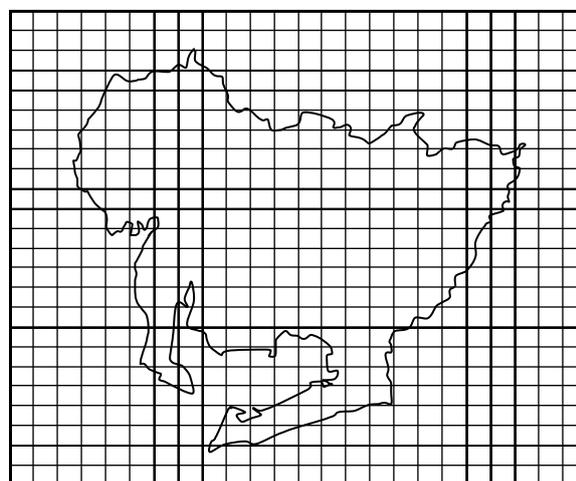
【国内の分布】

本州(関東地方、中部地方、近畿地方)の主として太平洋側に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ 2 カ所で確認されているだけで、どちらも個体数は少ない。森林の伐採により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

仏炎苞筒部口辺がやや耳状になり、花序付属体が細いことが特徴である。ホソバテンナンショウと名づけられているが、他種に比べ小葉が特に細いことはない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.206、平草本Ⅰp.136、SOS 旧版 p.102。

ムロウマムシグサ *Arisaema kishidae* Makino ex Nakai

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県はその東限にあたる。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 10~35cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 5~9、葉軸はあまり長くならず、小葉は楕円形~長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は 4~5 月、仏炎苞は葉よりやや早く開き、雄株では葉より高い位置、雌株では葉と同じ位置につき、淡赤褐色~赤褐色、やや半透明状、筒部は長さ 4~5cm、口辺は狭く開出し、舷部は先端が長く伸びて、全長 10~25cm になる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は円柱状、先端は直径 3~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (小林 43173)、作手 (小林 51924)、新城 (小林 51004)、豊川宝飯 (芹沢 28005)、旭 (小林 56503)、豊田北西部 (畑佐武司 3101)、額田 (芹沢 75516)。区画数は多いが、生育地は実質的に 3 カ所である。

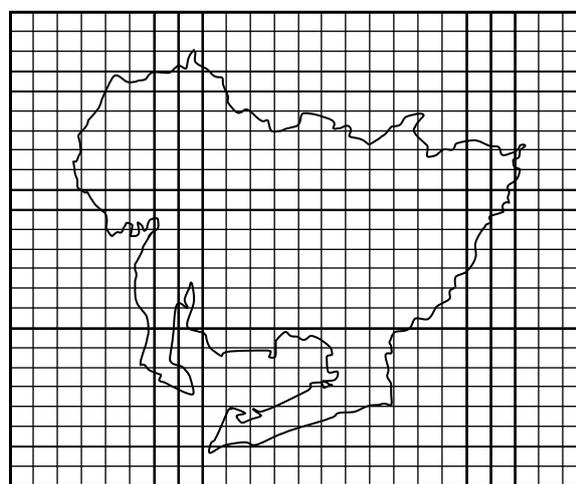
【国内の分布】

本州 (東海地方西部、近畿地方) に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は限られている。特定の場所に小群落があるだけという生え方ではないため、1 回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化により、いつの間にか消滅してしまうおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の自然環境を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

和名がムロウテンナンショウ *A. yamatense* (Nakai) Nakai と紛らわしいため、キンダムムシグサと呼ばれることがある。「日本の野生植物 I」では、この和名が使われている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.204、平草本 I p.133、SOS 旧版 p.102、SOS 新版 p.34,36。

## オオマムシグサ *Arisaema takedae* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。主として北日本に分布する植物で、典型的なものとしては愛知県が分布域の南西限である。県内では個体数が極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、周りにいくつかの子球をつけ（ただし愛知県のものほとんどつけない）、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は2個、第1葉の葉鞘は長さ40～80cm、葉身は鳥足状に分かれ、葉軸は発達し、小葉は7～15、小葉は楕円形～長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は5～6月、仏炎苞は紫色、葉よりやや遅れて開き、葉より高い位置につき、筒部は倒円錐状、長さ5.5～8cm、口辺はやや広く開出し、舷部は長さ10～20cm、先端は鋭尖頭となる。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は棍棒状、通常黄白色、先端は直径8～15mmである。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

設楽西部（芹沢 32763）、鳳来北西部（小林 66114）、作手（小林 56698）、新城（芹沢 58126）。ただし新城は豊川河岸の林内に1株だけ生育していたもので、上流から流されてきた個体と思われる。

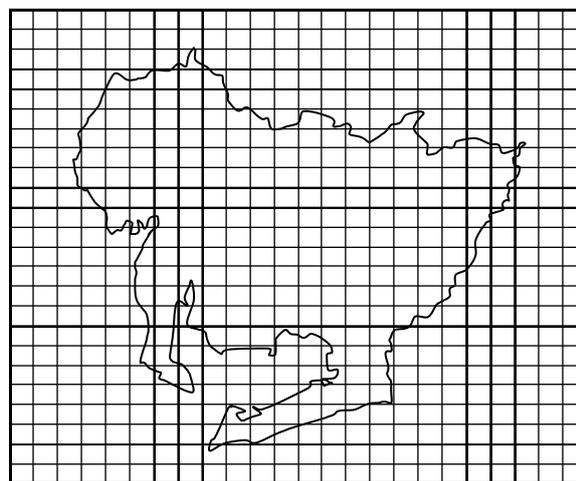
#### 【国内の分布】

北海道南部および本州中北部に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

分布範囲は比較的広いが、個体数は少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度にすぎない。1回の工事等により壊滅的な打撃を受けることはないが、全体的な自然環境の劣化によりいつの間にか消滅してしまうおそれがある。

### 【保全上の留意点】

地域の自然環境を、全体として保全することが必要である。

### 【特記事項】

仏炎苞は舷部が長く、紫色でない部分はほとんど白色で緑色を帯びないことが特徴である。愛知県の山地に見られる仏炎苞が大型で紫色のテンナンショウは、大部分がヤマザトマムシグサ *A. galeiforme* Seriz. である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.205。

ミクリ *Sparganium erectum* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。低地性のやや大型の水草で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

挺水性の多年生草本。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、高さ 60～150cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、長さ 50～120cm、幅 7～20mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角形になり、下部は葉鞘となる。花期は 6～8 月、雌雄同株、茎の上部の葉腋から枝を出し、各枝の下部に 1～3 個の雌性頭状花序を、上部に多数の雄性頭状花序をつける。雌性花序は無柄、球形、果期に直径 2～3cm になり、果実は通常紡錘形、長さ 6～9mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊明東郷（芹沢 76841）、春日井（芹沢 78015）、名古屋北部（芹沢 82963）。

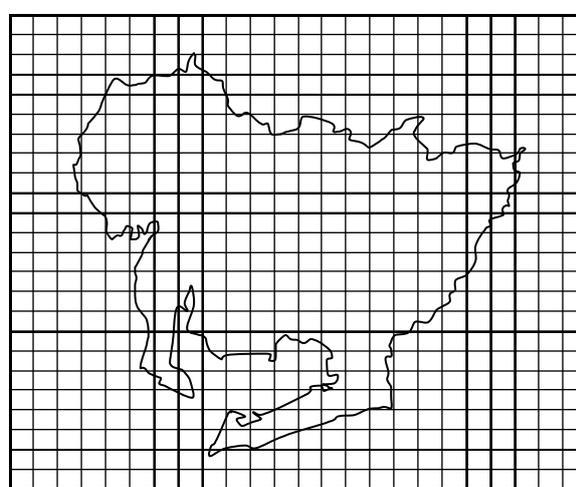
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。全国的に見ればそれほど稀少な植物ではない。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湖沼、河川、水路などの浅い水中に群生する。愛知県の場合、豊明東郷（豊明）はため池、春日井は小河川、名古屋北部は水路である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【現在の生育状況 / 減少の要因】

各 1 カ所に小群落がある。周辺が住宅地化されているので、生活排水の流入による水質の汚濁が最も懸念される。豊明ではため池の改修により、水辺植生が消失する可能性もある。長期的には、埋め立てられてため池そのものが消失するおそれもある。名古屋北部の群落は 10 年前には見られなかったもので、近年形成されたと思われるが、水路の改修により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地のため池や水路を保全し、水質を維持することが必要である。特に庄内川左岸の山すそにある崖泉は、水の恵みを象徴するような場所であるにもかかわらず、水源部に産業廃棄物処分場が設置されるなど、その重要性がよく認識されていない。地形的にも貴重な場所であり、その価値を再確認する必要がある。

【特記事項】

他にも生育地がある可能性があり、多くの人の目で探索する必要がある。和名は、果序の形状がクリに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.419、平草本Ⅰ p.142。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.77. 文一総合出版, 東京.

## ミノボロスゲ *Carex albata* Boott

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。北日本系の植物で、愛知県は分布域の南限に近い。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 20~60cm、3稜があり、基部の葉鞘は赤褐色~黒褐色である。葉は細い線形、幅 2~3mm である。果期は 5~7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3~5cm、小穂は密集してつき、卵円形、長さ 5~8mm、すべて雌雄性で上方に雄花、中下部に雌花をつけ、淡緑白色である。苞はあまり発達しないが、下方のものは時にやや葉状となる。果胞は 3 角状広披針形、長さ約 4mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山（小林 45216）、鳳来北東部（小林 57248）、豊川宝飯（小林 42719）。

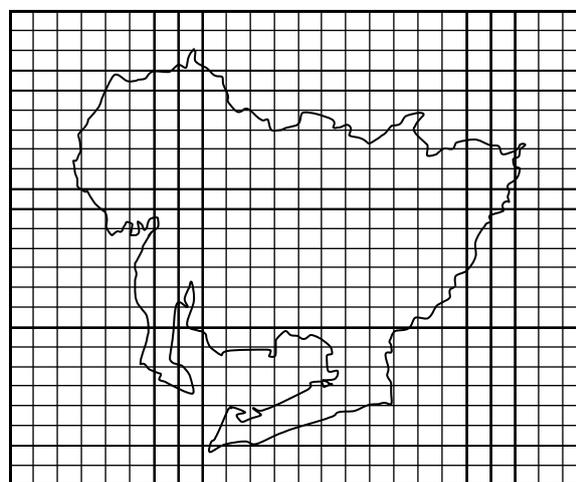
#### 【国内の分布】

北海道および本州中北部。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

やや攪乱された湿った草地に生育する。しばしば湿地の路傍などに群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

3カ所で、少数の個体が確認されているだけである。生育地はいずれも踏みつけなど軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で車の乗り入れ、他方で帰化植物の繁茂などにより減少している。

### 【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度の踏みつけなど的人為的干渉が必要である。過度の干渉があっても、干渉がなくなっても消滅してしまう。このような場所も希少な植物の生育地として重要であることを、認識する必要がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.260、平草本Ⅰp.167、SOS 旧版 p.106。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.54. 文一総合出版, 東京..

## アイズスゲ *Carex hondoensis* Ohwi

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は短くはって分枝し、匍匐枝はなく、大きな株を作る。茎は高さ 50～70cm、3稜があり、基部の葉鞘は著しく褐色の繊維に分解し、密なひげ状になる。葉は細い線形、幅 3～4mm である。果期は 5～6 月、小穂は 4～5 個が茎の先端部につき、上部 2～3 個は雄性、狭披針形で長さ 1～2cm、黄褐色、その他は雌性で円柱形、長さ 2～6cm、直径約 5mm、柄があって下垂する。苞は葉状で、短い鞘がある。果胞は紡錘状卵形、長さ 4.5～5mm、無毛、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個で、長さ 7mm くらいあり、宿存性である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

稲武（日比野修 4466）、江南丹羽（芹沢 65799）、一宮木曾川（芹沢 58316）。

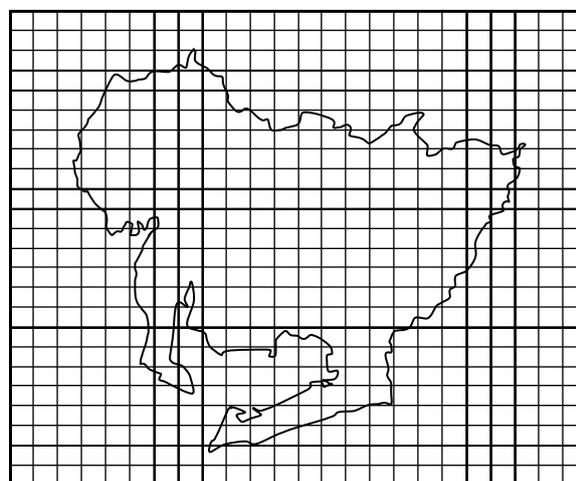
#### 【国内の分布】

本州（中北部）。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は山地の草原や疎林内に生育する。愛知県の生育地は林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

江南丹羽と一宮木曾川は、木曾川高水敷の林内に各 1 カ所、小群落がある。木曾川の岐阜県側にも生育地がある。河川敷の開発により失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

本種のような、河川敷の中でも比較的乾いた場所に生育する植物は、特に公園化などの影響を受けやすい。河川敷の利用を計画する際には、十分な事前調査と保全対策が望まれる。

### 【特記事項】

株の基部が著しく繊維におおわれること、雌花の柱頭が残存し、そのため雌小穂に長い毛があるように見えることで、他種からは比較的容易に区別できる。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.291、平草本Ⅰp.155、SOS 旧版 p.104。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.334. 文一総合出版, 東京..

アオヒエスゲ *Carex insanae* Koidz. var. *subdita* (Ohwi) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。短い匍匐枝を出し、株を作る。茎は高さ 10～40cm、3稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、やや繊維に分解する。葉は細い線形、浅緑色、幅 2～4mm である。果期は 4～5 月、小穂は 2～3 個が茎の先端部にやや離れてつき、頂小穂は雄性、披針形～狭披針形で長さ 0.5～2cm、側小穂は雌性で卵形、長さ 0.5～1cm、少数の果胞をつけ、柄は苞鞘の中にある。苞は短く、長さ約 1cm の鞘がある。果胞は紡錘状卵形、側方に開出し、長さ 5～6mm、まばらに短軟毛があり、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 64765）。よく似て匍匐枝がなく雄小穂の鱗片が多少褐色を帯びるものが、田原赤羽根（小林 41263）、渥美（小林 74622）にある。

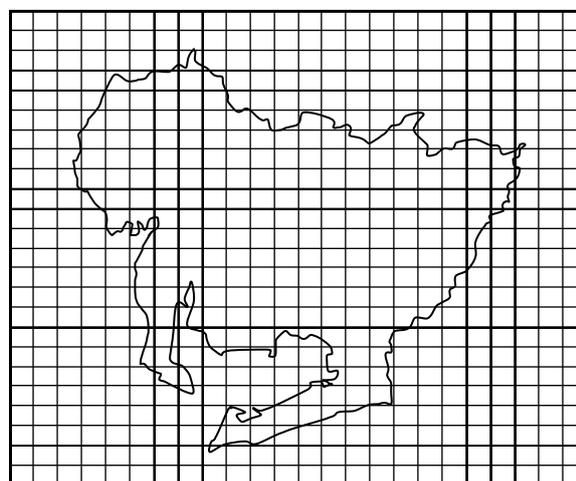
【国内の分布】

本州（太平洋側）、四国。

【世界の分布】

日本固有。種としては千島列島南部と日本に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

明るい林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少ない。遷移の進行に伴う被陰により、衰退が懸念される。

【保全上の留意点】

林内に増加した常緑樹の低木を除去する必要がある。

【特記事項】

県内の山地にやや多く見られるアオバスゲ *C. insanae* Koidz. var. *papillaticulmis* (Ohwi) Ohwi は、全体に大型で、葉は深緑色、幅 4～10mm である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.273、平草本Ⅰp.157。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.167. 文一総合出版, 東京..

センダイスゲ *Carex lenta* D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。長い匍匐枝があり、まばらな株を作る。茎は高さ 10～35cm、3 稜があり、基部の葉鞘は暗赤褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 1.5～2.5mm である。果期は 8～10 月、小穂は 3～4 個、最下のもの以外は接近してつき、いずれも雌雄性、有柄、広披針形で長さ 7～15mm、先端部の約 1/3 には雄花、その下には 10 個内外の雌花がつく。苞は刺状で、基部は鞘となる。果胞は卵形、長さ 3～3.5mm、短い刺状毛があり、短い嘴がある。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(芹沢 83619)、知多南部(小林 54501)、名古屋北部(鳥居ちる子 2669)。田原赤羽根(姫島)と幡豆(佐久島)にもあるという(小林・深谷, 2008)。

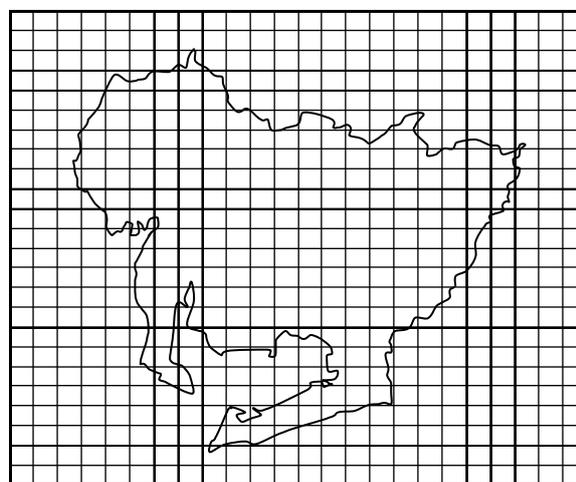
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は海岸のクロマツ林内などに生育するが、愛知県では海岸近くの疎林内に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

乾燥したやせた林に生育しているため、近年の夏の高温乾燥傾向により大きな影響を受けているのではないと思われる。その一方で遷移が進行すれば、被陰されて衰退する可能性もある。

【保全上の留意点】

海岸近くの疎林をその状態で維持することが必要である。

【特記事項】

ナキリスゲ var. *lenta* に比べ、全体に小型で、長い匍匐枝がある。愛知県ではどの場所も匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。センダイスゲモドキの型は、評価の対象に含まれていない。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.83, 281. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲp.279、平草本Ⅰp.152。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.91. 文一総合出版, 東京..

ミタケスゲ *Carex michauxiana* Bocklr. var. *asiatica* (Hult.) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。寒冷地の湿原に生育する植物で、県内では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、小さい株を作る。茎は高さ 20～50cm、3稜があり、基部の葉鞘は黄褐色～淡赤褐色、多少繊維に分解する。葉は細い線形、黄緑色、幅 3～5mm である。果期は 6～7 月、小穂は 3～5 個、下方のものは互いに離れ、頂小穂は雄性、線形で長さ 1～1.5cm、黄褐色、側小穂は雌性で広卵形、長さ 1～1.5cm、金平糖状で長い柄がある。苞は葉状で、長い鞘がある。果胞は放射状に開出し、広披針形、長さ 10～13mm、無毛、先端は次第に細まって長い嘴となる。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (芹沢 81538)。設楽西部 (段嶺村段戸山、鳥居喜一 2049, 1952-8-2, HNSM) で採集された標本もある。

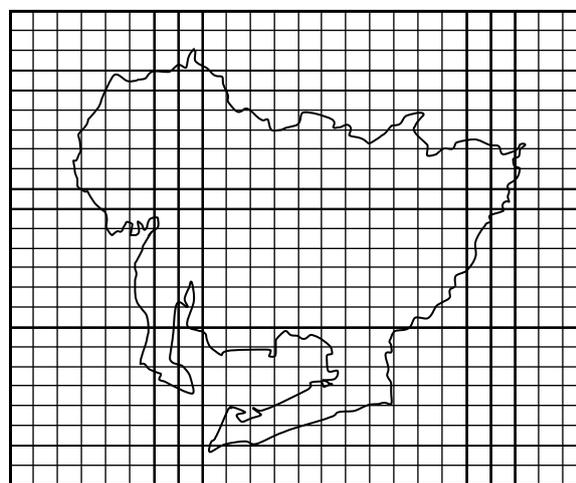
【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

カムチャッカ、千島列島、日本。基準変種は北アメリカ東部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿原に生育する。湿原の中では、やや攪乱された場所に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

作手では、数カ所の湿地に生育している。現在はよく生育しているが、長期的には一方で開発による湿地の縮小・消滅、他方で遷移の進行によるヌマガヤの繁茂や低木の侵入によって、衰退するおそれがある。

【保全上の留意点】

作手村には多数の湿地があったが、その多くは開拓等によって埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。現在残存している湿地は、大小を問わず、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

金平糖状につく長い果胞が特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.295、平草本Ⅰ p.150、SOS 旧版 p.105、SOS 新版 p.62,64。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.332. 文一総合出版, 東京..

**ヒゲスゲ** *Carex oahuensis* C.A.Mey. var. *robusta* Franch. et Sav.

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地の海浜に生育する植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

**【形態】**

常緑性の強壯な多年生草本。匍匐枝はなく、大きな株を作る。茎は高さ 30～70cm、3 稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、著しく繊維に分解する。葉は線形、深緑色、硬くて光沢があり、幅 5～12mm である。果期は 4～6 月、小穂は 3～6 個、頂小穂は雄性、太い棒状で長さ 3～5cm、側小穂は雌性で太い円柱形、長さ 2～6cm、直径約 8mm、密に果胞をつけ、短い柄があり、先端部にはしばしば少数の雄花がつく。苞は小さい葉状で、長い鞘がある。果胞は紡錘状卵形、長さ 5～6mm、無毛、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

渥美 (芹沢 82798)。1 カ所に生育しているだけである。

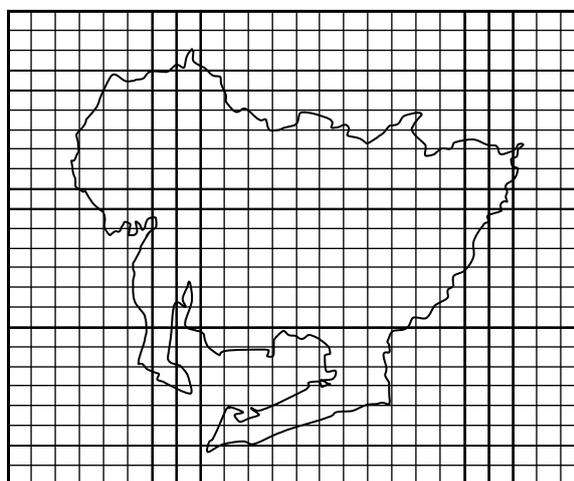
**【国内の分布】**

本州 (石川県、千葉県以西)、四国、九州、琉球。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、台湾に分布する。基準変種はハワイ諸島に分布する。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

海岸の崖上の草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

全国的に見れば稀少な植物ではないが、愛知県では海岸の一つの小さい岩場に生育しているだけである。隣接して駐車場があり、その拡大によって生育地の一部が破壊され、減少している。

**【保全上の留意点】**

道路の拡幅、駐車場の拡大などの際には、注意が必要である。

**【関連文献】**

保草本Ⅲp.273、平草本Ⅰp.157、SOS 旧版 p.105。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.160. 文一総合出版, 東京..

タカネマスクサ *Carex planata* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。県内では生育地が少なく、また開発の影響を受けやすい所に生育している。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は束生し、高さ 30～60cm、3稜があり、基部の葉鞘は褐色である。葉は細い線形、幅 1.5～2.5mm である。果期は 5～6 月、小穂は 2～5 個、下方のものはやや離れてつき、無柄、卵形～卵円形、長さ 6～10mm、直径 4～6mm、いずれも雌雄性で、基部に少数の雄花、その上にやや多数の雌花をつける。苞は葉状で長く、鞘はない。果胞は扁平で長卵形、広い翼があり、長さ約 4mm、無毛、先端の嘴は短い。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 52057）、瀬戸尾張旭（芹沢 77893）。春日井（外之原町，日比野修 2278, 1994-6-18）にもあったが絶滅した。

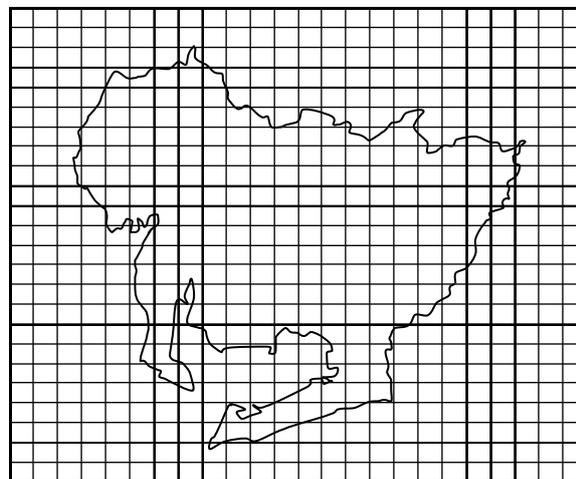
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の沢沿いの林内などに生育する。どうということのない場所にあるが、それでいて生育地が少ない植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も点在している程度で、個体数は少ない。開発による生育地の破壊が危惧される。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名はタカネマスクサであるが、高山性の植物ではない。ヤブスゲ（286 頁）に似ているが、小穂が短く、果胞に広い翼がある。レッドデータブックあいち 2001 植物編に記載した産地のうち海部西部はホザキマスクサ var. *anguste-alata* Akiyama（124 頁）である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.261、平草本Ⅰp.166、SOS 旧版 p.106。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.66. 文一総合出版, 東京..

ニシノホンモンジスゲ *Carex stenostachys* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の東限にあたる。県内では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、大きい株を作る。茎は高さ 30～50cm、3稜があり、基部の葉鞘は栗褐色～黒褐色で硬く、やや繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～4 個、最下のはやや離れてつき、頂小穂は雄性、線形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～2cm、直径約 3mm、柄は葉鞘中にあるか、伸びても短い。苞は小さい葉状または刺状で、長さ 8～20mm の鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ約 3mm、短毛があり、先端の嘴はやや短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

藤岡(日比野修 2121)、犬山(塚本威彦 1859)、春日井(日比野修 2729)、名古屋北部(鳥居ちよ子 1595)。

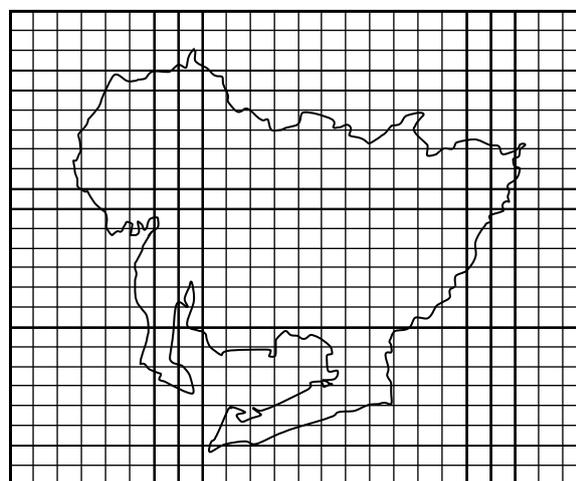
【国内の分布】

本州(中部地方以西)。北陸地方西部や近畿地方に多い。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地～低山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

4 区画に点在している。個体数はそれほど多くないが、一部の場所では道路わきに群生している。名古屋北部では大森湿地に生育していたが、湿地保護グループの除草作業によってほとんど消失した。

【保全上の留意点】

道路の拡幅や森林の伐採の際には、注意が必要である。また、里地や里山の保護活動を行う際には、その時に注目していない他の生物に悪影響を与えないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

鈴鹿山脈まで行けば、最も普通に見られるスゲ類の一つである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.271、平草本Ⅰ p.159。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.212-213. 文一総合出版, 東京..

オオカワズスゲ *Carex stipata* Muhlenb.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯域の湿地性植物で、県内では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、株をつくる。茎は高さ 30～60cm、鋭い 3稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、やや繊維に分解する。葉は線形、軟らかく、幅 3～10mm である。果期は 6～7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3～6cm、小穂は接近してつき、卵円形、長さ 6～10mm、直径 4～8mm、上端に少数の雄花、その下に雌花をつける。苞はあまり発達しないが、下方のものは刺状になる。果胞は開出し、3 角状広披針形、長さ 4～5mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52054)、豊根 (加藤等次 3265)、  
稲武 (芹沢 81547)。

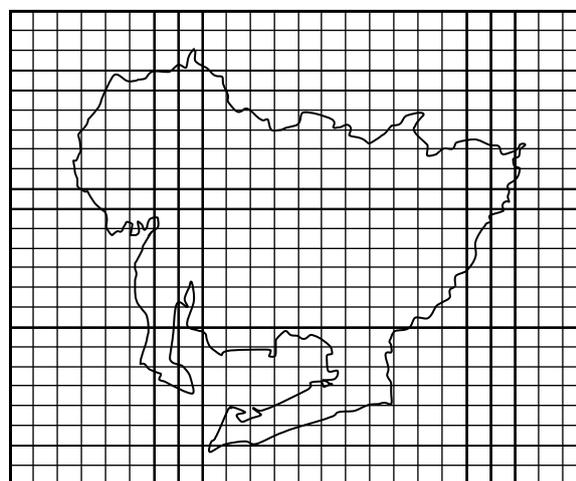
【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北)。

【世界の分布】

サハリン、日本および北アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山中の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3 区画の計 4 カ所に小群落がある。豊根と稲武は路傍の小湿地で、道路の拡幅等により失われるおそれがある。富山は、佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所である。このような環境はダムができる前、あるいはできた直後にはなかったものであり、本種は比較的近年になって侵入・定着したものと思われる。ただしこの場所はシカによる食害が著しく、最近の調査では存在を確認できなかった。

【保全上の留意点】

道路改修などの際には配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.261、平草本Ⅰp.167、SOS 旧版 p.106。  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.58. 文一総合出版, 東京..

## ヒメガヤツリ *Cyperus tenuispica* Steud.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。湿地性の植物で、愛知県では生育地が少ない。

### 【形態】

1年生草本。茎は束生し、高さ10～25cm。葉は少数、基部の葉は葉身が退化し、上部の葉の葉身は茎とほぼ同長、線形、幅1～3mmである。花期は8～10月、花序の枝は長さ3～10cm、先端に長さ0.5～3cmの小枝を出し、時には更に短い小枝を出して、その先に数個の小穂をつける。苞は3～4個で葉状、花序よりも長い。小穂は線形、長さ3～7mm、鱗片は小さくてややまばらにつき、褐色、斜開して先端は切形になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋北部(小林 67463)、旭(塚本威彦 756)、額田(福岡義洋 1387)、名古屋北部(鳥居ちゑ子 531)。

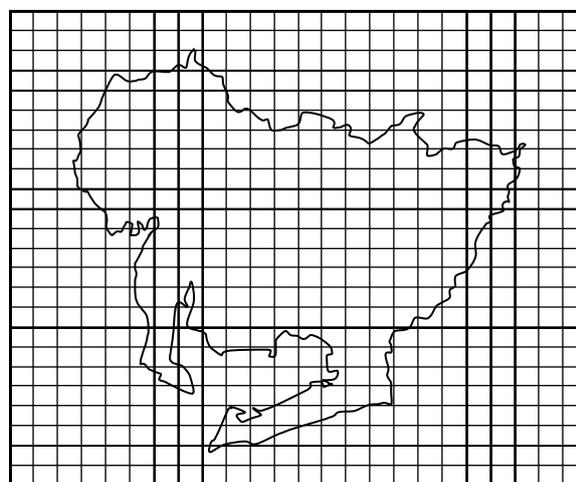
#### 【国内の分布】

本州(福島県以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～暖温帯に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

谷戸田やため池の岸に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

最近までツルナシコアゼガヤツリ *C. haspan* L. var. *microhaspan* Makino と混同されていたため、詳細は不明である。丘陵地の開発や谷戸田の放棄によって失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

本種については調査が不十分であり、正確な生育状況を確認することが先決である。

### 【特記事項】

ミズハナビとも呼ばれる。ツルナシコアゼガヤツリは秋期に干上がったため池の岸などに生育し、小穂はやや大型、鱗片もやや大きくてやや密につき、先端は中肋が微突出する。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.239、平草本Ⅰ p.184。  
北川淑子・堀内 洋, 2001. カヤツリグサ属. 神奈川県植物誌 2001 p.398-415. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原。

セイタカハリイ *Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.)Palla

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

1年生または多年生の草本。明らかな匍匐枝はない。茎は束生して株をつくり、細い円柱形、高さ30～50cm、直径約0.7mm、葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、赤褐色である。花期は7～10月、小穂は茎の先端に1個つき、長卵形～卵形、長さ7～10mm、直径3～4mm、淡褐色、鱗片は広卵形、長さ約2.5mm、先端は鈍頭、全体に薄質で淡色である。果実は倒卵形、3稜があり、淡茶色に熟する。刺針状花被片は6個、果実よりわずかに長く、逆向きの小刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（小林 61955）、豊橋北部（小林 70440）、春日井（山田果与乃 1254）、名古屋南東部（渡辺幸子 4553）、海部西部（山田茂貴 1131）。

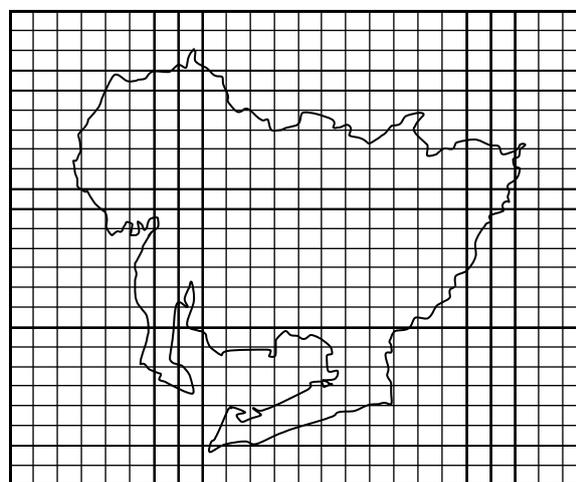
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ニューギニア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池の岸などの湿地に生育する。愛知県では、谷戸田の畔、河川堤防の湿った場所などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。生育地はいずれも人の手が入りやすい場所で、開発等により消滅する危険性が高い。

【保全上の留意点】

おそらくはあちこちで出現と消失をくり返しているものと思われる。低湿地的環境の全体的な保全が必要である。

【特記事項】

幅広い卵形の小穂が特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.227、平草本Ⅰp.172。

## マシカクイ *Eleocharis tetraquetra* Nees

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。湿地性の植物で、愛知県では生育地が少ない。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は短く、淡褐色の鱗片で被われた匍匐枝を出す。地上茎は束生し、高さ 60～100cm、直径 1～2mm、鋭い 4 稜がある。葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、淡緑色ないし褐色である。花期は 9～10 月、小穂は茎の先端に 1 個つき、卵状長楕円形、やや一方に傾き、長さ 10～18mm、直径 3～6mm である。鱗片は長楕円形、鈍頭、緑色の中肋と濃褐色の辺縁部の対比が著しい。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ 1.5～2mm、柱基は果実より小さく、刺針状花被片は 6 個で、やや長い逆向きの小刺が密生する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

藤岡 (塚本威彦 349)、豊田北西部 (佐藤久美子 1414)、額田 (福岡義洋 1605)。

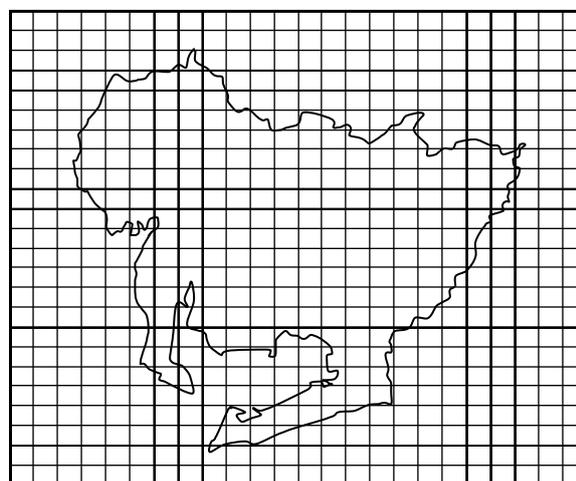
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、マレーシア、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山すそや山間部の湿地に生育する。藤岡では干上がった池に生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

詳細な状況は不明である。耕地整理や遷移の進行で失われる可能性が高い。

### 【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

シカクイ *E. wichurae* Böckl. に比べ、全体に硬質で茎の稜が鋭く、柱基は小さく、刺針状花被片はシカクイのような羽毛状にならない。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.228、平草本Ⅰp.172。

ビロードテンツキ *Fimbristylis sericea* (Poir.)R.Br.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の海浜植物で、愛知県では生育地が少なく、またその場所に対する開発圧力も高い。

【形態】

多年生草本。根茎は太く短く、枯れた葉鞘で厚くおおわれる。茎は束生し、やや硬く、高さ 10～30cm になる。葉は多数が叢生し、線形でしばしば鎌形に曲がり、幅 1.5～2mm、白色の絹状の圧毛が密生する。花期は 8～10 月、花序は少数の短い枝を分け、その基部と先端に 3～10 個の小穂をやや頭状につける。小穂は狭卵形、長さ 6～10mm、幅 4mm、鋭頭でやや角張り、灰褐色である。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ 1.5mm、熟して暗褐色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美 (芹沢 79244)、常滑 (梅田零奈 473)、尾西祖父江 (渡辺幸子 4791)、海部西部 (山田茂貴 665)。

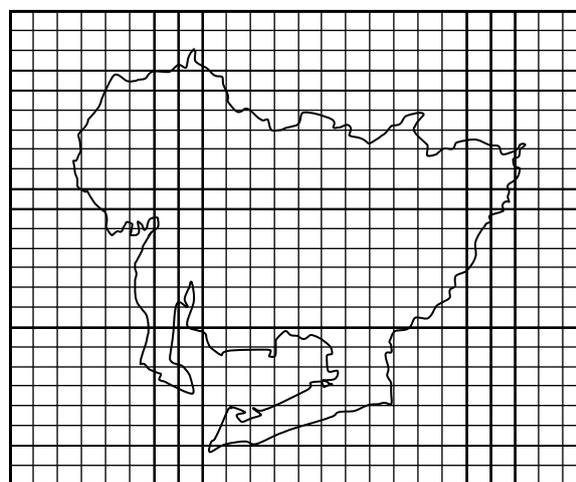
【国内の分布】

本州 (茨城県、富山県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、マレーシア、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育する。愛知県では海岸砂丘や内湾に面した砂浜のほか、河岸砂丘にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では、本種が生育するような砂丘状の場所自体が激減している。現存している場所ではある程度の個体数が見られることが多いが、一部の場所ではオフロード車の乗り入れ等により、大きな影響を受けている。また常滑では、周囲の開発が進んでおり、その影響も懸念される。

【保全上の留意点】

砂丘や砂浜を、本来の状態のまま保全することが必要である。木曾川沿いの河岸砂丘は、地形的に見ても国内にほとんど例がないものであり、注意深く保全する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.235、平草本Ⅰp.174、SOS 旧版 p.107。

トネテンツキ *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に希少な低湿地性植物で、愛知県でも生育地が少ない。

【形態】

1年生草本。茎は細く、束生し、やや扁平で、長さ7~30cmになる。葉は叢生し、線形、幅約2.5mmである。花期は8~10月、花序は複散形状で、枝は長さ2~3.5cm、苞は葉状で2~3個つき、花序より短い。小穂は単生し、長楕円状卵形、長さ3~5mm、直径約2.5mm、黄褐色~赤褐色、鱗片は卵状披針形、長さ1.5~2mm、先端は短くとがる。果実は短い円柱形で長さ約1mm、花柱は宿存性で花後伸長して鱗片より長くなり、そのため小穂は毛に包まれたように見える。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（小林 70410）、犬山（芹沢 70945）、春日井（芹沢 76594）。このほか半田武豊産という標本も見つかったことがあるが、その標本が公的機関に収蔵されておらず再検討できないので、現時点では分布地に含めないでおく。

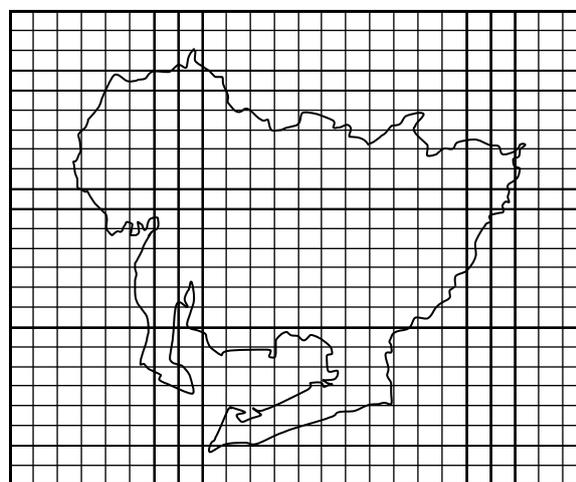
【国内の分布】

本州（関東地方~近畿地方）にまれに生育する。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のハタケテンツキは花後花柱が伸長しないもので、本州（栃木県）、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

干上がったため池の岸などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3カ所のため池で確認されている。個体数は年による変動が大きく、水位が大きく低下した年には多数の個体が見られるが、水が引かなかった年には全く出現しないこともある。ため池の埋め立てや水質汚濁によって生育地が減少し、現在の状態に至ったと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されているため池は、他の植物も多く確認されており、水辺地形や水質を注意して保全する必要がある。

【特記事項】

半田武豊は別曾池にあったという話で、確実な標本資料を得た上で自生地に加える必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.232、平草本Ⅰp.174、SOS旧版p.107、環境庁p.605、SOS新版p.119,120。

トラノハナヒゲ *Rhynchospora brownii* Roem. et Schult.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地の湧水湿地に生育する植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は少数が束生し、細くて斜めに伸び、先端は垂れて長さ 50~90cm になる。葉は叢生し、細い線形、幅 1.5~2.5mm、やや硬い。花期は 8~10 月、花序は茎の先端部に 2~3 個やや離れてつき、密に枝分かれした散房状、長さ 3~5cm、幅 2~4cm で、多数の小穂をやや分散してつける。小穂は楕円形、長さ 3~4.5mm、褐色~暗赤褐色、1 個の花がある。果実は倒卵形~ほぼ円形、長さ約 2mm、刺針状花被片は 6 個で果実とほぼ同長、上向きの短刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 49482）、新城（小林 54649）、豊川宝飯（芹沢 53591）、豊橋北部（芹沢 81657）、豊橋南部（芹沢 56310）、田原赤羽根（芹沢 56697）、渥美（芹沢 59783）、豊田北西部（芹沢 62624）、半田武豊（小林 33807）。

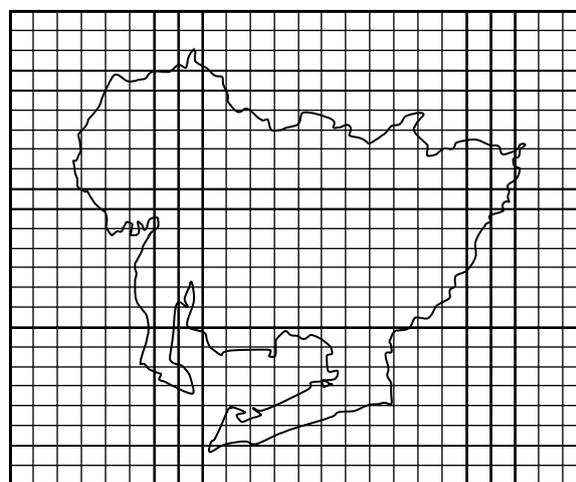
【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、マレーシア、インド、アフリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湿地の縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河南部には点在するが、西三河と尾張では極めて稀で、各 1 カ所で確認されているにすぎない。どの生育地も小群落で、イヌノハナヒゲのように群生することはない。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。西三河と尾張の生育地は、特に保全が必要である。

【特記事項】

イヌノハナヒゲ類に比べ、小穂はやや分散してつき、短くて幅広い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.253、平草本Ⅰp.170。

オオイヌノハナヒゲ *Rhynchospora fauriei* Franch.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯域の湿地に生育する植物である。

【形態】

多年生草本。茎は少数が束生して立ち、高さ 40～60cm になる。葉は叢生し、細い線形、長さ 10～30cm、幅 1.5～2.5mm である。花期は 7～10 月、花序は 2～4 個が離れてつき、密集した散房状、苞は葉状で長さ 5～8cm である。小穂は披針形、長さ 8～9mm、黄赤褐色、1～2 個の花がある。果実は倒卵形で長さ約 2mm、刺針状花被片は 6 個で、果実本体の 3～4 倍の長さがあり、平滑または下向き、時に上向きの小刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 77558）、作手（芹沢 56032）、豊橋北部（芹沢 56300）、田原赤羽根（芹沢 56318）、渥美（芹沢 59784）、旭（芹沢 55892）、藤岡（日比野修 521）、刈谷知立（芹沢 41740）、瀬戸尾張旭（芹沢 57024）。岐阜県東濃地方の湧水湿地には比較的多く見られる。

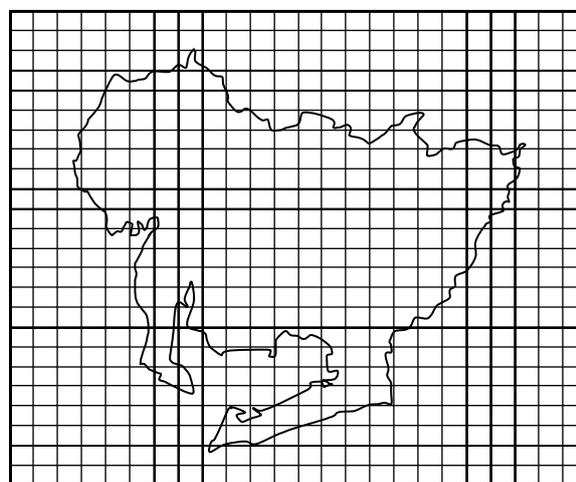
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿原や湧水湿地に生育する。愛知県やその周辺では、一般にイヌノハナヒゲのような大きい株にはならない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数はそれほど多くない。開発により、他の湧水湿地性の植物と同様、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。豊橋北部、渥美、刈谷知立のような低標高の自生地は、特に保全が必要である。

【特記事項】

イヌノハナヒゲと異なり、温帯性の植物である。オオイヌノハナヒゲの名があるが、植物体は通常イヌノハナヒゲよりやや小型である。小穂はイヌノハナヒゲより長く、明るい色をしている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.252、平草本Ⅰp.170。

## シズイ *Scirpus nipponicus* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。水のきれいなため池に生育する植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。根茎は細く、先端に小さい塊茎をつける。地上茎は単生または少数が束生し、高さ40～60cm、幅2～4mm、3稜形、下部に3～5個の葉をつける。葉は線形、茎よりやや短く、幅2～3mm、平滑で、断面は三角形となる。花期は7～10月、花序は散房状で、枝は2～3本、分枝しないか1～2回分枝し、長いものは4cmに達し、まばらに5～8個の小穂をつける。花序の基部につく苞は1個で、茎に続いて直立し、長さ10～20cm、そのため花序は側生状に見える。小穂は長楕円形、長さ1～1.7cm、幅5～7mm、先端は鋭頭、黄褐色、鱗片は狭卵形で、長さ4～5mmである。果実は倒卵形、レンズ状で長さ約2mm、暗褐色で光沢はなく、刺針状花被片は4個で、果実のほぼ2倍の長さがある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

津具（芹沢 78745）、作手（小林 53302）、瀬戸尾張旭（塚本威彦 2718）、日進長久手（芹沢 75999）。三好（黒笹、芹沢 53101, 1989-9-7）にもあったが絶滅した。このほか、新城（富岡、加藤等次 s.n., 1963-9-8）、刈谷知立（刈谷市井ヶ谷町、加藤潤子 125, 1978-7-3）、名古屋北部（守山区上志段味、飯尾俊介 85, 1964-8-31）、名古屋南東部（桶狭間、稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109995）で採集された標本もある。

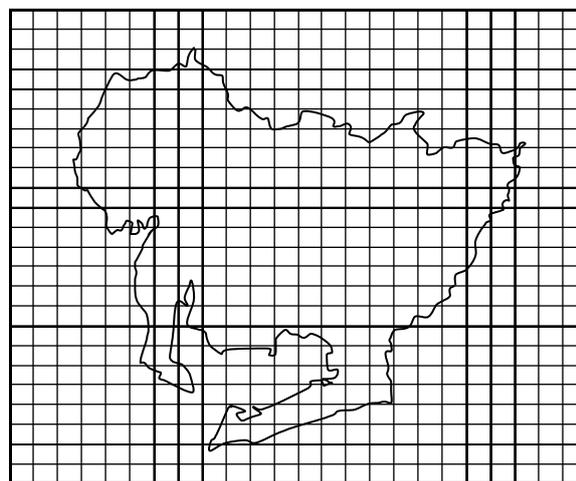
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の池沼の、浅い水中に生育する。愛知県では丘陵地の奥や山間部にある小規模なため池に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。刈谷知立では、水質汚濁により絶滅した（ミスミイの項参照）。三好では、生育地の丘陵が宅地造成で削られ、絶滅した。また瀬戸市では、東海環状自動車道の建設により生育地が埋め立てられ、絶滅した。

### 【保全上の留意点】

生育地のため池を保全することが必要である。特に改修の際には、配慮が必要である。

### 【特記事項】

テガヌマイとも呼ばれる。この名は、千葉県の手賀沼に因むものである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.217、平草本Ⅰp.179、SOS旧版p.108。

## ミカワシンジユガヤ *Scleria mikawana* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向が著しい湿地性植物で、愛知県でも同様の状況である。

### 【形態】

1年生または多年生の草本。根茎はなく、根は赤紫色である。茎は少数が束生して直立し、灰緑色、3稜形、高さ30~100cmになる。葉は茎上に互生してほぼ直立し、細い線形、長さ10~40cm、幅2~5mm、先は次第に細まり鈍端、葉鞘は長さ2~7cmで密に茎を包み、稜は鋭いが翼はない。花期は7~10月、花序は茎の先端と上半部の葉腋につき、2~4個、長さ2.5~4cm、枝は斜めに立ち、腋生のものの柄はほとんど葉鞘内にかくれる。小穂は長さ約5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径2~2.5mm、網目状の紋があり、はじめ緑白色であるが、熟すと黒灰色になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊川宝飯(芹沢 60100)、豊橋北部(小林 19893)、三好(芹沢 78255)、日進長久手(芹沢 74367)、東海知多(芹沢 74329)、半田武豊(芹沢 80854)、常滑(芹沢 56616)、名古屋南東部(渡辺幸子 5150)。名古屋北部(守山区上志段味、芹沢 56983, 1990-9-12)にもあったが絶滅した。このほか新城(有海原, 加藤等次 s.n., 1957-9-13)、豊橋南部(高師原, 恒川敏雄 s.n., 1942-8-28, TNS)、刈谷知立(刈谷市井ヶ谷町, 芹沢 38111, 1983-9-17)、瀬戸尾張旭(旭町新居, 加藤秀次郎 s.n., 1941-9-7, TNS)、豊明東郷(豊明町, 井波一雄 s.n., 1967-8-26, TNS)で採集された標本もある。

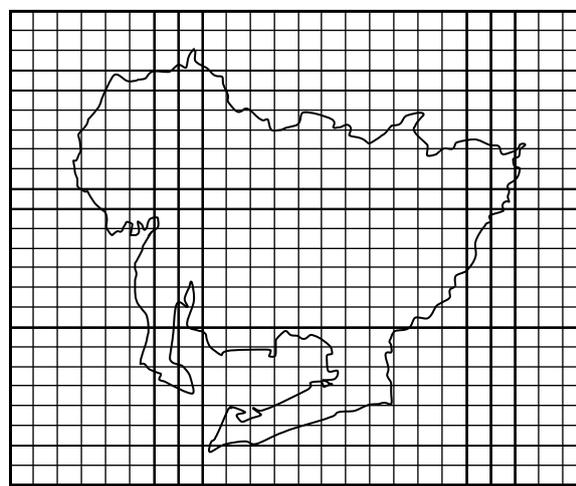
#### 【国内の分布】

本州(千葉県以西)、九州の湿地にややまれに生育する。

#### 【世界の分布】

日本、ニューギニア、インド、アフリカに分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の日あたりのよい湿地に生育する。多少攪乱された場所に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

「ミカワ」の名があるが西三河、東三河では少なく、むしろ尾張に多い。点在するがほとんどの場所は小群落である。湿地の消失に伴い絶滅した例も多い。その一方で、豊橋市葦毛湿原では一時ほとんど見られなくなったが、湿原回復のためイヌツゲを除去したところ、再度出現した。

### 【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。葦毛湿原の例から判断すれば、富栄養化を伴わない軽度の攪乱は、本種の存続のためにはかえって好都合らしい。もちろん大規模な攪乱があれば、消滅してしまう。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.255、平草本Ⅰp.169、SOS旧版p.108、環境庁p.393、SOS新版p.107,108。

ナツエビネ *Calanthe reflexa* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。自然度の高い林内に生育するラン科植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20～40cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 3～5 個つき、長楕円形、長さ 10～30cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、表面は光沢がなく帯白緑色、このほか茎上に 1～2 個の鱗片葉がつく。花期は 7～8 月、花は茎の上部にまばらに 10～20 個つき、淡紅紫色、苞は披針形、長さ 1～2cm である。背がく片は狭卵形、側がく片は斜卵形、いずれも長さ 15～20mm で鋭尖頭、側花弁は線形でがく片よりやや短い。唇弁は心状広卵形、3 深裂し、幅 7～10mm、中裂片はくさび状広楕円形で辺縁は細波状となり、先端は突出し、隆起条はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(村松正雄 11835)、鳳来北東部(芹沢 59880)、鳳来南部(加藤等次 739)、作手(小林 54168)、蒲郡御津(小林 79818)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 1337)、春日井(日比野修 3014)。津具からも報告されている(小林, 2006)。豊根(下黒川, 加藤等次 s.n., 1967-8-25)で採集された標本もある。西三河ではまだ発見されていない。

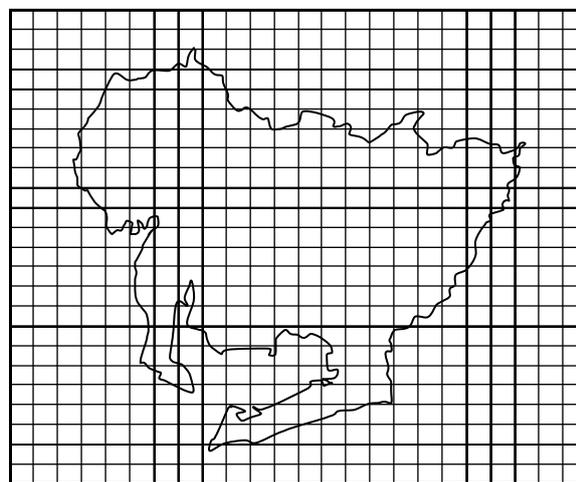
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。エビネと異なり、丘陵地の二次林のような場所には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河の山地には比較的多かったが、エビネブームで乱獲され、激減した。現在では目に付きにくい場所に僅かに残存しているにすぎず、すでに絶滅してしまった場所も多い。

【保全上の留意点】

エビネと同様園芸目的の採取圧が強く、見つかれればすぐ掘り取られてしまう。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本には十数種のエビネ属植物が知られているが、愛知県に確実に自生しているのはエビネと本種だけである。エビネと異なり花弁の色彩や形状の変異は少なく、古典園芸の対象とはされていなかった。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.240. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.54、平草本Ⅰp.225、SOS 旧版 p.109、環境庁 p.611、SOS 新版 p.27,29.

ユウシュンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。半腐生のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 8~20cm になる。葉は互生し、退化して鱗片状となるか、あっても小型で長さ 2cm 以下である。花期は 5~6 月、花は茎の上部に数個つき、白色、直立して平開せず、下部の苞はやや葉状となる。がく片は披針形、長さ 7~9mm、先端はややとがる。側花弁は広披針形、がく片よりやや短く、唇弁は基部が筒状の距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は 3 角形、中裂片は楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部 (小林 51143)、藤岡 (鳥居ちゑ子 1052)、豊田北西部 (畑佐武司 3097)。東栄にもあるという (小林, 2006)。

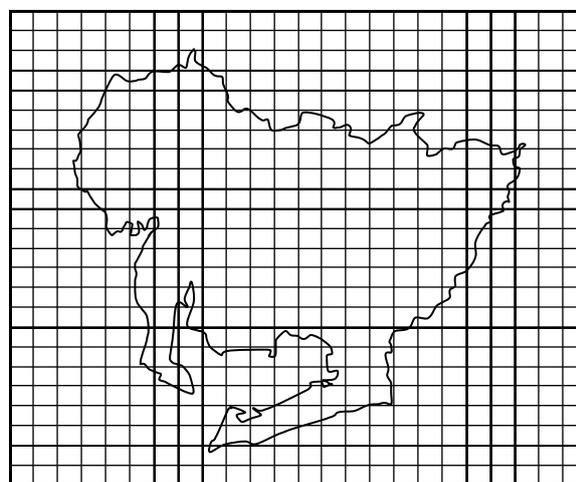
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としては、日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3 カ所で確認されているが、どの場所でも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

基準変種のギンラン var. *erecta* は、葉が大きく、長さ 3~5cm になる。クゲヌマラン var. *shizuoi* (F. Maek.) Ohwi は海岸部に生育し、唇弁の距が短いもので、知多南部 (南知多町) から記録されている (井波, 1971) が、標本での確認が必要である。もし本当にあったものならば、絶滅した可能性が高い。ユウシュンランの彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 8 に掲載されている。

【引用文献】

井波一雄, 1971. 尾張の植物—高等植物相—. 愛知の植物 p.29-47. 愛知県高等学校生物教育研究会, 名古屋.  
小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.240. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.30、平草本Ⅰp.208、環境庁 p.612。

クマガイソウ *Cypripedium japonicum* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。地下茎は長く横にはう。地上茎は高さ 20~40cm で、毛を密生する。葉は下部の数個は鞘状となり、上部の 2 個は大きく対生状、扇円形で長さ 10~20cm、放射状に多数の脈があり、先端は広いくさび形~切形で凸端、多くの縦ひだが目立ち、裏面に微毛がある。花期は 4~5 月、花は茎の先端に 1 個つき、横向きで大きく、直径約 10cm、苞は長楕円形~狭卵形、長さ 3.5~4.5cm、先端は鋭尖頭である。背がく片は卵状楕円形で長さ 4~5cm、側がく片は 2 枚が合着して広卵状船形となり、側花弁は卵状披針形、いずれも淡黄緑色、唇弁は大きな袋状、ほぼ白色で紅紫色の脈がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具(片桐みな子 1)、東栄(小林 63760)、設楽東部(小林 51149)、鳳来北東部(加藤等次 3374)、鳳来北西部(今泉修市 1)、作手(芹沢 79707)、稲武(小林 43055)、足助(山崎玲子 1886)、豊田東部(山崎玲子 1833)、瀬戸尾張旭(大谷敏和 22)。鳳来南部(浅間山, 小林 25388, 1983-5-9)、新城(浅谷, 加藤等次 s.n., 1957-4-25)、豊川宝飯(一宮町松原, 加藤等次 s.n., 1957-4-21)、豊橋北部(中山, 恒川敏雄 s.n., 採集日不明 TMNH)、旭(小渡~寺山, 大原準之助 s.n., 1966-5-5)などで採集された標本もある。

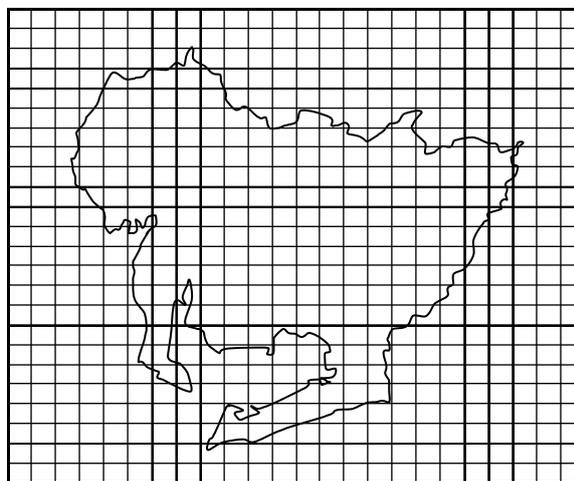
【国内の分布】

北海道(南西部)、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や山麓の落葉広葉樹林内、竹林内などに生育し、通常群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も小群落があるにすぎない。山草愛好家に最も狙われる植物の一つで、見つければ全滅は必至である。全国的にも同様の状況で、新聞などで紹介されたところ、翌日にはなくなってしまったという話も多い。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。カメラマンや物見高い観察者による攪乱も危惧される。本人が採取しなくても、その足跡をたどって他の人が群落に到達することもある。

【特記事項】

和名は、袋状の唇弁を熊谷直実が背負った母衣に見立てたもので、アツモリソウの平敦盛に対する名である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.7、平草本Ⅰp.191、SOS 旧版 p.110+図版 4、環境庁 p.614、SOS 新版 p79,81。

コイチヨウラン *Ehippianthus schmidtii* Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。寒冷地性の小型のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は糸状で横にはい、先端に 1 枚の葉と花茎をつける。葉は長さ 2~5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 1.5~3cm、幅 1~2.5cm、先端は鈍頭、基部は浅い心形である。花期は 7~8 月、花茎は細く高さ 10~20cm になり、花はその上部にまばらに 2~7 個つき、小さく淡黄白色~淡黄緑色、苞は膜質で長さ約 1mm である。がく片は長楕円形、長さ 5~6mm、幅 1.5~2mm、先端は鈍頭、側花弁はやや短い。唇弁は長楕円形で、がく片とほぼ同長、全縁である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (小林 33762)。1 カ所で確認されているだけである。

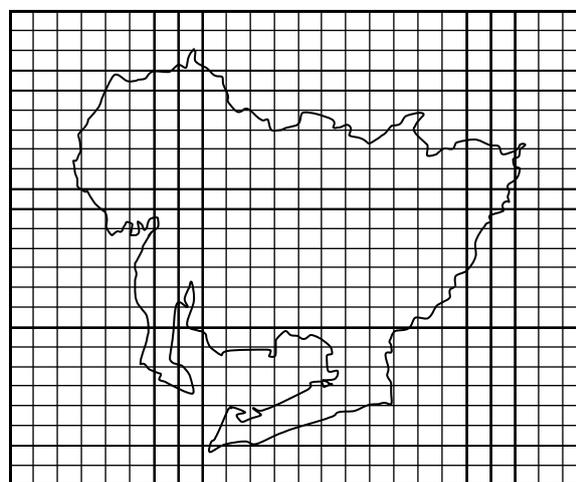
【国内の分布】

北海道、本州中北部、四国。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の主として針葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少ない。ラン科としてはあまり目立たない植物で、今のところ現状は維持されているが、伐採や牧場化などで失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全する必要がある。

【特記事項】

コイチヨウラン属は日本とその周辺に固有で、本種とハコネラン *E. sawadanus* (F.Maek.) Ohwi の 2 種からなる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.45、平草本Ⅰp.220、SOS 旧版 p.113。

タシロラン *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 1。近年全国的に増加している腐生ランであるが、愛知県では現在のところ生育地が少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2~4cm、直径 1~2cm の楕円形の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 25~40cm、黄白色、5~7 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 7 月、茎の上部に茎と同色の花を 10~20 個つける。苞は広披針形~卵形、長さ 8~12mm である。がく片は狭披針形、長さ 8~9mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は卵形、がく片とほぼ同長、全縁、外面はふくれ、内面に 2 本のトサカ状の隆起条があり、距は楕円形、長さ 3~4mm である。果実は花後まもなく熟し、地上部はやがて消失する。

【分布の概要】

【県内の分布】

蒲郡(小林 79625)、知多南部(近藤洋一朗 9439)。

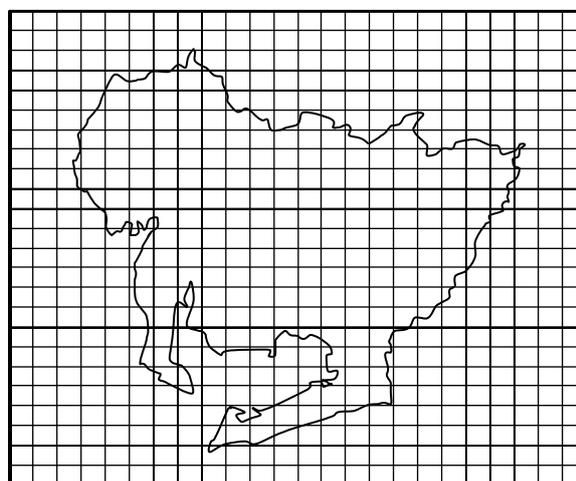
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

常緑広葉樹林の暗い林床に生育する。もともとは極めて稀少な植物であったが、近年増加傾向にあり、あちこちで新しい自生地が報告されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

蒲郡は、「20 株ほどのまとまった群落であるが、ヒノキ林縁のビニールなどが放置されたヒカゲイノコズチ等が生える肥沃な平坦地で、とても自然度の高い所ではない」と報告されている(小林, 2004)。知多南部ではウバメガシ林の林床に 30 株程度が生育している。どちらも、おそらくは近年になって形成された集団である。

【保全上の留意点】

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。全国的に増加傾向にあるということから考えれば「絶滅は危惧されない」という判断も成り立つが、現状では県内の自生地が 2 カ所だけなので、他種と同様の基準で評価しておく。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.69-70. 愛知県東三河農林水産事務所, 豊橋。

【関連文献】

保草本Ⅲp.32、平草本Ⅰp.203。

アキザキヤツシロラン *Gastrodia verrucosa* Blume

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。里山に生育する腐生植物で、生育地に対する開発圧力が高い。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2.5～5cm、直径 4～10mm の紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 5～12cm、数個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 9 月下旬～10 月、茎の先端部に黒褐色の花を 2～6 個つける。苞は卵形、長さ 3～6mm である。花は 3 がく片が合着して長さ 10～12mm の鐘状になり、花柄は花時には長さ 1cm 以下であるが、花後著しく伸長して 30～45cm に達する。果実は晩秋に熟し、細長い楕円形、長さ 2～3.5cm、直径 7～8mm、暗黄褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 78878）、田原赤羽根（芹沢 80455）、渥美（山崎玲子 2877）。

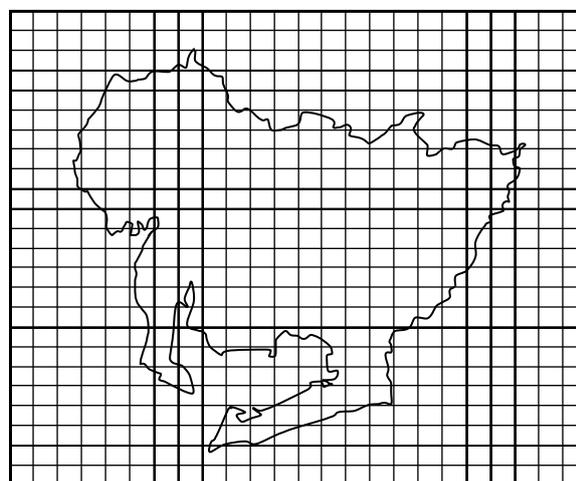
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本からマレーシアにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の常緑広葉樹林、竹林などの林床に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋市から渥美半島にかけて点在しており、個体数も場所によってはかなり多い。過去からの増減ははっきりしないが、里山の森林化の進行により増加傾向にあるのではないと思われる。

【保全上の留意点】

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2001 植物編発行後に愛知県での生育が確認された種類である。地表近くに黒褐色の花をつけるため、花時にはほとんど発見できない。クロヤツシロラン *G. pubilabiata* Sawa からは、花がややまばらにつき、唇弁の上面に毛がないことで異なる。クロヤツシロランは愛知県では比較的多く、鳳来北東部、新城、豊川宝飯、蒲郡御津、豊橋南部、田原、豊田東部、幡豆、瀬戸尾張旭、名古屋北部などで確認されており、今回の見直しではランク外と判定された。

【関連文献】

保草本Ⅲp.27、平草本Ⅰp.204。

シユスラン *Goodyera velutina* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も少なく、また園芸目的の採取により減少している。

【形態】

多年生草本。茎は横にはい、先端は斜上して高さ 10～15cm になる。葉は数個が互生し、長さ 1～1.5cm の柄があり、葉身は長卵形、長さ 2～4cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭、表面は紫色を帯びた暗緑色でビロード状の光沢があり、中央の白条が目立つ。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 8～9 月、花は茎の上部に一方に偏って 4～10 個つき、淡褐色、苞は線状披針形、長さ 6～12mm である。がく片は狭卵形、長さ 7～8mm、花序の軸や子房と共に白色の短毛がある。側花弁は広倒披針形、背がく片に接してかぶと状になり、唇弁はがく片とほぼ同長、基部はふくらみ、舷部は卵形で全縁、内面に毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 39423）、蒲郡御津（小林 77393）、幸田（小林 59088）、幡豆（芹沢 71144）。瀬戸尾張旭（上半田川町、日比野修 814, 1992-9-14）にもあったが絶滅した。

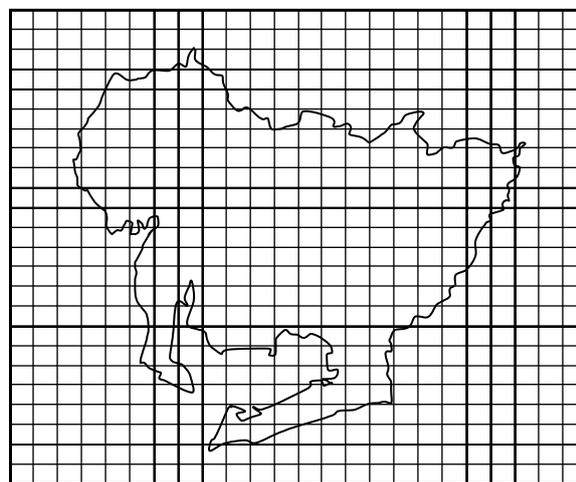
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の常緑広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。瀬戸市では 2 カ所にあったが、山草愛好家に持ち去られたらしく全く見られなくなった。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、光沢のある葉の感じを繻子に例えたものである。ビロードランとも呼ばれるが、これも葉の光沢による名で、ビロード状の短毛があるわけではない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.40、平草本Ⅰp.213。

ノビネチドリ *Gymnadenia camtschatica* (Cham.)Miyabe et Kudo

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。寒冷地性のラン科植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。根は一部円柱状に肥厚する。茎は直立し、やや太く、高さ 30～60cm になる。葉は 5～10 個が互生し、楕円形～狭長楕円形、長さ 7～15cm、幅 2～6cm、先端は下部の葉では鈍頭、上部の葉では鋭頭、基部は茎を抱いて葉鞘となり、辺縁は波状に縮れ、脈は裏面に隆起する。花期は 5～7 月、花は茎の上部に穂状となって多数つき、淡紅紫色、苞は披針形、花と同長かそれよりやや長い。がく片は狭卵形で長さ約 5mm、側花弁は斜卵形でがく片より短い。唇弁はくさび状広卵形、がく片よりやや長く、先端は 3 浅裂し、中裂片は側裂片より短い。距は湾曲して前を向き、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（村松正雄 15206）、津具（小林 45467）。設楽西部（名倉市ノ瀬、鳥居喜一 12262, 1957-6-2, HNSM）、稲武（井山峠、鳥居喜一 12261, 1961-5-18, HNSM）で採集された標本もある。

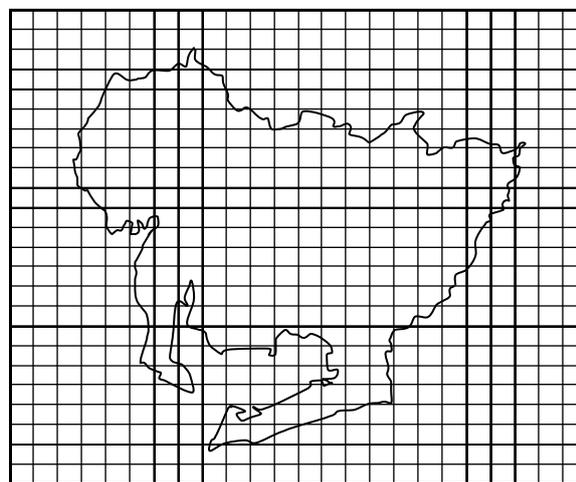
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカ、サハリン、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の明るい林内や林縁の草地に生育する。時に林道わきの草地などにも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

散発的に生育しているだけで、個体数は極めて少ない。紅紫色の花をつけるため、園芸目的で採取されることも多い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んではいないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらう必要がある。

【特記事項】

和名は根が円柱状に伸びるからで、テガタチドリに対する名である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.15、平草本Ⅰp.201、SOS 旧版 p.111。

**サギソウ** *Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.

**【選定理由】**

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

**【形態】**

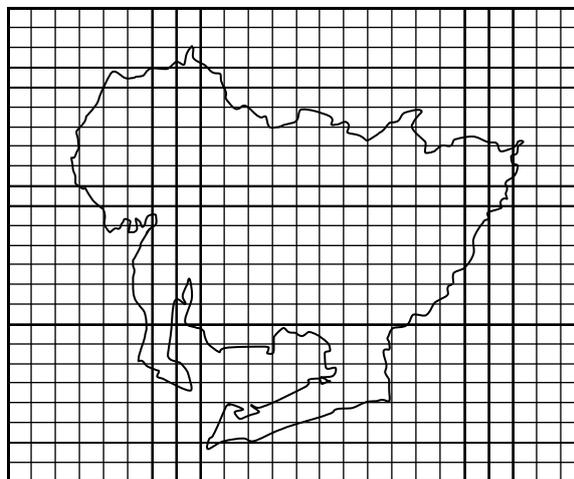
多年生草本。地下に走出枝があり、その先端に楕円形で長さ 7~15mm の球茎をつける。茎は直立し、高さ 15~40cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 3~5 個が互生し、葉身は広線形、長さ 5~10cm、幅 3~6mm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は 7~8 月、花は茎の先端に 1~3 個つき、直径約 3cm で白色、苞は卵状披針形、長さ約 5mm である。がく片は緑色、広卵形または斜卵形、長さ約 8mm、側花弁は白色で斜卵形、背がく片と並んで立ち、下部外縁に鋸歯がある。唇弁は大きく 3 深裂し、中裂片は披針形、側裂片は側方に開出して斜扇形、辺縁は深く細裂する。距は斜めに下垂し、長さ 3~4cm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

作手(芹沢 56016)、豊川宝飯(芹沢 56115)、豊橋北部(芹沢 56301)、旭(小林 57832)、足助(芹沢 55961)、藤岡(芹沢 55987)、豊田東部(芹沢 60059)、豊田北西部(芹沢 77971)、三好(芹沢 53091)、額田(小林 53063)、岡崎北部(芹沢 52786)、岡崎南部(芹沢 52802)、幸田(芹沢 53263)、刈谷知立(芹沢 41745)、瀬戸尾張旭(芹沢 76141)、日進長久手(半田多美子 3170)、豊明東郷(芹沢 59863)、東海知多(岡島錦也 816)、犬山(芹沢 60253)、小牧(日比野修 4134)、春日井(芹沢 56242)、名古屋北部(鳥居ちよ子 479)、名古屋南東部(芹沢 56194)。設楽西部(川向、芹沢 55923, 1990-7-25)にもあったが絶滅した。上記区画のいくつかでもすでに絶滅した可能性がある。渥美半島と知多半島中南部では未確認である。

要配慮地区図



**【国内の分布】**

本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、台湾、朝鮮半島。

**【生育地の環境 / 生態的特性】**

丘陵地の日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

白鷺に似た美しい花をつけるランで、園芸目的で多量に採取され、全国的には絶滅状態の場所も少なくない。愛知県では現在のところまだところどころで観察できるが、園芸目的の採取や丘陵地の開発により、過去に比べれば大きく減少している。地下に子球をつけるため、繁殖力は比較的旺盛であるが、増加したと思って見ていると、ほとんど全部掘り取られてしまうことも多い。

**【保全上の留意点】**

本種の場合、人工的な供給方法が確立されており、市場価格もそれほど高いものではないが、それでも山採りは止むことがない。大量に安価に供給すれば園芸目的の採取はなくなると思うのは、幻想にすぎない。自然の花と庭の花は別のものと考えることが必要で、そうでない限り、現在はまだまだかなりある本種も、いつかは絶滅させられてしまう。

その一方で本種は、消えゆく湿地性植物の代表として、しばしば自然湿地への植え戻しが行われている。しかし、植え戻しはその場所にまだ残存している他の植物に大きな打撃を与えるだけでなく、しばしば遺伝的汚染や病虫害の導入を招き、そこに残存している自然個体群に対する「最後のとどめ」になる。人為的な付け加え行為は、たとえ善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威であることを忘れてはならない。本種なら、生育できる条件を壊さずに気長に待てば、そのうち自然に分布を拡大してくるはずである。

**【関連文献】**

保草本Ⅲp.7、平草本Ⅰp.193、SOS 旧版 p.111+図版 18、環境庁 p.615、SOS 新版 p.111,113。

ミズトンボ *Habenaria sagittifera* Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも開発や園芸目的の採取により、減少傾向にある。

【形態】

多年生草本。楕円形で長さ1~2cmの球茎がある。茎は3稜があり、直立して高さ40~70cm、時には150cm近くになる。葉は茎の下半分につき、鞘状のものを除いて数個が互生し、葉身は線形、長さ5~20cm、幅3~6mm、先端は長くとがり、基部は茎を抱いて葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は7~9月、花は茎の上部にやや多数が穂状につき、直径8~10mmで淡緑色、苞は線状披針形、長さ8~15mmである。背がく片は円心形、長さ約4mm、側がく片は長さ約5mm、幅約6mm、側花弁は斜卵形で、背がく片と並んで立つ。唇弁は長さ1.5~2cm、3裂して十字形となり、側裂片は上を向く。距は下垂し、長さ約15mm、先端は球状にふくらむ。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手(芹沢 56017)、新城(小林 58038)、足助(芹沢 53198)、藤岡(芹沢 53452)、豊田東部(芹沢 53154)、三好(芹沢 64040)、岡崎北部(芹沢 68110)、瀬戸尾張旭(塚本 2986)。豊田北西部(猿投山, 岡本英一 279, 1958-8-28)、額田(宮崎村, 井波一雄 s.n., 1952-9-16, CBM200029)、犬山(石洞, 井波一雄 s.n., 1958-9-23, CBM222860)名古屋北部(守山区上志段味, 飯尾俊介 36, 1964-8-22)、名古屋南東部(平針~白土~天白, 稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101191)で採集された標本もあるが、これらの区画では現存を確認できない。

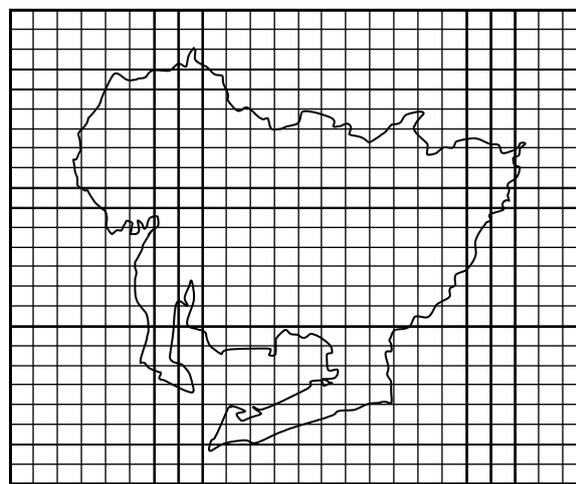
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地~山地の湿地に生育する。谷戸の休耕田に生育することもある。日あたりのよい場所に多いが、林縁部にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地はそれほど多くないが、ある場所ではしばしばかなりの個体数が見られる。開発による生育地の破壊と園芸目的の採取が、減少の主要因である。休耕田に生育している場合は、遷移が進行すればそのうちに見られなくなる可能性が高い。瀬戸市曾野町では、ヨシやササが繁茂して見られなくなった。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、湿地に生育し、唇弁の形状がトンボに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.8、平草本Ⅰp.193、環境庁p.615、SOS新版p.111,113。

## ホクリクムヨウラン *Lecanorchis hokurikuensis* Masamune

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。愛知県では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 8~30cm、直径約 2mm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して屈曲しながらまばらに分枝し、地表近くまで伸びる。地上茎は直立し、高さ 25~40cm、淡褐色、4~6 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 8~13mm、先端は鋭頭である。花期は 5~6 月、花は茎の先端部にやや集まって 4~8 個つき、長さ 2~10cm の総状花序となり、淡紫褐色、筒状でほとんど開かず、苞は三角形で長さ 3~7mm である。がく片は倒披針形、長さ 16~22mm、幅約 3mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は倒披針形、長さ 15~18mm、3 裂するが側裂片は小さく、中裂片は縦に長い台形で肉質の毛状突起が密生する。ずい柱の遊離部は倒狭卵形、通常側部に小突起があるが、ほとんど目立たないこともある。花が紫色を帯びず鮮黄色のものをキイムヨウラン form. *kiiense* (Murata) Seriz. という。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋北部 (小林 64135)、田原赤羽根 (小林 75010)、足助 (山崎玲子 1679)、瀬戸尾張旭 (芹沢 76783)、春日井 (山田果与乃 706)。県内での分布は丘陵地に限られている。豊根、設楽からも記録されている (小林, 2006) が、豊根の標本 (小林 44004) はムヨウランであり、設楽も写真を見る限りではムヨウランと思われる。

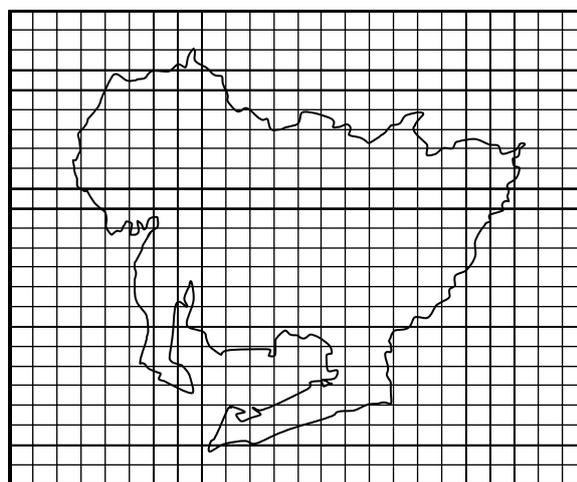
#### 【国内の分布】

本州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の常緑広葉樹、または落葉広葉樹の二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。マニアの採取や物見高い自称自然愛好家の殺到による踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

ムヨウランからは、ずい柱に小突起があることのほか、花が茎の先端に集まってつき、筒状部が太く、開花時にも平開しないことで区別される (芹沢, 2005)。花期はムヨウランと同じである。井波 (1971) のムヨウランの図はホクリクムヨウランで、ずい柱の小突起も示されている。

### 【引用文献】

井波一雄, 1971. 尾張の植物—高等植物相. 愛知県の植物 p.29-47. 愛知県高等学校生物教育研究会, 名古屋.  
小林元男, 2006. 北設楽の植物 写 27, p.242. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.  
芹沢俊介, 2005. 愛知県のムヨウラン類. 分類 5: 33-38.

### 【関連文献】

平草本 I p.205.

クロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honda

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 3~10cm、木質で硬く、長さ 5~6mm の鱗片葉をつける。地上茎は直立し、高さ 15~20cm、細くて硬く、暗褐色、3~5 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 3~4mm でやや光沢がある。花期は 8 月、花は茎の先端部に集まって 5~10 個つき、淡紫色、筒状で半開し、苞は広三角形で長さ 1~2mm である。がく片は倒披針形、長さ 12~15mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁はがく片よりやや短く、3 裂せず、先端部だけに毛状突起がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 78730）、豊橋南部（小林 46468）、渥美（小林 72991）。

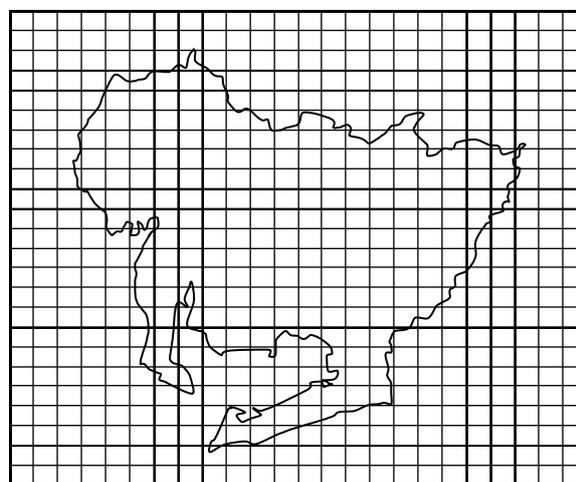
【国内の分布】

本州（中西部）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

常緑広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も個体数は少ない。豊橋南部の生育地一帯はゴルフ場や産業廃棄物処分場などが計画されており、開発による消失が懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【特記事項】

他のムヨウラン類に比べ、花期が著しく遅い。果実期でも、茎が細くて光沢があり、果実が先端に集まってつくので、他種から区別できる（芹沢, 2005）。

【引用文献】

芹沢俊介, 2005. 愛知県のムヨウラン類. 分類 5: 33-38.

【関連文献】

保草本Ⅲp.28、平草本Ⅰp.206.

セイタカスズムシソウ *Liparis japonica* (Miq.)Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。山地性のラン科植物で、県内では個体数が少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20～40cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1～2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は楕円形、長さ 6～12cm、幅 3～5cm、先端は鈍頭、基部はくさび形でやや鞘状に茎を抱く。花期は 7～8 月、花は花茎の上部に多数がややまばらにつき、多少なりとも紫を帯びた緑色、苞は卵状 3 角形、長さ 1～1.5mm である。がく片は線状披針形、長さ 8～10mm、先端は鈍頭、側花弁は糸状である。唇弁は倒卵形、長さ 7～8mm、幅約 5mm、先は円頭で凸端、辺縁には細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 44863)、豊根 (小林 52365)、津具 (小林 44247)、東栄 (小林 38228)。

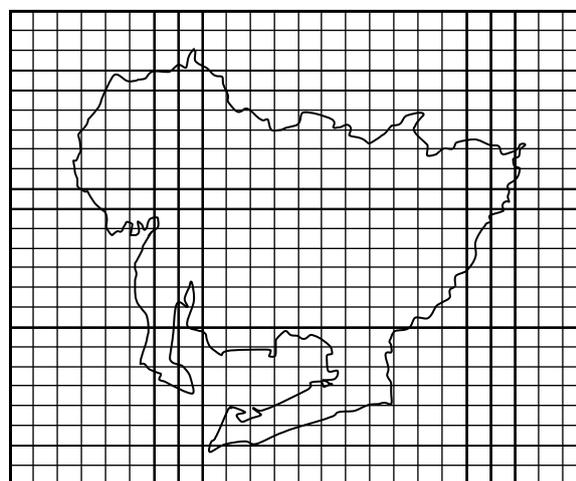
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

数カ所で確認されているが、どの場所でも個体数は少ない。山草愛好家に発見されれば、消滅の可能性が高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

スズムシソウに比べ、植物体は大きく、花は小さい。

【関連文献】

保草本Ⅲp.51、平草本Ⅰp.219。

コフタバラン *Listera cordata* (L.)R.Br. var. *japonica* H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は細く長くはう。地上茎は細く、直立し、高さ 10～20cm になる。葉は茎の中部に 2 枚が対生し、葉身は 3 角状広卵形、長さ幅ともに 1～2cm、先端は鋭頭、基部は広くさび形～切形である。花期は 6～8 月、花は茎の上部に 4～10 個つき、小さく緑黄色、苞は 3 角状卵形で開出し、長さ約 1mm である。がく片は長楕円形、長さ 2～3mm、先端は鈍頭、側花弁はがく片とほぼ同長である。唇弁は平開し、くさび形、長さ 3～4mm、基部に小裂片があり、先端は 2 深裂して広く開き、裂片は線形で鋭頭である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（小林 37470）、設楽西部（小林 37179）、足助（山崎玲子 2188）。

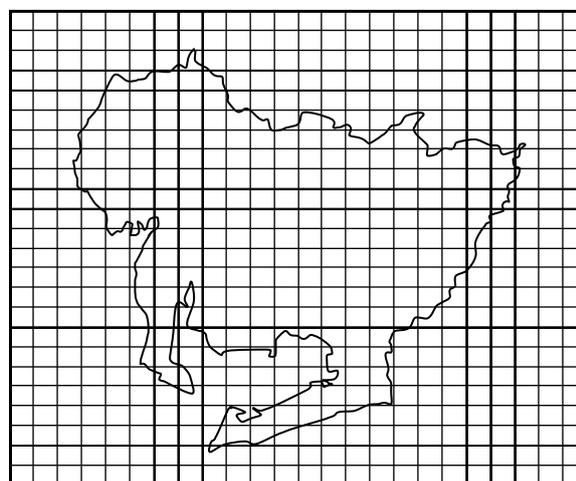
【国内の分布】

北海道、本州（中北部）、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。種としてはユーラシア大陸北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の、主として針葉樹林内に生育する。愛知県の場合は、落葉広葉樹林内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3 区画の各 1 カ所に小群落があるだけである。小型の植物なので、個体数階級が 3 でも実際の量は僅かである。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

単にフタバランと呼ばれることもある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.36、平草本Ⅰp.209、SOS 旧版 p.113。

ニラバラン *Microtis unifolia* (Forst.)Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。暖地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。楕円形で長さ 5～8mm の球茎がある。茎は淡緑色でやわらかく、無毛、高さ 10～40cm になる。葉は茎の下半分につき、鞘状のものを除けば 1 個、葉身は線形で断面は円く、長さ 15～25cm、直径 2～2.5mm、基部は長い鞘となって茎をつつむ。花期は 4～5 月、花は茎の上部に 20～30 個、やや密な穂状につき、小さく淡緑色、苞は広披針形で長さ 2～4mm である。背がく片は広卵形、長さ約 2mm、側がく片と側花弁は長楕円形でやや短い。唇弁は舌状、背がく片とほぼ同長、先端は切形、基部の両縁に突起がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（芹沢 73547）。岡崎南部（若松町，大原準之助 s.n., 1952-6-10）で採集された標本もある。

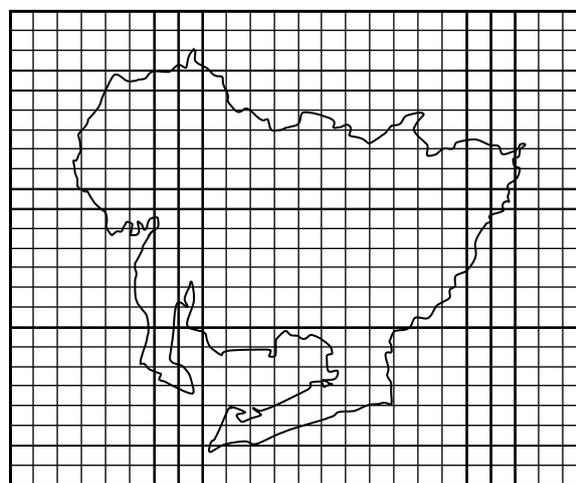
【国内の分布】

本州（千葉県以南）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、フィリピン、マレーシア、オーストラリアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの、日あたりのよいやや湿った草地や半裸地に生育する。路傍などの攪乱地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は 1 カ所だけであるが、そこでの個体数は比較的多い。この場所は草刈り等的人為的な管理が続けられており、現状通りに管理されれば、当面は存続するものと思われる。岡崎南部では、丘陵地の開発によって生育地が破壊され、絶滅したという。

【保全上の留意点】

丈の低い草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

和名は、細い円柱状の葉による。

【関連文献】

保草本Ⅲp.24、平草本Ⅰp.202、SOS 旧版 p.113、SOS 新版 p.83,85。

ミズチドリ *Platanthera hologlottis* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。湿地性の植物で、開発や園芸目的の採取により、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。根は肥厚して水平に伸びる。茎は直立し、高さ 50～90cm になる。葉は互生して斜上し、下方の 4～6 枚は大型、葉身は線状披針形で長さ 10～20cm、幅 1～2cm、先端は鋭尖頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は次第に小さくなる。花期は 6～7 月、花は茎の上部の長さ 10～20cm の花序に多数つき、白色で芳香があり、苞は線状披針形で花より長い。背がく片は楕円形、長さ 4～5mm、側がく片は長楕円形、長さ 6～7mm、側花弁は斜卵形で、背がく片に接してかぶと状となる。唇弁は倒卵形、長さ 6～8mm、先端は円頭、距は長さ 10～12mm で、細く下垂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 49217）、設楽西部（瀧崎吉伸 21287）、作手（芹沢 55862）、稲武（塚本威彦 2317）、足助（深見・畑佐 306）。

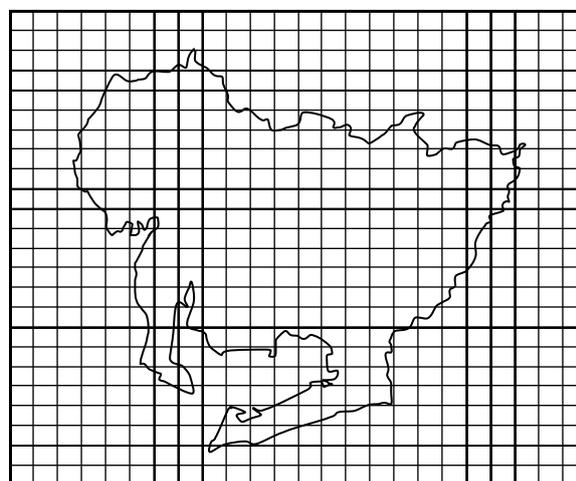
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所も個体数は少ない。白い花が目立つため、園芸目的で採取されることが多い。一部の産地ではすでに絶滅した可能性がある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

花に芳香があり、ジャコウチドリとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.23、平草本Ⅰp.196。

**ヤマサギソウ** *Platanthera mandarinorum* Reichb.f. var. *brachycentron* (Franch. et Sav.)Koidz.

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。草地性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、また生育できるような草場が減少している。

**【形態】**

多年生草本。根は紡錘状に肥厚する。茎は直立し、やや稜があり、高さ 20~40cm になる。葉は互生し、下部の 1 個が大きく、葉身は線状長楕円形、長さ 5~11cm、幅 1~1.5cm、先端は鈍~鋭頭、基部はわずかに茎を抱き、葉鞘となる。上部の葉は次第に小さくなり、鱗片状となる。花期は 5~7 月、花は茎の上部に 8~12 個が穂状につき、黄緑色、苞は披針形で、長さ 7~13mm である。背がく片は広卵形、長さ約 4mm、側がく片は披針形、長さ 6~8mm、側花弁は広卵形で、背がく片よりやや長い。唇弁は線状披針形で長さ 7~10mm、先端は鈍~円頭、距は長さ 10~20mm で後方に伸びる。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

作手 (小林 61257)、下山 (芹沢 61335)、常滑 (中井三従美 s.n.) の 3 区画で生育が確認されている。鳳来 (区画不明、小林, 2000)、豊橋北部 (小林, 2001)、知多南部 (篠島、小林・深谷, 2008) から報告されている。豊橋南部 (二川町天伯, 鳥居喜一 12290, 1950-5-22, HNSM) や豊田北西部 (保見村田初, 井波一雄 s.n., 1934-6-10, CBM264609) で採集された標本もある。

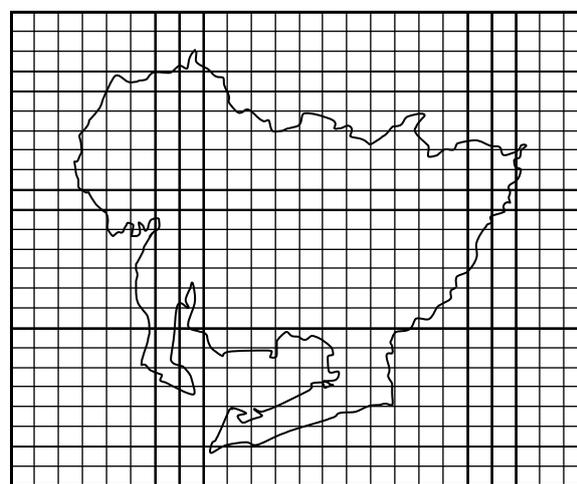
**【国内の分布】**

北海道、本州、四国、九州に生育する。

**【世界の分布】**

サハラ、日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

日あたりのよいやや湿った草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

どの場所も少数の個体が生育しているだけである。もともとそれほど多いものではなかったと思われるが、草地の減少により更に稀少な植物になっている。

**【保全上の留意点】**

愛知用水などの幹線水路沿いの草地は、定期的に草刈りが行われるため、多くの草地性植物の逃避場所になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

**【引用文献】**

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.44, 186. 愛知県, 名古屋.  
小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.157. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.  
小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.201, 283. 佐久島会, 刈谷.

**【関連文献】**

保草本Ⅲp.21、平草本Ⅰp.197、SOS 旧版 p.114。

ヤマトキシウ *Pogonia minor* (Makino) Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。草地性のラン科植物で、愛知県でも減少傾向にある。現存する個体数はトキシウより少ないが、花が目立たないため園芸目的で採取されることはやや少なく、そのため絶滅危惧Ⅱ類と評価される。

【形態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、横にはう。茎は直立し、高さ 10~20cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、無柄、葉身は長楕円形、長さ 3~7cm、幅 4~12mm、先端は鈍~鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘を作らない。花期は 6~8 月、花は茎の先端に 1 個つき、淡紅色~ほとんど白色、上向きでほとんど開かず、苞は葉状で披針形、長さ 2~4cm である。がく片は線状倒披針形、長さ 1~1.5cm、側花弁はほぼ同長であるが、やや幅が広い。唇弁は長楕円形、がく片や側花弁よりやや短くて花外に出ず、3 裂するが側裂片は小型、中裂片は表面に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 59096)、設楽東部(小林 59670)、作手(小林 60370)、豊川宝飯(小林 44342)、足助(日比野修 3593)、下山(芹沢 61998)、豊田北西部(畑佐武司 1343)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 130)、知多南部(芹沢 77367)、春日井(日比野修 2269)。新城(中宇利, 小林元男 12508, 1976-6-7)で採集された標本もある。

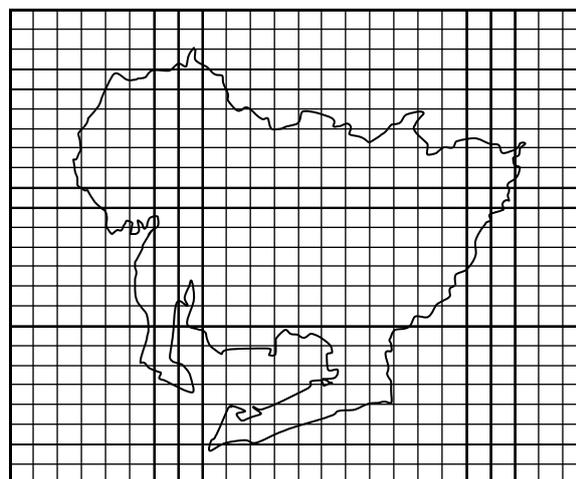
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地や湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地周辺、山間部の水田周辺の草地などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。丘陵地の開発、草地の利用停止に伴う大型草本の繁茂などにより、減少傾向にある。ササ類などの繁茂で絶滅した、あるいは絶滅寸前の場所もある。トキシウほどではないが、園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

里草地の保全が必要である。また園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。こんなものまで公表を避けていたら開発を防げないという意見も出そうだが、ラン科植物に対する採取圧はそれほどすさまじかった。しかし最近は多くの人の目が厳しくなり、事態は多少改善されつつある。山草栽培に対する厳しい目を持ち続けることが、多くのラン科植物を絶滅の危機から救う最も効果的な方法である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.26、平草本Ⅰp.205。